

與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇原判決第二項ノ趣旨ニ依レハ前掲判文ニ所謂此等ノ事ニ關與シタリトハ上告人ノ營業上ニ關與シタリトノ意ニシテ原院口頭辯論調書ヲ閱スルニ上告人カ丙第一號證ハ認メス彌助ハ雇人ニシテ控訴人ノ公債ヲ抵當ニ入レルハ不正ノ所爲ナリト陳述シタル旨ノ記載アリテ彌助ハ上告人ノ公債證書ヲ抵當ニ入レル權限ナキ旨ヲ主張シタルモい印店ノ營業上ニ關與シタル事實ヲ爭ヒタル事跡ナシ然レハ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法アルニアラス

同第二點ハ上告人ハ原院ニ於テ被上告人安藤與藏ノ名義ヲ以テ米絲取引所仲買營業ヲナセシモ其實上告人ノ營業ニテ與藏ハ上告人ノ代理人トナリ營業セシモノナリ然シテ甲第一號ノ約旨ニ依レハ被上告人與藏ノ代理權限ハ米絲取引所ノ仲買營業ニ關スル外ニ取引ノ權限ナク而シテ取引所ニ對シテハい印仲買店ハ債務ナキニ被上告人與藏ハ顧客トシテ取引債務アリト云フモ這取引所ニ届出テサル取引ナルヲ以テ仲買營業トシテ爲スヘキモノニアラス隨テ被上告與藏カ顧客ニ對シテ負ヒタリト云フ債務ハ被上告人カ不法ノ行爲ニ出テ上告人ノ關知セサルモノナルヲ以テ上告人ニ其責ヲ負フヘキモノニアラス從テ被上告人與藏カ身元保證金ヲ取出シタルハ甲第一號約旨ニ背ク權限外ト爭ヒタリ而シテ此事實ハ原判決ニ於テモ認定シタルモノナレハ原院ハ此爭點事實ニ對シ代理人タル被上告人安藤與藏カ果シテ甲第一號證約旨ニ基キ正當ニ該營業ニ從事シ顧客ニ對シ債務ヲ負フニ至リタルモノナルヤ否ヤ尙ホ之ヲ換言セハ被上告人與藏カ顧客ニ對シテ債務ヲ負ヒタリト云フ乙第二號證ノ金額ハ被上告人與藏ニ於テ上

告人ノ代理トナリ營業シ甲第一號明文ノ如ク委任者タル上告人ニ對シ正當ナル商人ノ自分ノ事業ニ於テ爲スト同シク注意ヲ爲シタルモ猶且ツ損失ヲ爲シタルモノナルヲ將又與藏ノ怠慢ヨリ出テ損失ヲ招クニ至リタルモノナルヲ考究シタル上ナラテハ其債務ノ上告人ニ負擔スヘキモノナルヲ被上告人與藏ノ負フヘキモノナルヲ決定ムルコトヲ得ス殊ニ株式取引所ノ仲買ナルモノハ顧客ノ中間ニ立チ其賣買ヲ取扱ヒ手数料ヲ得ルニ過キササルモノナレハ顧客ヨリノ證據金ヲ勝手ニ費消スルカ如キハ理ニ於テアルヘキ管ナシ去レハ顧客ノ證據金費消ハ其管理者タル被上告人與藏カ正當ニ仲買人タル業務ヲ行ハサルニ原因シ從テ身元保證金ヲ取立テ之ヲ辨償シタルハ被上告人與藏カ過失ヨリ生シタルコトヲ推測シ得ルニモ拘ハラズ原院ハ此ノ點ヲ不問ニ付シ乙第一號證ハ脅迫ニ出テタルモノニ非ストノ理由ヲ以テ被上告人安藤與藏ニ其責ヲシトセラレタルハ爭點事實ヲ判セシテ不當ニ事實ヲ確定シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇原判決第一項ニ明示スル如ク原院ハ證人石間也市郎伊原與三郎參考人安江彌助等ノ供述ニ依リい印店顧客ニ對スル債務ハ上告人ノ自認スル事實ヲ認メ且甲第一號證ノ約旨ハ乙第一號證ニ因リ變更セラレタリト認定シ以テ此點ニ關スル上告人ノ請求ヲ排斥スル裁判ヲ爲シタルモノナルハ即チ前掲爭點ニ對シ裁判ヲ與ヘタルモノニシテ如此裁判ヲ爲ス以上ハ上告人カ特ニ調査ヲ要スト云フ事實ノ如キハ最早確定スルノ必要ナシ要スルニ論告ハ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレハ適法上告ノ理由トナラス

同第三點ハ原判決理由ニ抑モ同一當事者間委任約定ニ途ニ出テ互ニ相抵觸スル時ハ後日ノ委

任條件ヲ以テ與蔵ノ委任條項ヲ更正シタルモノト看做スヘキハ當然ナルヘキヲ以テ甲一號證ノ代理契約ノ趣旨ハ乙第一號證ヲ以テ之レヲ更正シタルモノト認定セサルヲ得ス云々甲第一號證ノ約旨如何ニ拘ラス控訴人ハ其當時營業中ニ生シタル債務ニ對シ身元保證金ヲ以テ辨濟スヘキコトヲ委任シタルモノナルコト明白ナリト説明セラレタルモ甲一號證ハ今猶上告人ノ手裡ニ存シテ敢テ被上告人ニ交付セス去レハ後日甲一號證ト相反スル契約ヲ爲スモ其以前ニ成立シタル甲一號證ノ如何ヲ問ハス後日成立シタル乙一號證ニ依リテ當事者間ノ權利關係ヲ斷定スルヲ得ス何ントナレハ更正ハ當事者履キニ締結シタル契約ノ手裡ニ存スル以上ハ彼是レ參照シテ解釋ヲ下ササルヲ得ス然ルニ原院ハ後日ノ契約ニ依リ前契約ヲ更正シタルモノトシ甲一號證ノ約旨如何ニ拘ラストセラレタルハ更正ハ推測スヘカラストノ法則ニ背キ且ツ證書解釋ノ法則ニ背ク違法ノ判決ナリト云フニ左レトモ

〇前掲判文ノ趣旨タル甲第一號證ノ約旨ハ乙第一號證ト抵觸スルヲ以テ後日成立シタル乙第一號證ニ因リ更正セラレタリト認メサルヲ得ス故ニ甲第一號證ノ約旨如何ニ拘ハラス換言セハ同證ニ依レハ被上告人ハ印店營業上生シタル債務ニ對シ上告人ノ身元保證金ヲ以テ辨濟スル權限ナキモ乙第一號證ニ因リ該權限ヲ有スル事實ヲ證スト云フニ在リテ右甲乙兩證ヲ參照シ以テ事實ヲ認定シタルモノニシテ斯ル協合ニハ更正ハ推測スヘカラストノ法則アルコトナシ然レハ上告論旨ハ原判旨ニ副ハサルモノニシテ結局事實認定ノ批難ニ外ナラス

同第四點ハ原院ニ本件ニ付明治二十九年五月二十一日ノ口頭辯論ニ判事二名ノ更替アルニモ

判旨第四點

拘ハラス辯論ヲ更新セサルハ違法ナリトス但シ當時當事者間ニ於テ異議ナキ旨申立テタルモ這ハ職權上取調フヘキモノナレハ假令當事者ニ於テ異議ナキ旨申立ツルモ猶且ツ違法タルヲ免レシト云フニ在レトモ

〇判決ハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ於テ之ヲ爲ス可キハ民事訴訟法第二百三十二條ニ規定スル所ニシテ其基本タル口頭辯論トハ判決ニ接スル口頭辯論ヲ指示スルモノトス而シテ本件判決ニ接スル口頭辯論ニハ判決書ニ署名シタル判事カ臨席シタルハ辯論調書ニ依リ明カナレハ假令判事ニ交迭アリタルニモ拘ハラステ辯論ヲ更新セザリシモ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スルヲ得サルモノトス

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ從ヒ之ヲ棄却スヘキモノトス

〇借貸借契約請求ノ件

明治三十年第九十七號
明治三十年五月七日第二民事部判決

〇判決要旨

一 地所ノ借貸借契約ハ法律上物權タル性質ヲ有セスト雖モ一種ノ權利トシテ地

所ノ所有主ニ追隨スルハ我邦古來ノ慣習ナリ

第一審 秋田地方裁判所

第二審 宮城控訴院

上告人

伊藤正一

訴訟代理人

杉窪廣成

被上告人

奈良

外一名

右當事者間ノ貸借契約請求事件ニ付宮城控訴院カ明治二十九年十二月十四日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ本訴甲第一號證ノ小作契約ハ公正ノ手續ニ據リ成立シタルモノナリト雖モ右ハ公示的ノモノニアラサルヲ以テ法律上物權ノ性質ヲ有スヘキモノニアラス(民法第六百五條)加旃上告人ハ未タ其貸借地ヲ占有セサルモノニ付該契約ハ第三者ニ其効ヲ及ホスヘキノ條理之レナキモノナルニ原院ハ本案小作地ノ上告人ノ占有ニ係ルヤ否ヤヲ審究セスシテ直チニ甲第一號證ノ契約ヲ以テ物權ト認メラレ被上告人等カ有スル抵當權ヲ害スルモノト爲シ之ヲ取消スヘキ旨言渡シタルハ頗ル違法ノ判決ナリト云フニアリ○按スルニ地所ノ貸借契約ハ法律上物權ノ性質ヲ有スルモノニアラサルコトハ上告人申立ノ通りナリト雖モ該契約ハ一種ノ權利トシテ地所ノ所有主ニ追隨スルコトハ我邦古來ノ慣習ナルヲ以テ殊ニ慣習ニ相違スル旨ハ

申立ヲ爲サイルニ於テハ裁判所ハ普通貸借ト見做シ判決ヲ與フルハ當然ナルヘク又貸借地ヲ占有セサルヤ否ヤノ問題ハ元來事實ニ屬スルノミナラス本件ノ如ク二十五年分ノ賃料ヲ授受シテ既ニ半ク年餘モ經過シタル場合ナレハ是亦殊ニ其申立ヲ爲サイルニ於テハ裁判所ハ既ニ占有アルモノト見做スヘキハ當然ナリト云ハサルヘカラス而シテ原審廷ニ於ケル口頭辯論調書ヲ閱スルニ上告人ハ甲第一號證ハ證書自體ハ認ム尤本證ノ契約ハ控訴人間ニ於テ有効ノモノニシテ第三者タル被控訴人ニ影響ヲ及ホス可キモノナラサルヲ以テ本證ノ爲メ何等ノ損害ヲモ被控訴人ニ及ホスヘキモノニアラスト云ヒ又控訴人等ハ該契約ニ依テ本訴地所ニ對シ右契約ヲ履行スルノ意思ナルコトハ勿論ナル可シ如何トノ裁判長ノ訊問ニ對シ控訴人間ニ於テハ御尋ノ如シト云ヒタルノミニテ他ニ右慣習ニ相違スル旨ノ申立ハ勿論未タ賃借地ヲ占有セサリシ旨ノ申立ヲモ爲タルコトナケルハ原裁判所カ右甲第一號證契約ヲ以テ地所ノ買受人ニ効力ヲ及ホスモノト爲シ之ヲ判決シタルハ相當ニシテ違法ニアラス要スルニ本論ハ原院審理中問題トナラサル事項ニヨリ原判決ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由トスルニ足ラサルモノトス

上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

○不動産書入質入登記強制競賣取消請求ノ件

明治三十年五月十日第二民事部判決

○判決要旨

一 地所ノ抵當權ハ其當事者間ニ如何ナル特種ノ契約アルモ又ハ契約ノ前後ニ區別アルモ登記簿ニ登記ヲ爲サザレハ其取得ノ權利ハ第三者ニ對シ効力ナシ(判旨第一、二、三點)

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 島崎友連

訴訟代理人 高木益太郎

被上告人 相生秀則
外二名

右當事者間ノ不動産書入質入登記強制競賣取消請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年二月一日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一論旨ハ凡ソ債權ノ轉付ナルモノハ之ニ因テ債權者カ債務者ノ有シタルト同一ノ權利

ヲ取得スルニ過キサルモノナルヲ以テ債務者カ第三者ニ對シテ有スル抵當權ニシテ元來無効ノモノナルトキハ其債權ノ轉付ヲ受ケタル債權者モ其債務者ト同一ノ地位ニアルヘクシテ轉付ヲ受ケタル債權者ノミ債務者ノ曾テ有セザリシ權利ヲ有シ又ハ其債務者ヨリ優等ノ位置ヲ占メ得ルノ理アルヘカラス然ルニ原判決ハ債權轉付効力ヲ誤解シ既ニ留入ノ有セシ抵當登記ハ之ヲ無効ノモノナリト認メナカラ其無効ノ抵當登記ヲ債權差押手續ニ依リ轉付ヲ受ケタルニ過キサル被上告人要職ノ抵當權ヲ有効ナリト説明シ依テ上告人ノ請求全部ヲ排斥シタルハ乃チ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ナリト云ヒ其第二論旨ハ原院ハ其判決理由ノ前段ニ於テ被上告人留入ヨリ上告人並ニ被上告人秀則ニ對スル抵當權順位指定請求主參加訴訟ノ判決確定シタルヲ以テ被上告人留入ハ最早上告人ニ先立チ自己ノ抵當權ヲ登記スヘキ權利ナク隨テ右三名間ニ於テハ被上告人留入カ和解調書ニ基キ爲シタル抵當登記ノ無効ナルコトハ論ヲ俟タスト説明セリ果シテ然ラハ原院ハ上告人ノ請求中第一段即チ和解調書ニ基ク債權書入質入ノ登記ハ上告人ニ對シテハ無効ナリト宣言シ第二段即チ被上告人ハ其費用ヲ以テ右書入質入ノ登記取消ノ手續ヲ爲スヘシトノ點ハ之ヲ裁可スヘキ筋合ナルニ抵當登記ノ無効ナルコトヲ認メナカラ上告人ノ請求ヲ全然排斥シタルハ前後撞着且法則違反ノ裁判ナリト云ヒ其第三論旨ハ原院ハ其判決理由ノ後段ニ於テ被上告人留入秀則兩名間ニ爲シタル抵當登記ハ上告人ニ對シテ無効ノモノタルコトヲ認メタルニモ不拘被上告人中要職一人ヲ保護スルノ理由ヲ以テ他ノ被上告人ニ對スル請求ヲモ全然排斥シタルハ不法ノ裁判ナリ何トナレハ今原判決ノ云フ如ク

上告人ト被上告人留八秀則トノ關係ニ於テハ留八秀則ニ惡意アルモノ又上告人ト被上告人要
 藏トノ關係ニ於テハ要藏ハ善意ナルモノト認メラレ即チ要藏ハ善意ナルカ爲メ第三者ニシテ
 債權轉付ノ利益ヲ受クキヘモノト假定セシテ上告人カ第一段留八秀則ニ關スル抵當登記無効
 ノ主張ハ之ヲ認可シ第二段要藏ニ關スル抵當登記無効ノ主張ハ之ヲ排斥スヘキ筋合ナリ然ル
 ニ事妥ニ出テス要藏一人ヲ保護スルノ理由ヲ以テ既ニ無効ノ登記ナリト斷定シタル留八秀則
 ニ關スル請求ヲモ悉ク排斥スルニ至テハ甚々謂ハレナキモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ
 元來無効ナル登記カ獨リ善意ノ第三者ヲ保護スル爲メ當事者間ニモ有効ニ歸スルノ理ナク亦
 第一段ノ請求ヲ裁可スルモ第二段ノ請求ヲ受ケタル者ハ原判決ノ所謂法律ノ保護アル爲メ寸
 毫モ痛痒ヲ感スルモノニアラス殊ニ原判決ノ辯明ヲ至當トスルモ上告人第一段ノ請求ハ第二
 段ノ請求ト不可分ノモノニアラサレハ其執行上何等ノ差支ヲモ生スルコトナシ況ヤ本訴ニ於
 テ第一段抵當登記ハ上告人ニ對シ無効ノモノナリトノ宣言ヲ受クルトキハ上告人ニ於テ損害
 賠償ヲ求ムルノ基礎ト爲シ得ルノミナラス或ハ第二段ノ轉付無効ニ歸スヘキ事故アリシ場合
 ニハ上告人カ第一段ノ登記無効ノ宣言ハ直チニ之カ實益ヲ顯ハスコトアルヘシ要スルニ原判決
 ハ第二段ノ關係人ヲ保護スル爲メ第一段ノ請求ヲ排斥シタルハ法則違反ノ裁判ナリト云フニ
 在リ○依テ按スルニ凡ソ地所ハ抵當權ノ如キハ其當事者間ニ於テ如何ナル特種ノ契約アルモ
 又ハ契約ノ前後ニ區別アルモ登記簿ニ登記ヲ爲サレハ其取得ノ權利ハ第三者ニ對シ其効カ
 ナキコトハ是登記法ハ命スル所ナリ而シテ本件ニ付テハ原判決ヲ閱スルニ原院ノ認メタル事

判旨第一、
二、三點

實ニ依レハ上告人ハ相生秀則ニ對スル債權ノ爲メ係争地ヲ書入抵當ト爲サシメタルモ未タ其
 登記ヲ爲サル前大井留八ハ秀則ニ對シ和解ノ申請ヲ爲シタル末和解調書ニ基キ留八ハ抵當
 登記ヲ受ケタルモノナレハ疊ニ留八ハ抵當權順位指定請求ノ主參加訴訟ヲ提起シ其請求ハ相
 立タストノ確定判決ヲ受ケタルコトアルモ之カ爲メ其抵當登記ノ無効ニ歸スヘキ謂ハレナシ
 況ヤ原判決ノ引用シタル第一審判決ノ事實ノ指示ニ依レハ留八ハ疊ニ大審院カ言渡シタ判決
 ノ理由ニ從ヘハ第三者ニ對スル抵當ノ効ハ登記ヲ待テ始メテ生スルモノナリトノ趣旨ニシテ
 敢テ原告カ優先ノ權ヲ有スルトノ理由ニアラス故ニ此理由ニ從ヒ和解ヲ申請シ登記ヲ受クル
 ニ至リタル事實ナリト云フニ於テオヤ既ニ留八ト秀則トノ間ニ於ケル抵當登記ノ有効ナル上
 ハ引テ大島要藏カ取得シタル該抵當付債權ノ轉付ヲ受ケタル事項ノ登記簿ノ記入モ亦有効ニ
 シテ登記ヲ爲サル上告人ハ此等ノ効力ニ對抗スルヲ得サルモノトス然ルニ原院カ其判決ノ
 理由中ニ被控訴人留八カ和解調書ニ基キ爲シタル抵當登記ノ無効ナルコトハ論ヲ俟タスト雖
 モトノ説明ヲ付シタル一段ハ稍允當ナラサルモ結局上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ相當ナリト
 ス故ニ上告論旨ハ總テ其理由ナシ
 以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規
 定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○破産宣告申請ノ件 明治三十年五月十一日第一民事部決定

○決定要旨

一 商法第九百七十八條ハ債務者カ破産者トシテ宣告セラレタルトキ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スヲ得ルノ規定ニシテ債權者カ破産宣告ノ申請ヲ却下セラレタル場合ニ適用スヘキモノニアラス(第二輯第十卷所載明治二十九年第三十四號決定參看)

(參照) 商ヲ爲スニ當リ支拂ヲ停止スル者ハ自己若クハ債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ裁判所ノ決定ヲ以テ破産者トシテ宣告セラルル但此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(前項ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得(商法第九百七十八條))

原 審 東京控訴院

抗告人 山下忠七郎 訴訟代理人 鈴木充美

右山下忠七郎ヨリ富山盛三郎ニ對スル破産宣告申請事件富山盛三郎ノ抗告ニ付明治三十年五月一日東京控訴院カ與ヘタル決定ニ對シテ抗告人ヨリ再抗告ヲ爲シタリ

決定

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

抗告論旨ハ之ヲ要スルニ破産宣告ノ決定ヲ爲スニハ支拂停止ノ有無ヲ決セサルヘカラス支拂停止ノ有無ヲ決スルニハ債權ノ存否及ヒ其債權ヲ支拂ハサル者ナルヤ否ヲ審理スレハ充分ナリトス而シテ再抗告人カ相手人富山盛三郎ニ對スル商品代金ノ債權アルコトハ再抗告人ノ提出シタル商業帳簿及ヒ品代金延期證ニヨリ明ナリ特ニ品代金延期證ノ捺印ト相手方後見人ノ延期證ニヨレハ昨年八月中ニ支拂フヘキ期日ヲ指定シアレハ相手人カ同期日内ニ之カ支拂ヲナサトルハ支拂ヲ爲サルモノニシテ即チ支拂ヲ停止シタルモノナリ故ニ水戸地方裁判所下妻支部ノ與ヘタル破産宣告決定ハ相當ナルモノナリト信ス然ルニ東京控訴院ハ相手人ノ抗告ヲ採用シ再抗告人カ相手人ニ對シ本案請求ノ訴訟ヲ爲シアルヲ以テ權利不明確ナルモノトシ不明確ナル債權ニヨリナシタル破産宣告ノ申請ハ不當ナリトシテ却下セラレタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○商法第九百七十八條ハ債務者カ破産者トシテ宣告セラレタルトキ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スヲ得ルノ規定ニシテ債權者カ破産宣告ノ申請ヲ却下セラレタル場合ニ適用スヘキ法條ニアラスカテ抗告人カ原院ハ爲シタル破産宣告ノ申請ハ不當ナリトシテ却下シタル決定ニ對スル再抗告ハ許スヘキモノニアラス民事訴訟法第四百六十三條ニ從ヒ不適法トシテ棄却スヘキモノトス

〇廢戶主戶籍引戻并ニ地所遺産相續登記取消地所賣買登記取消請求ノ件

明治二十九年第四百十六號
明治三十年五月十一日第一民事部判決

〇判決要旨

一 遺産相續登記ノ取消並ニ地所賣買登記ノ取消ヲ請求スル訴ハ明治二十三年法律第四百號第三條但書ニ該當セサルヲ以テ離縁ノ訴ト併合ヲ許スヘキモノニアラス(判旨第一點)

(參照) 婚姻ノ不成立、無効、離婚及同居ノ訴ハ之ヲ併合スルコトヲ得、縁組ノ不成立、無効、及ヒ離縁ノ訴モ亦同シ、婚養子縁組ノ場合ニ於テハ婚姻ノ不成立、無効、離婚又ハ同居ノ訴ニ縁組ノ不成立、無効又ハ離縁ノ訴ヲ併合スルコトヲ得、本條ノ訴ニ他ノ訴ヲ併合シ及ヒ他ノ種類ノ反訴ヲ提起スルコトヲ得、但本條ノ訴ノ原因タル事實ヨリ生スル損害賠償及ヒ養料ノ請求ニ付テハ此限ニ在ラス(明治二十三年法律第四百四號第三條)

一 徴兵ヲ忌避セシメシカ爲メ養子ヲ爲シタル者ヲ罰スル法律ナキニ依リ其事實

ヲ主張シ以テ離縁ノ訴ヲ爲スモ犯罪行爲ヲ原因トシ法律上ノ救濟ヲ求ムルモノト云フヲ得ス(判旨第二、三點)

第一審 宮崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

上告人 松岡吉兵衛 訴訟代理人 岡崎正也

被上告人 松岡フサエ 外一名 訴訟代理人 朝倉外茂鐵

右當事者間ノ廢戶主戶籍引戻并ニ地所遺産相續登記取消地所賣買登記取消請求事件ニ付長崎控訴院カ明治二十九年五月十八日言渡シタタ判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ立會檢事岩野新平ハ意見ヲ陳述シタリ

判決

原判決中廢戶主並ニ戶籍引戻ノ請求ニ係ル部分ニ對スル上告ハ之ヲ棄却シ遺産相續登記並ニ地所賣買登記ノ取消請求ニ係ル部分及ヒ訴訟費用ニ係ル裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ左ノ如ク判決ス

第一審判決中本件遺産相續登記並ニ地所賣買登記ノ請求ニ係ル部分及ヒ訴訟費用ニ係ル裁判ヲ廢棄シ右ニケノ請求ニ關スル訴ヲ却下ス
總テノ訴訟費用ハ之ヲ三分シ上告人松岡吉兵衛永福吉藏滿山仁左衛門ニ於テ其三分ノ一ヲ負擔シ被上告人ニ於テ其三分ノ二ヲ負擔ス可シ

理由

離縁ノ訴〇併合〇徴兵ヲ忌避スル爲メノ養子

上告論旨第一點ハ本訴第一ノ請求ハ上告人吉兵衛カ松岡家ノ養子ト相成先代松岡喜左衛門ノ死跡相續チ爲シタルニ際シ養子縁組ノ不成立ナルコトヲ確定シ養子入籍並ニ相續ニ關スル戶籍登錄ノ取消ヲ求ムルニ在リテ右請求ハ明カニ明治二十三年法律第百四號第三條ノ規定ニ該當スヘキ種類ノ訴ニシテ此點ハ既ニ原院ニ於テモ認メラレタル所ナリトス然ル以上ハ同條末項ノ規定ニ依リ右訴ニ於テハ本訴請求第二項以下ノ上告人ヨリ第三者ヘ賣渡シタル地所ヲ右第三者ヨリ復舊ヲ求ムルノ訴ノ如キハ之レヲ共ニ併合シ得ヘキモノニアラサルヤ明カナリ蓋シ右請求ノ如キハ業ヨリ損害賠償ノ訴ニアラサルヲ以テ同條末項ノ例外ニ該當スヘキモノニアラサルヤ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原院ニ於テハ被控訴人ハ明治二十三年法律第百四號ヲ引用シ本訴ノ如キ請求ヲ併合スルコトヲ許サスト陳辯スト雖トモ該法律ノ精神タル全ク關係ヲ異ニセル他ノ請求ヲ併合スルコトヲ禁止シタルニ過キサルモノニシテ本訴ノ如ク遺言相續取消等離縁ノ請求ニ密接シ全ク其關係ヲ同フセル請求ヲモ併合スルヲ許サルノ精神ニアラスト判示シ縁組不成立ノ訴ニ於テ同條末項規定ノ例外ノ請求ト雖トモ之ヲ併合シ得ヘキモノト如ク判決セラレタルハ同法同條ニ違背セル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○按スルニ養子縁組事件ニ付テハ明治二十三年法律第百四號第三條但書ニ明示スル訴ニ限リ例外トシテ其併合ヲ許スモノニシテ遺産相續登記ノ取消並ニ地所賣買登記ノ取消ヲ請求スル訴ハ如キハ前記法條ニ所謂例外ノ訴ニ該當セサルヲ以テ離縁ハ訴ト併合ヲ許ス可キモノニ非ス然レハ右兩ケハ登記取消ヲ請求スル訴ハ不法トシテ却下ス可キ答ナルニ原院判決モ茲ニ出テス此

判旨第一點

訴ハ併合ヲ適法ハモハトシ裁判ヲ爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ハ裁判タルカ免カハス依テ此點ニ關シ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ從ヒ原院判決ヲ破毀シ且第一審判決ヲ廢棄シ同法第四百五十一條第一號ニ從ヒ本院ニ於テ前掲理由ニ依リ遺産相續登記取消及ヒ地所賣買登記取消ヲ請求スル訴ヲ不適法トシテ却下スルヲ相當トス

同第二點ハ本件被上告人請求ノ原因事實ハ上告人吉兵衛ハ明治九年中先代亡喜三右衛門并被上告人フサエ夫婦ノ間ニ養子ト爲リ明治十二年先代喜三右衛門ハ隱居ヲ爲シ上告人ハ同時ニ相續ヲ爲シ以テ今日ニ至リタレトモ右ハ吉兵衛ヲシテ徵兵ヲ忌避セシムルカ爲メ右ノ手續ヲ爲シタルモノナルカ故ニ此事實ヲ原因トシテ縁組ノ不成立ヲ確定シ上告人ノ廢戶主復籍ヲ求ムト云フニ外ナラス右ノ原因事實ノ如クセハ被上告人ハ則チ明治九年以來上告人ノ養母タリシモノナリ而ルニ原院判決説明ノ如ク又被控訴人ニ於テハ喜兵衛ノ相續ハ徵兵忌避ノ爲メニナシタルモノトセハ是レ一ノ犯罪行為ニ外ナラサルヲ以テ法律上救正ヲ與フヘキモノニアラスト陳辯スト雖トモ吉兵衛ヲシテ徵兵忌避ノ實ヲ擧ケシメタルハ亡喜三右衛門ノ所爲ニシテ當控訴人ノ知ル所ニアラサルカ故ニ其請求ヲ排斥スルコトヲ得スト判決セラレタレトモ前掲ノ如ク被上告人自身モ亦養母タリシモノナルニ拘ハラス自己ハ之ニ干與セサルモノトセハ其事實ヲ擧證スヘキヲ要スルハ當然ノ筋合ナリト信ス然ルニ原院判決ニ於テハ此點ニ對シ何等ノ理由ヲ判示スルナクシテ只單ニ亡喜三右衛門ノ所爲ニシテ當然控訴人ノ與リ知ル所ニアラサルカ故ニト判示シ去リタルハ爭ヒアル事實ヲ不當ニ確定シタル現理ヲ免カレサルモノナリト

離縁ノ訴ノ併合○徴兵ヲ忌避スル爲メノ養子

五十四

云々同第三點ハ假リニ被告入カ前項ノ事實ニ干與セザリシトノ事實ハ正當ニ觀察セラレタ
 ルモノトスルモ尙原裁判ハ不法ヲ免カレサルモノト信ス蓋シ原裁判々定ノ事實ニ依ルモ被告
 告人ノ請求ハ被告入ノ先代喜三右衛門カ吉兵衛ヲシテ徴兵ヲ忌避セシメンカ爲メ入籍手續
 ナシタル事實ヲ原因トシ廢戶主離縁復籍ヲ求ムト云フニ外ナラス何人ト雖トモ自己ノ犯罪
 事實ヲ原因トシ法律上救正ヲ求ムルヲ得サルト等シク又先代ノ犯罪事實ヲ原因トシ法律上ノ
 救正ヲ求ムルヲ得サルハ法律上當然ノ筋合ナリトス然ルニ原裁判ニ於テ右被告入ノ請求ヲ
 適法トシテ採用セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ○按スルニ徴兵ヲ忌避セシメンカ爲メ養
 子ヲ爲シタル者ヲ罰ス可キ法律ハケレハ其事實ヲ主張シ以テ離縁ハ訴ハ爲スモ犯罪行爲ハ原
 因トシテ法律上ハ救濟ヲ求ムルモノハナリト云フヲ得ス從テ本件ニ付キ被告入カ被告入カ吉兵
 衛ハ徴兵ヲ忌避セシメンカ爲メノ養子ニシテ即チ假裝ノ養子ナル旨ヲ主張シ離縁ノ原因ト爲
 スモ其訴ヲ不適法トシ却下スヘキニ非ス然ルニ原院ニ於テ該所爲ハ犯罪行爲ナルヲ以テ之ヲ
 原因トスル訴ハ法律ノ保護ヲ與フ可キモノニ非サルカ如ク說明シタルハ其當ヲ得サルモ吉兵
 衛ヲシテ徴兵忌避ノ實ヲ舉ケシメタルハ被告入ノ所爲ニアラサルカ故本件請求ヲ排斥スル
 ナ得ストノ他ノ理由ニ依リ本訴ヲ適法トシ審理判決ヲ爲シタルモノナレハ結局相當ノ裁判ナ
 リトス而シテ前段說示スル如クナル以上ハ上告論旨第二點及ヒ第三點ニ對シテハ特ニ說明ヲ
 與ヘサルモ自ラ了解シ得ヘキニ因リ辯明ヲ爲サス
 右ノ說明ニ因リ廢戶主戶籍引戻ノ請求ニ關スル上告ハ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五

判旨第二三

十二條ニ從ヒ棄却ス

○磯漁場區域確定并ニ調印請求ノ件

明治二十九年第三百九十九號
明治三十年五月十二日第二民事部判決

○判決要旨

一 第一審ニ於テ從參加ノ申請アリタル者ニ對シ異議ナク判決ヲ受ケタル後之レ
 ナ對手者ノ一人トシテ控訴ヲ提起シタルトキハ第二審ニ於テ更ニ從參加ノ申
 請ナキモ從參加人タル資格ヲ有スルモノトス(判旨第二點)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院
 上告人 生浦岩吉 外二十一名 訴訟代理人 久貝義次
 被上告人 本間八十吉

右當事者間ノ磯漁場區域確定并ニ調印請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年四月十七日言
 渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

從參加ノ申請

五十五

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ上告人カ訴求スル所ハ甲第三號證ノ契約ニヨリ漁場區域ノ確認ト願書ニ調印スルコトヲ請求スルモノナレハ被控訴人ハ同第三號證ニヨリ右願書ニ調印スルノ義務及漁業取締規約第二十一條ニヨリ其權能ヲ有スルハ勿論ナルモ若シ甲第三號證契約ニシテ無効ナリトセハ其無効ナル理由ヲ明ニセサル可ラス然ルニ甲第三號證ノ有効無効ハ更ニ説明ヲ爲サス單ニ漁業組合規約第十四條ニ依リ權能ナシト判定シタルハ重要ノ證據ニ理由ヲ附セサル不法ノ判決ナリト云ヒ其第四點ハ原判決ハ重要ナル事實ヲ遺脱シ證據法ノ原則ニ違背セル不法ノ裁判ナリトス原判決ニ曰ク(前略)總代ナルモノハ云々他ノ町村ヨリ差出スヘキ願書ニ調印スルカ如キ權能ヲ有セサルモノト認メテ可ナリ而シテ控訴人ハ此點ニ付一モ反對ノ證據ヲ提出セス因テ本件被控訴人ハ云々控訴人請求ヲ爲スノ權能ナキモノト判定スト是レ重要ナル事實ヲ遺脱シテ證據法ノ原則ニ違背セル不法ノ裁判ト云ハサルヘカラス何トナレハ漁業總代カ本訴請求ノ調印ヲ爲ス權能アルコトハ新潟縣令第五十九號第二十一條ニヨリテ明白ニシテ上告人カ漁業總代ヲ被告トシテ本訴要求ヲ爲シタルモ畢竟同縣令ニ基クモノニシテ(第一審二審口頭辯論調書ニ於テ明白)而シテ被上告人モ此事柄ハ第一審以來自認スル所ナリ特ニ原院ニ於テハ新乙第三號證トシテ之ヲ提出シタルニ於テ益明白ナリトス故ニ假リニ從參加人カ丙一號證ニ依

リ訴訟資格ニ付テ爭フタリトスルモ丙一號證ハ西部ニ於ケル組合契約ニシテ到底其効力ニ於テ取締規則ニ優ルコトヲ得サルノミナラス組合規約ハ取締規則ノ下ニ於テ漁業ニ關スル細則ヲ規定シタルモノニ過キスシテ兩々相悖ラサルノミナラス漁業總代ノ權能ニ於テハ被上告人カ第一審以來ノ自認及其認ムル所ノ取締規則第二十一條ニ於テ明白ナル事柄ナレハ此事實ナレハ此事實ニ對シテ立證スル責任ナキモノトス然ルニ原院カ此重要ナル事實ヲ遺脱シ舉證ノ責任ヲ負ハシメタルハ證據法ノ原則ニ違背セル不法ノ裁判ナリト云ヒ其第六點ハ原院カ組合規約第十四條ニヨリ直ニ被上告人ニ調印ノ權能ナシト判定シタルハ新潟縣令第五十九號ニ違背シタル不法アルモノニシテ即チ民訴第四百三十五條ニ該當スルモノトス何トナレハ同縣令ハ縣下一般漁業者ヲ支配スル規則ニシテ組合規約ハ單ニ其規則ノ下ニ於テ一組合間ニ於ケル漁業關係ノ事項ヲ定メタルモノニ過キサルモノニシテ其効力ニ於テハ霄壤ノ差アルノミナラス兩々相悖ラサルモノナルニ原院ハ單ニ丙第一號規約ニヨリ之カ權能ナシト判定シタルハ縣令五十九號漁業取締規則ヲ蹂躪シタルモノニシテ法律違背ノ裁判ナリト云フニ在ルモ原審辯論調書ヲ查閱スルニ被上告人ニ於テ漁業總代カ漁業願書ニ調印スル權能アルコトハ新潟縣令第五十九號第二十一條ニ依リ明白ナリトノ上告人ノ主張ヲ認メタル痕跡ナク被上告人カ該縣令ヲ原審ニ提出シタルハ上告人ノ主張ヲ認メ之ニ同意ヲ表スル爲メニアラサルコトハ原審辯論調書被控訴人(被上告人)申立ノ部ニ乙第三號證(新潟縣令ヲ指ス)ハ明治二十八年九月八日臨時會ヲ開キ組長漁業區域等ノ會議ヲ開キタリト控訴人ハ主張スレトモ其會ハ無効ノモノナル

コトヲ立證スルトアルニ徴シテ明瞭ナリ而シテ該縣令第二十一條三左ニ掲グル漁業願書ハ前條手續ノ外特ニ其漁業ニ隣接スル町村大字漁業總代(漁業ナキ地ハ區長若クハ沿岸地主總代)ノ連署ヲ受ク可シトアルモ道ハ唯々隣區ヨリ差出ス漁業願書ニハ漁業總代ノ連署ノミヲ以テ足レリトスル規定ニシテ此規定ヲ以テ漁業總代ナル者カ隣區ヨリ連署ヲ求メラルトニ際シ之レカ諾否ヲ決シ得可キ權限ヲ付與シタルモノト爲スヲ得去レハ他ニ規約等ヲ以テ特ニ其權限ヲ委任シタル場合ハ格別然ルニアラサレハ總代ハ之レカ諾否ヲ決スル權限ヲ有セサルモノニ付之ニ對シ直チニ連署ヲ求ムルヲ得サルハ勿論ナリトス然ラハ新瀉縣令第五十九號ノ如キハ本件ノ爭點ヲ決スル材料トナル可キモノニアラス從テ總代ノ連署アリトスル甲第三號證ノ如キモ被上告人ニ對シ效果ヲ生ス可キ筋アラサレハ是等ノ立證旨趣ニ對シ説明ヲ爲サレハトテ不當ノ裁判ナリト云フヲ得ス而シテ原裁判所ハ結局當事者間ニ於テ締結セル丙第一號規則ニ漁業總代ノ職務上是等ノ權限ヲ有セシムル規定ナキヲ理由トシ特別ノ委任ヲ受ケスシテハ其町村漁業ノ區域ヲ確定シ若クハ他ノ町村ヨリ差出ス可キ願書ニ調印スル如キ權限ヲ有セサルモノト認定シタルハ相當ナルヲ以テ第一第四第六ノ三個ノ論點ハ總テ其理由ナシ

同第二點ハ本件從參加人ハ特ニ申請ニヨリ成立シタルモノニアラス從參加人トシテ全ク無効ノモノナレハ其抗辯ノ成立セサル事モ亦明白ナル所ナリトス然ルニ原院ハ其成立セサル抗辯ヲ判決ノ基本トシテ從參加人呈出ノ丙一號號證ニヨリ被上告人ニ本訴調印ノ權能ナシト判定シタルハ第一民訴五十六條一項及第五十七條ノ手續ニ違背シ第二同法第五十四條一項ヲ不當

判旨第二點

ニ適用シ第三民訴第二百三十條及二百三十一條一項ニ違反スル不法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ○一件記録ヲ閱查スルニ從參加人ハ明治二十八年八月十四日從參加人申請書ヲ第一審ニ提出シ爾來上告人ハ異議ナク辯論ヲ經過シ妨訴抗辯及ヒ本案ニ付テハ判決ヲ受ケ其本案ノ判決ニ付テハ上告人ハ被上告人ト共ニ從參加人ヲ對手トシテ控訴ニ及ヒタルコトハ從參加人申請書第一審調書及ヒ上告人ヨリ提出セル控訴狀ニ徴シテ明ナレハ本論ハ實ニ謂レナキ攻撃ニシテ採用スルニ足ラス

同第三點ハ原院カ被控訴人ノ自認ニ抵觸セル從參加人ノ抗辯ヲ標準トシ漁業總代ニ本訴請求ニ應スルノ權能ナシト判決シタルハ民事訴訟法第五十四條第二項ヲ適用セサル法律違背ノ裁判ナリトス漁業總代ニ本訴請求ノ調印ヲ爲スノ權能アルコトハ新瀉縣令第五十九條第二十一條ニ依リテ明白ナルノミナラス當事者間ニ爭ナキ事柄ナルコトハ上告人及被上告人ノ第一審以來ノ陳述及證據ニヨリテ明白ナル事柄ナルニ原院ハ是ト抵觸セル從參加人ノ抗辯ヲ標準トシ爭ナキ漁業總代ノ權能ニ對シ是カ權能ナシト裁判シタルハ民事訴訟法第五十四條第二項ノ規定ニ違背セル不法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ○原審辯論調書ヲ查閱スルニ被上告人ハ主トシテ事實上本訴ノ請求ニ應ス可キ筋ナキ旨ヲ主張シ從參加人ハ主トシテ漁業總代ナル者ハ漁業區域ヲ確定シ又ハ願書ニ調印スル權能ヲ有セスト主張シ居タル迄ニシテ被上告人カ上告人ノ主張ヲ認メタルニアラサルコトハ第一四六點ニ對スル説明ノ如クナレハ被上告人ノ申立ト從參加人ノ申立トハ毫モ抵觸スル所ナシ抑參加人ハ當事者ノ主張ニ欠漏アル點ヲ申立以テ當

事者ヲ補助スルハ固ヨリ其本分ナルヲ以テ當事者ノ中立ニ牴觸セサル以上ハ其中立ヲ標準トシテ判決ヲ爲スハ當然ナリトス故ニ本論モ亦其理由ナシ

同第五點ハ原判決ノ主趣ハ漁業總代ナルモノハ漁業組合規約第十四條ノ外ニ權能ナキモノニシテ上告人請求スル如キ漁業區域ヲ確認シ其漁業願書ニ調印スル如キ權能ヲ有セス從テ其要求ハ被上告人カ漁業總代タル資格ニ於テ爲シ能ハサル事項ヲ求ムルモノニシテ其請求ハ不當ナリト云フニアリ要スルニ原院ハ爭ナキ調印ノ權能ニ付キ判定シタルモノニシテ是實ニ重要ノ爭點ニ判決ヲ與ヘスシテ爭ナキ事項ニ付判決ヲ與ヘタルモノニシテ結局民訴第二百三十條及同第二百三十一條一項ニ違背スル不法アリ抑モ被上告人ニ本訴要求ノ調印ヲ爲ス權能アルコトハ新潟縣令第五十九號漁業取締規則第二十條第二十一條ニ於テ明白ノ事實ニシテ上告人カ本訴要求ノ原因ハ甲第三號證發同書ナル契約則チ漁業者一般ノ承諾(總代ハ漁業者ノ代表者ニシテ該契約ハ漁業者總會議ノ決議ヲ漁業者ヲ代表シテ調印シタルモノ)ヲ原因トシ取締規則第二十一條ニヨリ被上告人ヲ被告トシテ訴ヘタルモノナリトス(第一、二審口頭辯論調書ニ於テ明白)而シテ被上告人モ同規則第二十一條ニ於テ調印スルヲ得ル權能アルコトハ第一審以來自認スル所ニシテ被上告人カ原院ニ新乙第三號證トシテ其權能ニ關スル規則ヲ呈出シタル事跡ニ於テ益明白ナリトス故ニ第一審以來特ニ原院ニ於ケル當事者間ニ於テノ爭點ハ甲三號證ノ有効無効ニシテ被上告人カ承諾ナキ發同書ニ基ク上告人ノ應求ニ應シ難シト主張シ上告人ハ甲三號證ハ被上告人カ漁業者ヲ代表シ漁業者一般ノ承諾ヲ表シタル契約ナレハ上告人カ取締

規則第二十一條ニ基ク調印請求ニ應セサルヘカラスト論争シタルモノニシテ從參加人ノ丙一號證ニ基キ論争シタル點モ甲三號證ハ從參加人等ノ承諾ナキモノニシテ總代カ權能ナキ事柄ヲ契約シタルモノナレハ該發同書ハ無効ナリト論争シタルニ過キス故ニ當事者ニ於ケル唯一ノ論争ハ甲三號ノ契約ノ効力如何ニ存シ調印スル權能アリヤ否ヤハ毫モ爭ナキ所ナリトス然ルニ原院カ其必要ナル甲三號ニ於ケル爭點ニ判決ヲ與ヘスシテ毫モ爭ナキ權能ノコトニ付判決ヲ與ヘ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ爭點以外ニ判決ヲ與ヘタルモノニシテ結局民訴第二百三十條及第二百三十一條一項ニ違背スル不法アルモノナリト云フニ在ルモ

○本論ノ理由ナキコトハ第一、四、六點及ヒ第三點ニ對スル説明ヲ以テ理會シ得可キニヨリ更ニ説明セス

上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

○損害要償ノ件

明治二十九年第五百七號
明治三十年五月十四日第二民事部判決

○判決要旨

判決ノ確定力

一 判決確定力ハ其主文ニ包含スルモノニ限り其理由中ニ引用シタル數多ノ證據
ニマテ其効力ヲ及ホスヘキモノニアラス(判旨第五、六點)

第一審 新潟地方裁判所新發田支部 第二審 東京控訴院

上告人 田中梅太郎

外二十名

訴訟代理人 信岡雄四郎
高木政勝

被上告人 加藤鐵太郎

右當事者間ノ損害要償事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年十月二十一日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ原院ハ乙第一號證ヲ以テ村方一同ヨリ被上告人先代龜太郎等ニ差入レタルモノト認メラレタリ即チ乙第一號證ノ署名者ハ村ヲ代表スルモノト認メラレタリ而シテ原院カ斯ク認定セラレタル理由ハ相馬幸四郎外五名カ小前一同ノ總代トシテ署名捺印シ其末尾ニ戸長ノ奥書アリ又右六名ト共ニ署名シ居ル田中才太及ヒ相馬長次郎ハ孰レモ金山村小前總代ノ資格ヲ以テ連署シタルニ相違ナキ旨證言セルカ故ナリト云フニ在リ然レトモ小前總代ナル村ノ代表機關ハ事實上法律上共ニ之レアルコトナシ假リニ小前總代ナルモノアリトセハ之ニ對スル大前總代ナルモノアリテ二者相合シテ茲ニ始メテ村ヲ代表スルノ筋合ナラサルヘカラ

サルコト明瞭ナルニ原院カ小前總代ノ資格ヲ以テ連署シタル事實ノミヲ認メテ直チニ村ヲ代表スルモノト爲シ且小前總代カ如何ナル事實上及ヒ法律上ノ理由ニ依リテ村ヲ代表スルノ權能アルヤヲ説明セサルハ判決ニ理由ヲ備ヘス兼チテ法則ヲ不當ニ適用セラレタルモノナリ又戸長ハ一村ノ理事者ニシテ村ヲ代表スルモノナレハ本邦古來ノ慣習上村ニ屬スル入會權ニ關スル書面ノ如キハ戸長ニ於テ當事者トシテ之ニ署名セサルヘカラサル道理ナルヲ以テ乙第一號證ニ戸長ノ奥書アルハ反テ一村ノ契約ニアラサルコトヲ立證シ得ヘキ筈ナルニ原院カ之ヲ反對ニ斷セラレタルハ是亦法則ヲ不當ニ適用セラレタルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ凡ソ各地方ニ於ケル村民間ノ小前及ヒ長百姓等ノ名稱ハ古來一般ニ唱來リシ慣習アレトモ大前ナル名稱ハ未タ習テ之ヲ唱ヘシ慣習アルヲ見ス且上告人モ斯ル慣習ヲ見サルコトハ當法廷ニ於テ自陳スル所ナリ就テハ則チ小前總代ナル者アル場合ニ於テ之ニ對シ焉ソ大前總代ナル者ノナカルヘカラサルノ理アラシヤ而シテ原判決ノ旨趣タル小前總代ナル者ハ法律上常ニ村ヲ代表スヘキモノト判定シタル意義ニ非ス本件ニ於ケル乙第一號證ハ上告人中相馬幸四郎始メ數名之ニ署名捺印シ其末尾ニ戸長ノ奥書アル形蹟ト之ニ署名捺印セシ者ノ中六名ハ金山村小前總代ノ資格ヲ以テ連署シタルニ相違ナキ旨田中才太外一名ノ供述スル所ノ證言トニ據リ該證ハ村方一同ヨリ被上告人先代龜太郎等ニ差入レタルモノト事實ヲ認メタル筋合ナルコトハ原判決理由中ニ載セテ明カナリ然リ而シテ乙第一號證成立ノ當時即チ明治十三年頃ニ在テハ現行町村制ニ於ケルカ如ク一村若クハ一部落所有ノ財産ハ其村長ノ管理ニ屬スヘキ規

定ナカリシ故ニ斯ノ如キ證書ハ村方一同ヨリ差入レタルモノニシテ有効ナルヤ否ヤハ偏ニ原
院ノ職權内ナル事實ノ認定ニ屬スルヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如ク法則ニ背キ若クハ理由ヲ
欠キタル不法ノ點ナシ

其第二點ハ證人田中才太ハ御示ノ乙第一號證ハ御尋ノ通金山村小前總代議員ノ資格ヲ以テ高
橋彌總太外二名ヘ差入レタルモノニ相違無之ト證言シ同相馬長次郎ハ私ハ金山村小前總代議
員長百姓ノ資格ヲ以テ御示ノ乙第一號證ヲ高木彌總太外二名ヘ差入レタルニ相違無之ト證言
シ何レモ議員ノ資格ヲ兼テタルコトヲ申立タリ而シテ議員トハ則チ村會議員ニシテ村會議員
ハ當時ノ區町村會法ニ依ルモ決シテ村代表スルノ權能ヲ有セサルコトハ上告人カ原院ニ於
テ大ニ論争セシ所ナルニ原判決ハ田中才太及相馬長次郎ハ執レモ金山村小前總代ノ資格ヲ以
テ連署シタルニ相違ナキ旨證言セリト掲載シテ議員ノ資格ノコトハ絶テ之ヲ申立テサリシカ
如ク判示シ以テ一個ノ證言ヲ分割シテ之ヲ採用セラレタルハ探證ノ法理ヲ誤マラレタル違法
ノ判決ナリト云フニアレトモ○原判決ノ理由ニ依レハ原院ハ一般村會議員ナル者ハ村代表
スルノ權能ヲ有スルヤ否ヤヲ審理スルヲ必要ト認メス單ニ本件ハ乙第一號證ハ當時村方一同
ヨリ差入レタルモノナルヤ否ヤノ事實上ノミ審理ヲ爲スヲ適切トシ其事實ノ認定ニ基キ判決
ヲ言渡シタルモノナルコトハ第一點ノ論點ニ對スル說明ニ依リ會得スハシ然ラハ議員ノ資格
ニ付キ特ニ判定ヲ爲サレモ之ヲ不法ト云フヲ得ス又證人ノ供述ノ如キモ裁判所ハ之ヲ全部
引用シテ裁判ヲ爲ササルヲ得サルノ義務ナシ故ニ其證言中或ル部分ヲ引用セサリシモ之ヲ以

テ探證ノ法理ヲ誤マリタルモノト云フヘカラス故ニ本論旨モ其理由ナシ

其第三點ハ原判決事實ノ部ニ當事者雙方事實上ノ陳述ハ第一審判決書ノ摘示スル所ト同一ナ
リトアリ而シテ第一審判決書事實ノ部被上告人陳述ノ要旨ヲ掲ケタル事項ニハ金山村民ノ幾
部ハ乙第一號證ノ如キ契約ヲ爲シタル如キ次第ナルニ付云々トアリ即チ乙第一號證ハ村民
中幾部ノ契約ナルコトハ被上告人モ亦之ヲ自認セシ所ナレハ同證カ村民一同ノ契約書ニアラ
サルコトハ當事者間ニ於テ毫モ争ナキ所ナルニ原院カ漫ニ當事者間ニ争ナキ事實ニ立入り且
被上告人ノ自認ニ反シテ乙第一號證ヲ村方一同ヨリ差入レタルモノト認メラレタルハ違法ナ
リト云フニアレトモ○第一審判決事實ノ摘示中被上告人陳述ノ事項未段ニ金山村民ノ幾部ハ
乙第一號證ノ如キ契約ヲ爲シ云々トアルハ敢テ被上告人カ乙第一號證ハ金山村民ノ幾部ノ
ミノ契約ニ係ルコトヲ自認シタルノ意義ニ非スシテ被上告人先代カ甲第一號證ニ與書與印ヲ
爲シタルハ金山村及ヒ入會村ニ於テ一同故障ナキコトヲ確メタル上取扱ヒタル事實ヲ辯明ス
ル爲メ金山村民ノ幾部ハ乙第一號證ニモ連署シタル次第ヲ陳述シタルニ過キス而シテ被上告
人ハ乙第一號證ハ村方一同ヨリ被上告人先代等ニ對シ差入レシモノナリト終始主張セシ願末
ハ第一二審ノ口頭辯論ニ徴シテ明カナレハ原判決ハ上告論旨ノ如キ違法ナシ
其第四點ハ上告人ハ原院ニ於テ證人山口岩吉ノ證言中ニ此甲第一號證ニ入會村總代ト私ノ肩
書アルハ其時ハ總代ニハ無之モ左様ニ勝手ニ認メタルモノニアリマストアルヲ引用シテ甲第
一號ハ決シテ上告人等ノ承認シタルモノニ非サルコトヲ立證セシニ原院カ此點ニ付キ何等ハ

説明ヲモ與ヘスシテ反對ノ斷定ヲ下サレタルハ判決ニ緊要ナル理由ヲ缺キタルモノナリト云フニ在レトモ○原院ハ其適切ナリト認ムル數多ノ證據ニ徴シテ斷定ヲ爲シタルモノナルコトハ第一點乃至第三點ノ論旨ニ對スル説明ニ依リ之ヲ會得スヘキ筋合ニシテ要スルニ本論旨ノ如キハ原院ノ職權内ナル證據ノ取捨及ヒ事實ノ認定ヲ論難スルニ過キサレテ以テ其理由ナシ其第五點ハ曾テ加藤瀧太相續人加藤清太郎カ上告人等ニ係リテ提起シタル山業費請求事件(甲第六號證)ハ甲第七號證ナル大審院ノ確定判決ノ明示スル如ク加藤清太郎カ被告上告人先代龜太郎等ニ代リテ龜太郎等ノ運動費用ヲ請求シタルモノナレハ龜太郎ハ右事件ニ於テ清太郎ニ代表セラレタルモノト云ハサルヘカラサルニ原院カ甲第六號證ヲ以テ上告人等ト訴外人トノ訴訟ニ付キ裁判所ノ與ヘタル判決ナリトシ被告上告人ニ何等ノ關係ナキモノト如ク判示セラレタルハ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云ヒ其第六點ハ其目的違法ナリトテ裁判上無効ニ歸シタル契約ヲ記載シタル書面ヲ以テ其書面中ノ主要ナル事實(裁判上違法ナリトセラレタル事實)ヲ立證シ依テ以テ裁判上保護ヲ受クルコト能ハサルハ殆ト論テ候タス乙第一號證ハ原院ノ認メラルト如ク甲第六號證ノ確定判決ニ於テ違法ナリトシテ無効ト判決セラレタルモノナリ而シテ被告上告人ハ同證ニ依リテ上告人等ノ承諾アルコトヲ立證シ以テ上告人ノ請求ヲ排斥セントスルモノナレハ法律上決シテ許容スヘキモノニアラサルコト明瞭ナルニ原院ハ無効ノ約束ヲ記載スル書面ハ必スシモ事實ヲ證明スルノ材料トナラサルモノト云フヲ得ストノ理由ヲ以テ被告上告人申立ヲ採用シ尙ホ進ンテ被告上告人ノ自認ニ反シ乙第一號證ハ村方一同ヨリ差

判旨第五六

入レタル有効ノ證書ナリト判決シタルハ是取リモ直サス確定判決ニ於テ違法ナリトシテ無効ニ歸シタル契約證書ヲ裁判上更ニ有効ニ適用シタルモノニシテ獨リ確定判決ヲ無視スルノミナラス契約法理ニモ背戾シタル違法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ判決ハ確定カハ其主文ニ包含スルモノニ止マリ其理由中ニ引用シタル數多ノ證據ニマテ其効力及ホスヘキモノハ非ス況ンヤ甲第六號證ナル確定判決ハ上告人等ト加藤清太郎トノ間ニ於テ言渡ヲ受ケタルモノニ係リ被告上告人ハ之ニ關係セザリシコトハ該判決其モノニテ明カナルニ於テテヤ又原院決ニ於テ乙第一號證ヲ引用シタルハ契約ノ履行ヲ命シタルニ非ス只事實ヲ證明スル材料ニ供シタルモノヲ採用シタルニ過キサレハ原院決ハ上告人所論ノ如ク確定判決ヲ無視シ又ハ契約法理ニ違背シタル點ナシ故ニ原院決ハ此等ノ論旨モ亦上告適法ノ理由ナシ
上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○補償金請求ノ件

明治三十年第三十三號
明治三十年五月十八日第一民事部判決

○判決要旨

一 土地收用法ニ依リ收用セラレタル地所ニ付テノ補償金額ニ關スル請求權ハ同法ノ規定ニ遵據スヘキモノニシテ民法上ノ理由ニ基キ之ヲ主張スルコトヲ得ス(判旨第一點)

一 司法裁判所ハ土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ對スル訴ニアラサレハ審判スルノ權ナシ故ニ協議會ニ於ケル協議上ノ手續又ハ補償金額ニ關係ナキ裁決ニ付テノ不服ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニアラス(判旨第二點)

(第三輯第四卷所載明治三十年第十七號判決參看)

第一審 新潟地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 櫻井伊八郎

訴訟代理人 高橋拾六

被上告人 勝間田 稔

右當事者間ノ補償金請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年十二月九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ原裁判ノ判決末段ヲ按ズルニ被收用地ノ所有者カ土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ服セサルトキハ其裁決ニ對シ司法裁判所ノ裁判ヲ求メ得ヘキ旨ノ規定アリト雖トモ右委員ノ其他ノ裁決ニ付テハ訴ヲ許ス規定ナキカ故ニ土地收用法ニ依レル本件控訴人ノ訴ハ受理スヘキ限ニ非ス依テ主文ノ如ク評決セリトアリテ上告人カ提起セル本按ノ訴ヲ目スルニ土地收用法ニヨレル訴ナリト認定セルハ不當ニ事實ヲ認定セル不法アルモノナリ何トナレハ第一審訴狀ニ明記セル請求ノ原因ナル文意ニ徴スルモ本訴ハ土地收用法ニ因リ起訴シタルモノニアラサルコト明白ニシテ上告人ハ土地收用法ノ如何ニ係ハラス相當ナル補償金額ヲ求ムル權利アルヘキ旨ヲ主張シテ起訴シタルモノナレハナリ然リ上告人ニ於テハ第一審裁判說明ノ如キ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ經タル上ニアラサルハ上告人ニ訴權ナシトスル反對論ニ對シ百歩ヲ讓リテ其說ニ從フヘキモノトスルモ既ニ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ經アルモノナレハ此點ヨリ論スルモ訴權アリトノ趣旨ヲ第二段ノ假設論トシテ主張シタルニ過キサルナリ然ルニ前述ノ如ク原裁判ハ本訴ハ單ニ土地收用法ニ因レル起訴トシテ排斥セルハ上告人カ起訴セル請求ノ原因ヲ顧ミスシテ申立サル事物ヲ上告人ニ歸セシメタル不法アルモノナリト云フニ在リ○依テ訴狀中請求ノ原因ト題スル所ヲ閱スルニ本訴ヲ以テ土地收用法ニ關係セス單純ナル民法上ノ理由ニ基キ提起シタルモノト認ムヘキ廉ナク又第二審ノ口頭辯論

補償金額ノ請求權○司法裁判所ノ管轄

判旨第一點

調書ニ由ルモ其趣旨ノ徴スヘキモノナクレハ本論旨ハ其理由ナシ假リニ民法上ノ理由ニ基キ起訴シタルモノトスレハ本訴ハ不法ノ訴タルヲ免レス何トナレハ土地收用法ニ由リ收用セラレタル地所ニ付テハ補償金額ニ關スル請求權ハ民法ニ由リ附與セラレタル權利ナレハ苟モ之ヲ主張セントスレハ必ス同法ハ規定ニ違據セサルヘカラスシテ單ニ民法上ノ理由ニ基キ之ヲ主張スルヲ得サレハナリ故ニ何レノ點ヨリ觀察スルモ上告論旨ハ其理由ナシ

同第二點ハ抑モ本訴ヲ提起シタル理由ハ被上告人ニ於テ本訴ノ土地ヲ收用スルニ當リ法律第五十四號土地收用協議會規則ニ基キ協議會ヲ開キタル節上告人ハ定雇人渡邊要吉ヲ代人トシテ出席セシメ協議上ノ補償金額ニ異議ヲ申立テタルニ係ハラス偶々右要吉ニ於テ代人ノ委任ヲ差出サトルモノト同様ニ見做シ該法律ナル協議會規則第二條第四項ヲ應用シテ上告人ハ更ニ増額ヲ請求スル權ナシト判定シ從ツテ被上告人ハ其ノ裁決ノ趣旨ヲ以テ増額請求ニ應セサルヲ以テ本訴ヲ起シタルモノナリ果シテ然ラハ事實ノ論争上上告人ハ正當ノ理由アリテ協議會欠席シタルモノトセハ上告人ニ増額請求ノ權アルモノトナラサルヘカラス然ルニ原裁判ノ說明ノ如クセハ右協議會規則第二條第四項ノ明文ヲ不法ニ適用セラルレハ之レカ救済ノ道ナキニ至レルナリ而シテ本訴ノ土地收用審査委員會ハ現ニ不當ナル事實ノ認定ヲナシテ上告人ハ正當ノ理由ナクシテ欠席シタルモノト爲シ異議ヲ申立ツルコト能ハサルモノト裁決シタルナリ果シテ然ラハ土地收用法ニ因ルト否トニ拘ハラス上告人ノ訴權ナシト判定セル原裁判ハ協

判旨第二點

議會規則ノ明ニ與ヘアル救済ノ權利ヲ奪フモノニシテ不法ノ裁判タルヲ免レサルナリト云フニ在レトモ○司法裁判所ハ土地收用法第十五條ニ明示セル如ク土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ對スル訴ニアラサレハ之ヲ審理判決スルハ職權ナキモハナレハ假令協議會ニ於ケル協議上ノ手續又ハ補償金額ニ關係ナキ裁決ニ付不服アリトスルモ管轄外ノ事項ニ屬スルヲ以テ本院ニ於テ其當否ヲ辨明スルハ限ニアラス

同第三點ハ原裁判所ハ甲第三號證ナル土地收用審査委員會裁決書中ニハ上告人モ包含シアルコトヲ認メナカラ其裁決タルヤ審査委員會ノ裁決ヲ受クヘキモノニ非ストノ主趣ナルヲ以テ收用法ヲ補償金額ニ關スル裁決ニアラスト認定シ從テ土地收用法第十五條第二項ハ此場合ニ適用スヘカラスト判定スルハ(第一)不當ニ事實ヲ認定シ又(第二)不法ニ法律ヲ適用シタルモノナリ何トナレハ(第一)甲第三號證ナル裁決書中原裁判カ補償金額ニ關スル裁決ニアラスト判定シタル部分ハ上告人等ハ土地收用法議會ニ正當代人ヲ差出サ、リシヲ以テ補償金額ニ異議ナキモノト見做スヲ以テ今更裁決ヲ受ケテ補償金額ノ増額ヲ請求スル權ナシトノ趣旨ニ外ナラサレハナリ果シテ然ラハ原裁判ハ右裁決ヲ以テ收用地ノ補償金額ニ關スル裁決ニアラスト判定セルハ裁決書其物ニ違背シテ不當ニ事實ヲ認定シタルモノナリトス殊ニ(第二)土地收用審査委員會ハ土地收用法第八條ニ規定セル裁決ヨリ他ニ裁決スヘキ權能ナキモノナレハ苟クモ土地收用審査委員會カ下シタル裁決ナリトスレハ其八條中ノ一タラサルヘカラス而シテ其裁決ノ趣旨タルヲ更ニ裁決ヲ受ケテ増額ヲ求ムル權ナシ即チ原按ノ補償金額ニ甘スヘシトノ趣旨ヲ

ル以上ハ補償金額ニ關スル裁決タルハ勿論ニシテ土地收用法第十五條第二項ヲ適用セラルヘキハ勿論ナルニ原裁判カ該第十五條第二項ハ此場合ニ適用シ能ハスト判定スルハ法律ヲ不法ニ適用シタルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ第一ハ甲第三號證ナル裁決書ノ解釋ニ付原院ト意見ヲ異ニスルニ過キサレハ其理由ナク第二ハ結局第一ト同様論旨ニ歸着シ是亦其理由ナシ但シ上告人ニ對スル審査會ノ裁決ハ土地收用法第八條中ノ一ニ歸スヘキモノタルヤ否ヤノ如キハ審査會ノ職權ニ關スル事柄ニシテ司法裁判所ノ管轄以外ノモノナレハ其當否ハ是亦本院ノ判斷スヘキ限ニアラス

右説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ從ヒ主文ノ判決ヲ爲ス

○貸金請求ノ件

明治三十年第三十八號
明治三十年五月十八日第一民事部判決

○判決要旨

一 第一審ノ檢眞ノ裁判ニ對シ不服アルトキハ本案ノ控訴ト共ニ不服ヲ申立テ其判斷ヲ受シヘキモノトス

一 檢眞裁判ハ普通ノ中間判決ト同一ニシテ一旦其裁判ニ對シ不服ノ申立アリタルトキハ第二審裁判所ニ對シ羈束力ヲ有スヘキモノニアラス(以上判旨第一點)

第一審 岡山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

上告人 井上煥太郎 訴訟代理人 森 啓次郎

被上告人 藤原光繁

右當事者間ノ貸金請求事件ニ付大阪控訴院カ明治二十九年十一月二十八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點原判決ハ乙第一號證ハ私署證書ニシテ被控訴人之ヲ否認スル上ハ控訴人ニ於テ證據調ハ各審級コトニ更新スヘキ法理ニ基キ檢眞其他ノ方法ニ依リ其真正ナルコトヲ證明スヘキ答ナルニ云々甲第一號證ノ金圓ニ對スル辨濟ヲ證スルノ効力ナキモノトス下説明セラレタルモ成程上告人ハ原裁判所ニ於テ乙第一號證ニ付キ檢眞ノ申立コソナサトリシ然レトモ原裁

檢眞裁判ニ對スル不服申立○檢眞裁判ノ羈束力

判旨第一點

判所摘採スル如ク該證ハ既ニ第一審ニ於テ檢眞アリテ眞正ノモノト決定セラレタルニヨリ之ヲ採用シ立證辯論セリ即檢眞以外ノ方法ニ依リ其眞正ナルコトヲ證シタルニモ拘ハラヌ一面ニハ之レナキモノトシ單ニ被控訴人否認ノ一事ヲ以テ證據力ナキモノトセラレタルハ探證法ニ反シ不法ニ事實ヲ確定シタル不當ノ判決ナリト云フニアリ

○案スルニ檢眞ハ裁判ニ對シ不アルトキハ本案ハ控訴ト共ニ不服ヲ申立テ以テ控訴裁判所ハ判斷ヲ受クヘキモノトス、而シテ本件ニ於ケル控訴人ハ上告人ニシテ乙第一號證ニ對スル檢眞ノ裁判ニ付不服ヲ申立ツヘキ地位ニ在ルモノハ被上告人ナリ然ルニ被上告人ハ第一審裁判所ニ於テ勝訴ノ判決ヲ受ケタルモノナレハ之ニ對シ自ラ控訴スヘキ答ナケレハ此場合ニ於テハ上告人ノ控訴ニ附隨シテ單ニ右檢眞裁判ニ對シ不服ナル旨ヲ申立ツレハ充分ナリ、今一件記録ニ徴スレハ被上告人ハ乙第一號證ヲ否認スル旨ノ申立アリ此申立タルヤ用語上ヨリスレハ檢眞裁判ニ對シ直接ニ不服ヲ申立テタルモノトスルニ適切ナラスト雖モ其裁判ニ同意セサル點ニ於テハ同一ニ歸スルヲ以テ結局其裁判ニ對シ不服ヲ申立テタルモノト見做スヲ相當トス然ル上ハ原裁判所ハ本案ニ付審理ヲ爲スト均シク此點ニ付テモ亦審理ヲ爲シ相當ノ裁判ヲ爲スヘキ筋合ニシテ即チ上告人ニ於テ乙第一號證ノ眞正ナルコトヲ證明スヘキ立證ヲ爲サルモノトシ同證ノ眞正ナルコトヲ認メ難シト判斷シタルモノナレハ決シテ不法ニアラス、蓋シ上告人ハ第一審裁判所ノ檢眞裁判ヲ以テ第二審裁判所ヲ羈束スルノ力アルモノト思考スルモノ、如クナレトモ檢眞裁判ハ普通ハ中間裁判ト同一ニシテ一旦其裁判ニ對シ不服ハ申立アリタルトキハ第二審裁判所ニ對シ毫

同上

モ、羈束力ヲ有スヘキモノニアラス、故ニ本論旨ハ其理由ナシトス

第二點甲第二號證ハ三口ノ金圓ヲ合計シタルモノナリトハ被上告人ノ主張スル所ナレトモ其實被上告人カ上告人ヨリ不法ニ奪取セシモノニ係ルヲ以テ(第一)乙第二號證ヲ以テ(第二)甲第二號證ノ成立ニ付キ被上告人ハ豫審判事ノ問ニ對シテハ三口ノ金額ヲ合計シタルモノナリト陳述シ本訴ニ於テハ三口ヨリ多キ口數ノ金額ヲ合計シタルモノナリト陳述シ其陳述前後符合セサルコトヲ以テ(第三)其合計シタリト云フ金額中ニ乙第三號證及乙第四號證金額ヲ加ヘアリ而シテ兩證トモ被上告人ヨリ上告人ヘ差入レタル帳簿ニシテ被上告人ハ固ヨリ其成立迄モ認め居ルモノナリ其乙第三號證ヲ以テ該證記載ノ金額ハ明治二十七年三月三日證書ニ改メタリトアルヲ以テ甲第二號證ニ組入ルヘキ答ナク又乙第四號證ハ未タ決算タニ決了セサルモノナルヲ以テ亦甲第二號證ニ組入レント欲スルモ能ハサルコト(第四)乙第六號證証告豫審調書及乙第十號證ヲ以テ甲第二號證日付ノ當時上告人ハ旅行中ニ係ルヲ以テ實際授受シ得ラレサル事等ヲ以テ立證シ其成立不法ナルヲ論辯セシニ原院ハ(第一)甲第二號證ハ被上告人ニ奪取セラレタルモノナリトノ證據ノ一トシ乙第二號證ヲ提出シタルニ原裁判所ニ乙第二號證ハ控訴人カ被控訴人ヨリ受取タル後事ニ托シテ留置シタルモノナルヤモ計ル可ラサルニ付之カ控訴人ノ手ニ存在スレハトテ甲第二號證ヲ被控訴人カ奪取シタリトハ認ム可ラスト說明セラレタルモ事ニ托シテ留置スル如キハ變例ニ屬ス故ニ須ラク其立證ナカルヘカラス然ルニ被上告人ヨリモ其立證ノ端緒タモ申立テサルニモ拘ハラヌ原裁判所カ擅ニ變例ノ認定ヲナシ乙第二號證ヲ排

斥シタルハ之亦探證法ニ反シ不法ニ事實ヲ確定セシ不當判決ナリ(第二)ニ就テハ其陳述前後符合セサルモ是レ實ニ一小事ノミ此一小事ニ重キヲ置キ以テ被控訴人カ甲第二號證ヲ不正ニ得タリト認ム可キ謂ハレアラサルナリト説明セラレタルモ元來虛構ナリ虛構ナル故ニ陳述毎ニ相違ヲ來タセシナリ而シテ之レ甲第二號證成立ノ基礎ナレハ決シテ一小事ニアラサルナリ假リニ一小事ナリトスルモ一小事ナラハ不正モ不正ニアラス採用スヘキ立證モ採用セスシテ可ナリトノ法理ハ存セサルナリ原裁判ハ即探證ノ法理ニ違反セリ(第三)ニ就テハ甲第二號證成立上尤主要ノ點ナルニ依リ特ニ乙第三號證及乙第四號證ヲ提出シ其成立ノ不正ナルコト及成立シ能ハサルコトヲ論辯セシニ之ニ付キ一言ノ説明タモナク甲第二號證ヲ注意ニ交附セシモノトセラレタルハ重要ナル爭點事實ヲ遺脱シ且裁判ニ理由ヲ附セサルモノナリ(第四)ニ就テハ乙第十號證ニ對シテハ不法ナカラモ其排斥セシ説明アルモ乙第六號證ニ對シテハ何等ノ説明ナキナリ之レ亦爭點事實ヲ遺脱セシ不法アリト云フニ在レトモ(右ノ内第一第二ハ全ク事實ノ認定ニ對スル攻撃ニシテ上告ノ理由トナラス又第三ニ付テハ原院ニ於テ甲第二號證中ニ乙第三號證第四號證ノ金員モ包含シ居ルモノト判斷シタル以上ハ上告人ノ論旨ハ自然排斥セラレタル筋合ナレハ之ニ對シ特ニ説明スルノ要ナシ第四ニ付テハ原院ハ當事者ノ提出セル各證據ニ對シ逐一説明スヘキノ職責ナケレハ乙第六號證ヲ排斥スルノ理由ヲ明示セサリシトテ不法ト云フヲ得ス

以上説明ノ如ク本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

〇地所書入登記回復請求ノ件

明治三十年第三百一號
明治三十年五月十九日第二民事部判決

〇判決要旨

一 一定ノ申立ハ起訴者カ事件ニ付キ如何ナル判決ヲ請求スルニ在ルヤ其意思ヲ表示セシムル爲メノ要件ナレハ其請求ノ主旨ヲ明記スレハ足り必スシモ訴求ノ目的物ヲ逐一列記スルノ要ナシ(判旨第一點)(第三輯第四卷所載明治二十九

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院
 上告人 河津 進 訴訟代理人 朝倉外茂鐵 榎原三四郎
 被上告人 千藤源八郎 外一名 訴訟代理人 板倉 保田爲一郎

右當事者間ノ地所書入登記回復請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年四月十八日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ且被上告人ハ期日出頭セサルニ付開席ノ儘判決アリタキ旨申立タリ

判決

一定申立ノ主旨

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點ハ原院判決理由中當院ハ職權ヲ以テ一件記録ヲ調査スルニ被控訴人即原告カ明治二十八年八月三十日第一審裁判所ニ提出シタル訴狀一定申立ニ云々トアリ又明治二十八年十月十四日第一審裁判所ニ提出シタル訴訟訂正申請ニモ云々トアリ孰レモ字番號段別ヲ記載セサルモノナレハ前掲五十五筆ノ地所ハ如何ナル地所ヲ指示シタルモノナルヤ之レヲ知ルニ由ナシ然則本訴ハ民事訴訟法第九十條第三號ノ要件ヲ具備セサルモノナルヲ以テ不適法トシテ却下スヘキモノトス云々トアリ而シテ第一審裁判所ハ提出シタル上告人ノ訴狀ヲ見ルニ請求目的ノ點ニハ五十六筆ノ地所ヲ悉ク列記シアリテ又一定ノ申立ノ所ニハ右ノ次第ナルヲ以テ被告源八郎ハ原告ニ對シテ總國千葉郡更科村大字上州五十九番字上表耕池内田八畝二十五歩(此ノ一筆ハ請求目的ノ所ニ列記アル初筆ノ地所ニシテ其以下カ即五十五筆ノ地所ナリ)外五十五筆ノ地所ニ付云々トアルヲ以テ外五十五筆ノ地所ハ請求目的ノ處ニ列記アル右一筆ノ地所以下ノ五十五筆ノ地所ヲ指示シタルコトハ自ラ知ルニ足ルヘク加之第一審裁判所判決主文ニ於テモ亦(上畧)田八畝二十五歩外訴狀列記ノ五十五筆ノ地所ニ付云々ト即訴狀列記云々ト證シアルニ於テカヤ故ニ五十五筆ノ地所ハ何ツレヨリ見ルモ其請求目的ノ初筆以下ノ五十五筆ノ地所ヲ指示シタルコト明瞭ナリ然ルニ原院ニ於テ五十五筆ノ地所ハ如何ナル地所ノ指示シタルヤ知ルニ由ナク云々ト言渡シタルハ甚タ不法ノ判決ナリ若シ原院判決ノ理由ノ如ク

判旨第一點

一定ノ申立ノ個所ニ於テ五十六筆ノ地所ヲ悉ク列記シ且又請求目的ノ個所ニ於テモ亦五十六筆ノ地所ヲ悉ク列記スルトセハ唯ニ重複(重複ニ記スルモ差支ナキモ)ノ繁アルノミニシテ何等ノ効用ナカルヘシ故ニ同條ハ右様ノ精神ニアラサルヘシ又同條ヲ見ルニ三個ノ條件ヲ具備スルヲ要ス云々トアリテ請求ノ目的及一定ノ申立ノ點共ニ悉ク詳記スヘシトアラス而シテ該訴狀一定申立ノ個所ニアル五十五筆ノ地所ト云フモノハ請求目的ノ個所ニ列記スル初筆一筆ノ地所ノ外何レニモアルコトナシ左レハ其五十五筆ノ地所ハ請求目的ノ五十六筆ノ内ノ五十五筆ノ地所ヲ指示シタルコト明知スルニ足ルヘシ然ルニ知ルニ由ナク云々ト言渡セシ原院ノ判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○按スルニ民事訴訟法第九十條第三號ニ所謂一定ノ申立ハ起訴者カ事件ニ付如何ナル判決ヲ請求スルニ在ルヤ其意思ヲ表示セシムル爲メハ要件ナシハ其請求主旨ヲ明記スルハ足ルニ必シモ之ニ訴求ノ目的物ヲ逐一列記セサルヘカラサルハ要アルモノニアラス今本件ハ訴訟記録ニ就キ第一審廷ニ提出シタル訴狀ヲ閱スルニ上告人カ前ニ掲グル所ト同一ノ記載アリテ二項相参照スレハ所謂外五十五筆ノ何物タルコトハ實ニ明了ニシテ毫モ不適式ト見ルヘキ廉ナキニモ拘ラズ原裁判ニ於テ外五十五筆トハ如何ナル地所ヲ指シテ之ヲ知ルニ由ナシトテ民事訴訟法第九十條第三號ハ要件ヲ欠クモノト爲シ訴訟却下ノ言渡ヲ爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノトテ上告人ハ申告スル所其理由アリトス既ニ此點ニ於テ原裁判ヲ破毀スヘキモノト決スル以上ハ他ノ上告點ニ對シ一々説明ヲ與フルノ必要ナキニ付別ニ説明セス

上文辯明ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ同第四百四十八條第一項ニ從ヒ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

○詐害行爲廢罷及定約履行請求ノ件

明治三十年五月二十一日第二民事部判決

○判決要旨

一 明治六年第二百十二號布告ハ明治八年司法省甲第一號布達ト相俟テ解釋スヘキモノニシテ同達ニ依レハ證書中年月日ノ署記アルモノハ時期ノ早晚ヲ定ムルニ付キ證據トナラストノ精神ニ外ナラス故ニ日附ナキ證書ハ絕對的其成立ヲ爭フヲ得ス又ハ裁判所ニ提出シタル日ヲ以テ其成立ノ時期ナリト定ムヘシトノ旨趣ニ解スヘキモノニアラス(判旨第一點)

(參照) 來ル七月十日以後ノ證書類及ヒ公私ノ文書ニハ總テ年號月日ヲ記載可致若シ疎漏ニシテ年月日ノ内何レニテモ署記シタルトキハ裁判上證據ニ不相立候事(明治六年百十二號布告)明治六年第二百十二號ヲ以テ年月日ノ内何レニテモ署記シタル諸證書類及公

私文書等ハ裁判上證據ニ不相立旨布告相成候ハ其證書全ク證據ニ相立サル義ニハ之レナク只其年月日ノ早晚ヲ定ムヘキ證據ニ相立タル義ニ候條右等ノ證書ヲ以テ年月日ノ早晚ニ拘ハラス其記入ノ事件ニ付訴訟ニ及フトキハ取揚ケ裁判ニ及フヘク候條此旨布達候事(明治八年司法省甲第一號布告)

一 明治九年第九十九號布告ハ金穀等ノ借用證書ヲ他人へ讓渡スルトキノ手續ヲ規定シタルモノナリ故ニ頼母子講金取立ノ權利ヲ賣買セシ如キ場合ニ適用スヘキモノニアラス(判旨第八、九點)

(參照) 金穀等借用證書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ證書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡證書有之トモ仍ホ讓渡ノ効ナキモノトス此旨布告候事(明治九年第九十九號布告)

第一審 仙臺地方裁判所石卷支部 第二審 宮城控訴院

上告人 三浦貞治 訴訟代理人 草刈親明

被上告人 門馬 作右衛門 外三十七名 外十名

右當事者間ノ詐害行爲廢罷及定約履行請求事件ニ付宮城控訴院カ明治二十九年十二月九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

年月日署記ノ證書○講金取立權ノ賣買

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一論旨ハ原判決文ヲ閱スルニ「新乙第一號證ノ一ハ岩井清吉ノ證書ニ依リ其成立ヲ認メ得ヘク新乙第一號證ノ二ノ一、二ノ三ハ其被控訴人等ノ名下ノ印影ヲ第一審ニ於ケル被控訴人等カ訴訟代理委任狀名下ニ押捺セル印影ニ比較シ毫モ相違スル點ナキヲ以テ其真正ノ成立ヲ認メ得ヘク新乙第二號證ハ被控訴人等カ家島儀三郎ノ筆蹟印影ナルコトヲ爭ハサル新甲第一號證ト對照シ同一ナルヲ以テ是レ亦タ真正ニ成立シタルモノト認定ス云々以上有効ナル證書ノ記載ヲ以テ之ヲ被控訴人ノ成立ヲ爭ハサル新乙第三四五六號各證及證人岩井清吉ノ證書ニ參照スルトキハ本訴講株ニ關スル權利ハ控訴人主張ノ事實ノ如ク之ヲ被控訴人ヨリ家島儀三郎ノ周旋ヲ以テ岩井清吉ニ賣渡シ清吉ハ更ラニ之ヲ控訴人等ニ賣渡シタル事明確ナリ云々ト云フニ在テ其要ハ新乙第一號證及新乙第二號證ハ總テ有効ナルヲ以テ本訴講株ハ上告人ニ於テ岩井清吉ヘ賣渡シタルモノト認定ス故ニ上告人ノ請求權ハ全ク消滅シタルモノト判決スト云フニ歸ス然ル處新乙第一號證ノ二ノ一乃至三ハ共ニ私成證書ニシテ何レモ上告人カ絕對的ニ認メサル證書ニ係リ且ツ新乙第一號證ノ二ノ一乃至三ニハ何レモ證券印紙貼用ナキヲ以テ決シテ真正有効ノ證書ト爲シ得ヘキモノニアラス原裁判所カ新乙第一號證ノ二ノ一及ヒ二ヲ有効ト爲シタル理由ハ之レヲ要スルニ誤認タル既ニ時効ニ係リタルモノナレハ被上告人自身カ其印紙ヲ貼用シテ足レリト云フニ在レトモ抑モ該證タル私成證書ニシテ上告人カ其成立

ノ根元ヲ爭フモノナルヲ以テ其證書ノ日付ハ明治二十六年八月二十日ナルモ被上告人等ノ申立カ其之レト符合スルモ他ノ確定セル證左ノ見ルヘキモノ之レアルニアラサレハ結局被上告人カ原裁判所ヘ提出シタルハ明治二十九年一月二十四日ナルヲ以テ其當日ノ成立ト認ムル外途ナク決シテ被上告人ノ申立又ハ證書面ノ日付ノミニ依リ該證カ果シテ明治二十六年八月二十日ノ成立ニ係ルモノナリトハ判シ得ヘカラサル筋合ナルヲ以テ從テ該證ハ未タ時効ニ係ラサルモノ也特ニ新乙第一號證ノ二ノ二ノ如キニ至テハ證書其物カ明示スル如ク年號月日ノ署記ニ係ル證書ナルヲ以テ其成立ノ日付ハ果シテ何年何月何日ニ在ルヘキカ到底之レヲ知ルニ由ナキモノナルノミナラス明治六年第二百十二號布告及ヒ明治八年司法省第二號ノ達ニ依リハ年號月日ノ明記ナキ證書ハ絕對的其成立年號月日ヲ爭ヒ得ヘキモノナラサルヲ以テ該證カ既ニ時効ニ係ルモノトセンニハ必スヤ該布告等ニ打テ勝ツヘキ反證ヲ擧ケ以テ其成立ノ日付ヲ確定スルト同時ニ時効ハ何レノ日ヨリ起算シタルモノナルヤノ事實理由ヲ明示セサルヘカラサルモノナルニ原裁判所ハ毫モ其事實理由ヲ明示セズ直チニ該證ヲ以テ時効ニ係レリト判決シタリ約言スレハ原判決ハ新乙第一號證ノ二ノ一乃至二ノ三ニ付テハ何年何月ノ成立ナルヲ以テ時効ニ係ルカ故證券印紙不貼用ノ犯則ナシトスルカノ理由ヲ欠クト共ニ證券印紙規則及ヒ明治六年第二百十二號布告ヲ適用セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ依テ○按スルニ明治八年司法省布達甲第一號ハ明治六年六月布告第二百十二號ハ意味ヲ闡明セルモハニシテ同達ニ依リハ年月日ハ内其一ヲ署記シタル書類ハ其早晚ヲ定ムルニ付キ證據トナラストハ

判旨第一點

年月日署記ノ證書○購金取立權ノ賣買

精神ニ外ナラズ上告人ハ云フ如ク日附ナキ證書ハ絶體的其成立ヲ争フヲ得ス又之ヲ提出シタル日ヲ以テ其成立ノ時期ナリト定ムヘシトハ旨趣ニ非ルヤ論ヲ俟ス故ニ事實裁判所ハ諸般ノ證據方法ニ依リ如斯キ證書ノ成立時期ヲ定ムルハ固トヨリ自由ニシテ法規上何等ノ妨ケアルコトナシ今原判文ヲ閱スルニ原裁判所ハ日附ニ付キ争アル乙第一號證二ノ一乃至三ニ付キ明カニ其成立ノ時期ヲ判示セサルモ元來該三通ノ證書ハ上告人等カ本訴講金ニ對スル權利ヲ岩井清吉ニ賣渡シタルコトヲ證スル書證ニシテ執レモ正當ニ成立シタルコトハ原判決理由ノ冒頭ニ於テ判定シアリ而シテ新乙第二號證ハ控訴代理人立證ノ主旨ニ依レハ(明治二十九年一月二十四日附口頭辯論調書ニ據ル)本訴請求ノ株券ハ全ク岩井清吉ノ所有ナルコトヲ證ストアリ即チ家島儀三郎カ清吉ノ爲メ周旋ノ勞ヲ執リ右賣買取引ヲ結了シタル後清吉ト儀三郎ノ間ニ授受シタル證書ナルコトヲ知り得ヘシ然ルニ右新乙第二號證ノ日附ハ明治二十六年十二月二十四日附ナルニ依リ原裁判所ハ該證ヲ真正ニ成立タルモノト認メタル結果之ニ牽連セル新乙第一號證二ノ一乃至三ハ假令其作成ニ關スル正確ナル時期ヲ知ルヲ得サルモ兎ニ角右新乙第二號證ノ日附以前ニ成立チタルモノト判斷シタル事理明瞭ナリ左スレハ該三通ノ證書ハ上告代理人ニ於テ被上告人カ之ヲ原裁判所ニ提出シタリト云フ明治二十九年一月二十四日ヨリ起算スレハ勿論假リニ控訴狀提起ノ日即チ明治二十八年十月二十二日ヨリ前記新乙第二號證ノ日附ニ溯テ計算スルモ十數月以前ニ成立タル證書ニシテ既ニ六ヶ月以上ヲ經過シタルコト自ラ明カナルニ依リ時効經過ノ有無ヲ定ムル爲メニハ日附ニ付キ相當ノ判斷アリタルモノト

云ハサル可ラス故ニ原判決ハ上告所論ノ如キ違法ナシ

同第二論旨ハ原判決ニ新乙第一號證ノ二ノ一、二、三ハ其被控訴人等ノ名下ノ印影ヲ第一審ニ於ケル被控訴人等カ訴訟代理委任狀名下ニ押捺セル印影ニ比較シ毫モ相違スル點ナキヲ以テ其真正ノ成立ヲ認メ得ヘク云々トアリ依テ新乙第一號證ノ二ノ一、二、三ト上告人カ第一審ニ提出シタル訴訟代理ノ委任狀ヲ對照シ見ルニ新乙第一號證ノ一、二、三中該委任狀ニアル上告人佐藤虎吉佐藤傳左衛門首藤久兵衛佐藤五郎右衛門高橋市之丞外數名ノ記名アルコトナケレハ從テ該新乙第一號證ノ二ニ右虎吉外數名ノ印影ナリト認メ得ヘキモノアルヘキ事實ナシ左レハ原裁判所カ佐藤虎吉佐藤傳左衛門高橋市之丞等カ該委任狀ニ押捺セル印影ト新乙第一號證ノ二ノ一、二、三中右虎吉等ノ印影トヲ對照シタリトノ事及其印影カ同一ナリトノ事ハ共ニ毫モ懸據スル所ナキ判決ニシテ即チ虛無ヲ以テ現在ト爲シタル認定ニ基ク不法ノ裁判ナリト云フニア

ルモ〇對照書類タル委任狀中新乙第一號證二ノ一乃至三ノ署名押印ハ悉ク之ヲ徵スヘキモノナキニモセヨ既ニ其中或ル者ノ印影カ符合スル等ノ事アレハ原裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ該證書ノ眞否ヲ判斷シ得ヘキニ依リ原判決ハ上告所論ノ如キ違法ナシ

同第三論旨ハ被上告人カ新乙第一號證ノ一ヲ以テ岩井清吉ヨリ買得シタリト主張スル新乙第一號證ノ二ノ一、二、三ニシテ果シテ前項ノ如ク其債權賣渡人申上告人佐藤虎吉佐藤傳左衛門首藤久兵衛佐藤五郎右衛門高橋市之丞ナル者ノ記名之レナシトセンカ然ラハ則チ清吉カ右虎吉等ヨリ其債權ヲ買得シタリトハ更ニ立證ナキ事實ナルヲ以テ從テ被上告人カ眞シ清吉ヨリ新

乙第一號證ノ二ノ一、二、三ニ於ケル債權ヲ買得シタルトスルモ爲メニ其賣渡人以外ニ在ル虎吉等ノ債權迄被上告人ニ移轉スヘキ條理ナキヤ甚タ明確ナル次第ナリ左レハ原裁判所カ右虎吉等ノ債權ヲ以テ他ノ上告人ト共ニ岩井清吉ニ賣渡シ清吉ハ更ラニ之ヲ控訴人等ニ賣渡シタルコト明確ナリ即チ右權利ノ實體ハ全ク被上告人ノ手ヨリ脫離シ云々被控訴人及清吉トモ右ニ關スル權利消滅シタル以上ハ右權利ニ基ク本訴請求權モ亦タ消滅スヘキハ論ヲ待サル所ナリト判決シタルハ全ク條理ニ背反シテ權利移付ノ原則ヲ不法ニ適用シタルモノナリト云フニア

ルモ○原裁判所ハ本訴講金ニ對スル權利ヲ上告人等カ岩井清吉ニ賣渡シタルコトハ單ニ新乙第一號證二ノ一乃至三ノミニ依リ判定シタルニ非ス尙ホ他ノ證據ヲ參酌シテ此判斷ヲ下シタルコトハ原判文中新乙三、四、五、六號各證及ヒ證人岩井清吉ノ證言ニ參照スルトキハ云々トアルヲ以テ明瞭ナリ故ニ原判決ハ上告所論ノ如キ違法ナシ

同第四論旨ハ原判決ニ被控訴人ハ第二審ニ於ケル證人及ヒ本人ノ陳述ヲ其利益ニ採用スルモ是等陳述中一モ前段列記ノ憑據ニ因リ斷定シタル事實ヲ覆ス程ノ價值アルヲ認ムルヲ得ストアリ案スルニ原裁判所ハ上告人ノ舉ケシ第一審ノ證人武山彌一郎等ノ證言ハ以テ清吉カ本訴ノ債權ヲ上告人等ヨリ買得シタルモノナリトスル事實ニ反抗シ得ヘキ効力アルモノナシトスルニアランカ證據ノ採擇ハ苟モ非難スヘキモノニアラスト雖モ上告人カ右彌一郎等ノ證言ヲ以テ本訴ノ證據ニ供シタルモノハ要スルニ本訴ハ清吉カ上告人ノ債權ヲ買得シタルトハ事實ナリヤ否ヤト云フニ在ルカ故其反對ノ事實ヲ舉ケテ一ノ防禦方法ト爲サンカ爲メ也即チ本訴

ノ債權ハ假リニ賣買シタルモノトスル時ハ買得者ハ家島儀三郎ニシテ岩井清吉ニアラザルヲ以テ清吉ヨリ買得シタルト云フ被上告人ノ主張ハ其買アリトスルモ毫モ價值ナキモノナリトノ事實ヲ立證セントスルニ在リキ(明治二十九年十二月四日準備書面)宣誓シタル證人彌一郎ハ曰ク家島儀三郎ニ自分持株ヲ賣渡ス云々三浦熊吉ハ曰ク愛信會ノ株ハ一株五圓ニシテ家島儀三郎ニ賣渡シタリ云々佐藤五郎右衛門ハ曰ク自分ハ愛信會ノ株主ニシテ其親母子ハ休ミ居レリ自分所持ノ株ハ金五圓ニシテ家島儀三郎ハ賣却セリ云々トアル如キ皆ナ之レ其債權ヲ買得シタル者ハ儀三郎ナリト云フニ在テ一トシテ清吉ナリト云フモノナキヲ以テ右證言ハ上告人等カ其買主ハ清吉ナリト云フニ對シテハ充分ナル反抗力アルモノト確信セサルヲ得ス況ンヤ被上告人ハ第一審ニ於テ該債權ノ買主ハ家島儀三郎ナリト主張シ終ニ武山彌一郎外數名ヲ證人ト爲シテ其證言ヲ要メ且ツ其證言ニ基キテ事實上唯一ノ防禦方法ト爲シタル事アツテ而シテ此事實ハ彌一郎等ノ證言ト併セ上告人カ依テ以テ原審ニ於テ岩井清吉ノ證言ニ對スル反對事實ト爲シタルモノ之レアルヲ故ニ若シ夫レ其反抗力ナキモノトセンカ宜シク其事實理由ヲ明示シテ右證人等ノ證言ヲ排斥セサルヘカラサルモノナルニ原裁判所ハ上陳ノ如ク單ニ其認メタル事實ヲ覆ス程ノ効力ナシトノミ判定シタリ即チ重要ノ證據ニ對シ裁判セサル不法アリト云フニアラモ○原裁判所ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサ

同第五論旨ハ事實ノ如何ハ暫ク措キ被上告人ノ事實ト證據トヲ以テ假リニ眞實ナリトスルモ

本訴債權ノ買主ハ唯々清吉ノミニアラスシテ儀三郎モ亦々其一人ナリ即チ清吉ト儀三郎トハ共同シテ上告人等ヨリ該債權ヲ買得シタルモノナレハ清吉一人カ假令之レテ被上告人等へ賣却シタルハトテ決シテ効力アルヘキ契約ニアラストハ上告人カ原裁判所ニ於テ證人武山彌一郎等ノ證言及眞正ト假定シタル新乙第一號證ノ二ノ一、三ノ家名ニ崎井清吉殿家島儀三郎殿等トアル事實ニ基キ詳シク論述シタル所ナレハ原裁判所ニシテ若シ右主張ノ事實證據ヲ排斥セントセハ其理由ヲ明示セサルヘカラサルモノナルニ此點ニ付キテモ前項ト同シク毫モ判決スル所ナク直チニ家島儀三郎ヲ以テ岩井清吉ノ運動者ニ過キサルモノト爲シタリ右ハ畢竟スルニ現ニ提出セラレタル重要ナル事實證據ヲ度外ニ措キタル越權不法アル裁判ナリト云フニア

ルモ○原裁判所ハ數多ノ證據ヲ參酌シテ家島儀三郎ハ岩井清吉ノ爲メ周旋ノ勞ヲ執リタル迄ニシテ賣買當事者ニアラスト認メタルコトハ原判決文ニ照シテ明カナリ要スルニ本論モ原裁判所ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニ依リ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

同第六論旨ハ原判文ニ新乙第二號證ハ被控訴人カ家島儀三郎ノ筆蹟印影ナル事ヲ爭ハサル新甲第一號證ト對照シテ同一ナルヲ以テ亦々眞正ニ成立シタルモノト認ムトアリ仍テ一件書類ヲ查閱スルニ右ニ類スル新甲第一號證ナルモノ絶テアルコトナシ左レハ原裁判所カ新甲第一號證ニ付キ上告人カ其筆蹟等ヲ爭ハストカ又ハ該証ト新乙第二號證ト對照シタリトカ云フハ共ニ之レ虚無ノ事實ニ基ケル或ル一種ノ臆測ニ過キスシテ證據上最モ不法ノ事實ナリト信ス即チ提出セラレサル證據ニ對シ云爲セサルヲ以テ相手方ノ主張ヲ明ニ爭ハサルモノト認メタ

ルカ如キ豈ニ失當ノ極ナラスヤト云フニアルモ○新甲第一號證ヲ原裁判所ニ提出シタルコトハ上告代理人ノ認ル處ニシテ又原記録ノ證スル處ナリ而シテ被控訴人(上告人)カ之ヲ取下ルニ付テハ控訴人(被上告人)ノ承諾ヲ要スルコトハ法律ノ規定スル處ナリ然ルニ一件記録中控訴人カ承諾ヲ表シタル形跡ナキハ勿論控訴人カ之ヲ取下タル形跡ノ視ルヘキモノナシ故ニ該證書寫カ一件記録中添綴ナキ一事ヲ以テ之ヲ取下タルモノト認メ難キニ依リ原判決ハ上告所論ノ如キ違法アルモノト云フヲ得ス

同第七論旨ハ民事訴訟法第二百二十九條ニ口頭辯論ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ第一辯論ノ場所ノ(年月日)云々ト之アリ故ニ苟モ其辯論ニ年號月日ヲ記載セサル調書ノ如キハ當然無効ニ歸セシメサルヘカラサルモノト信ス原裁判所カ被上告人ノ申請ヲ容レ岩井清吉ヲ證人トシテ召喚スル旨ヲ決定シタル其口頭辯論調書ヲ閱スルニ單ニ右當事者ノ明治二十八年(子)第二〇六號詐害行為廢罷及定約履行ノ控訴事件ニ付キ明治年月日午前十二時三十分宮城控訴院ニ於テ云々ト而已記載アリテ其辯論ノ年號月日ヲ記載セス故ニ該調書タル固ヨリ其効力アルヘキ答ナキヲ以テ若シ清吉ナシテ證人タラシメントセハ更ラニ正式ニ依レル證據決定ノ後ナラサルヘカラサルモノナルニ原裁判所ハ右違法ノ證據決定ヲ繼續シテ清吉ヲ證人ト爲シ取調ヘ其無効タル證言ヲ採用シ重要ナル争點ニ付キ證人岩井清吉ノ證言ニ參照スルトキハ本訴講株ニ關ル權利ハ控訴人主張ノ事實ノ如ク之レヲ被控訴人ヨリ家島儀三郎ノ周旋ヲ以テ岩井清吉ニ賣渡シ云々ト判決シタリ即チ訴訟手續及證據法ニ背反セル不法ノ判決ナリト云フニアルモ○原記録ニ

敷スルニ該口頭辯論證書ノ末葉ニハ「右調査ハ法廷ニ於テ關係人ニ讓聞カセタル處控訴代理人
 ハ之ヲ承諾セリトアリ其日附ハ明治二十九年五月十一日ナルニ依リ當日決定ヲ爲シタルコト
 明カナリ故ニ本論モ亦其理由ナシ
 同第八論旨ハ新乙第一號證ノ二ノ一、二、三、ハ共ニ上告人等ニ於テ被告上告人ニ對スル債權即チ貸
 金證書ヲ岩井清吉及家島儀三郎へ賣渡シタルモノナルヲ以テ其契約ヲ有効ナラシメントスルニ
 ハ必スヤ明治九年第九十九號ノ布告ニ基キ其債務者即チ借用人タル被告上告人ノ承諾ヲ得サル
 ヘカラサルモノナルコト勿論ナリ然ルニ新乙第一號證ノ一、二、三、ハ何レモ皆上告人ト岩井清吉
 等トノ間ニ成立シタル私約ニ過キスシテ被告上告人等カ之レニ對シ承諾ヲ與ヘタル事實之レナ
 キモノナルコト原裁判所カ明ラカニ認ムルカ如キ處ナレハ右新乙第一號證ノ二ハ該九十九號
 布告ニ違背セル無効ノ證書ナルコト最モ明確ナルヲ以テ從テ被告上告人カ右新乙第一號證ノ一
 ニ依テ元來無効ナル新乙第一號證ノ二ノ一、二、三、ニ基ケル本訴債權ヲ買得シタル其契約モ亦タ
 無効ナルコト固ヨリ爭ヒ得ヘキ事ニアラサルヘシ之レ上告人カ原裁判所ニ於テ假リニ新乙第
 一號證ノ二ノ一、二、三ノ成立ハ事實ナリトスルモ其契約ハ該九十九號布告ニ依テ無効ナリト反
 抗シタル所以ナリ被告上告人カ原裁判所ニ於テ新乙第一號證ノ二ノ一、二、三ヲ利益ノ證據ト爲シ
 タルハ恰モ該證ノ契約ヲ追認シタルモノトセンカ抑モ無効ノ行爲ハ追認ニ因テ其効力ヲ生ス
 ヘキモノニアラス故ニ追認ハ決シテ該契約ヲ有効ト爲シ得ヘキモノニアラサルニ依リ被告上告
 人カ右新乙第一號證ノ二ノ一、二、三、ニ基キ本訴債權ハ既ニ被告上告人ニ移轉セリト爲スハ甚タ不

當ノ事ナリ原裁判所ハ第九十九號ノ布告ヲ解釋シ其結果トシテ本件ハ債務者タル被控訴人カ
 其讓渡ノ事實ヲ自己ノ利益ニ援用スル場合ニ適用スヘキモノニアラスト判決シタリ此法律ノ
 解釋ハ或ハ其當ヲ得タルモノナラン唯タ被告上告人ヲ以テ新乙第一號證ノ二ノ一、二、三、ヲ自己ノ
 利益ニ援用スルモノト認メタルハ誤ナリ何者被告上告人ノ主張ハ原裁判所カ云フ如ク新乙第一
 號證ノ二ノ一、二、三ハ他ノ事實ニ依リ本訴ノ債權ヲ買得シタリトスル對證トシテ之レヲ援用ス
 ルモノニアラスシテ該證ニ依リテ直接ニ本訴ノ債權ヲ買得シタル契約事實ヲ有効ナリト主張
 スルモノナレハナリ即チ原判決ハ被告上告人ノ主張ヲ誤解シ終ニ理由トナラサルモノナリ理由ト
 爲シタル不法アルノミナラス該第九十九號ノ布告ヲ度外ニ措キ之ヲ適用セサル不法アルモノ
 ナリ尤モ該第九十九號ノ布告ハ重ニ其讓渡證書ニ依テ讓渡ヲ爲ス處ノ證書カ果シテ債務者ノ
 承諾上成立シタル有効ノモノナルヤ否ヲ確ムルノ必要ヨリ發セラレタルモノナルヘケレハ眞
 シ原裁判所カ云フ如キ理由アルモノトスルモ其一部即チ門間作右衛門外十名カ之レヲ自己ノ
 利益ニ援用シタルハトテ他ノ一部即チ佐藤太平外十九名カ明カニ之ヲ認メサル結果或ハ一審
 ノ判決ニ服從シテ控訴セサルモノ又或ハ控訴後取下ヲ爲シタルモノ之レアル場合ニハ決シテ
 然カ云フヲ得サルモノナルヘシ何者該第九十九號ノ布告ハ證書其物ノ有効無効ヲ云フモノニ
 シテ其事實アリト否ヲ云フモノニアラサレハナリ故ニ原裁判所ハ僅々其三分ノ一ニ過キサル
 十一名ノ債務者カ該證ヲ利益ノ證據ト爲ス者アリトテ結局原判決ヲ取消シ確定シタル債務者
 二十名ニ對スル上告ノ請求ヲ却下シタルカ如キハ甚不法ナリト云ヒ同第九論旨ハ原裁判所ハ

新乙第一號證ノ二ノ一、二、三、ニ於ケル上告人ト岩井清吉等トノ本訴債權ノ賣買ヲ有効ト認メ又新乙第一號證ノ一ニ於ケル被告上告人ノ内佐藤幸四郎外四名ト岩井清吉トノ本訴債權ノ賣買ヲモ有効ト認メタ、然ル所右第二ノ賣買即チ被告上告人ト清吉トノ間ニ於ケル該契約ハ上告人カ賣主タル新乙第一號證ノ二ノ一、二、三ニ基ケルモノナルヲ以テ上告人ハ則チ該證ニ對シ責任ヲ有スルト同時ニ右被告上告人ト清吉トノ賣買契約ニ付テハ第三者即チ債務者ノ地位ニアルモノナルニ依リ清吉カ其之ヲ賣買セントスルヲ前項第九十九號ノ布告ニ從テ必スヤ上告人ノ承諾ヲ得サルヘカラサル筋合ナルニ其賣買タル毫モ上告人ノ承諾ヲ得タル事實ナシ左レハ原裁判所ハ當然ノ職權ヲ以テ右賣買契約ヲ無効ナリト判決セサルヘカラサルモノナルニ却テ有効ト爲シタリ即チ法律ヲ適用セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○按スルニ明治九年七月布告第九十九號ハ金穀等借用證書ヲ他人ヘ讓渡スルトキハ手續ヲ規定シタルモノナリ然ルニ本訴ハ賴母子講金取立ハ權利ヲ賣買セシモノニシテ借用證書ヲ賣買シタルニ非ルコト原判文ヲ通讀シテ明カナリ左スレハ原裁判所カ該布告ハ本訴ハ如キ場合ニ適用スヘキモノニアラスト斷定シタル點ハ結局相當ナルニ依リ原判決ハ上告所論ハ如キ不法ナシ

上文辯明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキニ依リ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ棄却スヘキモノトス

判旨第八、九

○損害要償ノ件

明治二十九年第三百十一號
明治三十年五月二十一日第二民事部判決

○判決要旨

一 委託物ノ返還若クハ其見積價額ヲ請求シタル者カ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル後更ニ契約違背ヲ主張シ損害要償ヲ請求シタルトキハ假令當事者及目的物ヲ同フスルモ其原因異ナルニ依リ一事再訴ト云フヲ得ス(判旨第二點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 南 助 六 訴訟代理人 熊倉 保操 生沼 永保

被告上告人 御前長之助 訴訟代理人 後藤亮之助

被告上告人 木谷吉次郎 訴訟代理人 松尾清次郎 後藤亮之助

被告上告人 山崎利吉 訴訟代理人 原 嘉道

右當事者間ノ損害要償控訴事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年五月八日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

一事再訴

判旨第二點

上告論旨第二點ハ前訴ト本訴トハ全ク其請求ノ原因ヲ異ニス然ルニ原院カ本訴ヲ以テ一事再
 理ヲ求ムルモノナリトシテ控訴ヲ棄却シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ前訴ノ趣旨
 ハ被上告人長之助ニ於テ貨物ヲ荷受人ニ引渡シタルハ委託外ノ引渡ナルヲ以テ其義務ヲ完了
 シタルモノニアラス故ニ被上告人等ハ該貨物ヲ上告人ニ返還スルノ義務アリ若シ現物ヲ返還
 スルヲ欲セザレハ其見積價格ヲ支拂フコトヲ承諾スルト云フニアリ而テ本訴ハ被上告人ニ於
 テ契約ニ違ヒタルカ爲メ代金ヲ得ルノ途ヲ失ヒ因テ蒙リタル損害ノ賠償ヲ求ムルモノナリ換
 言セハ被上告人ノ違約ニ起因セル貨物留置權ノ喪失ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメントスル
 モノナリ蓋シ留置權ノ喪失ハ債務者無資力ノ場合ニ於テ始メテ其結果ヲ生ス本訴ハ荷受人無
 資力ニシテ始メテ提起シ得ヘキ事件ナリ何トナレハ若シ荷受人等ニシテ代金ヲ辨濟スルニ足
 ルノ資力アラシキ被上告人等ハ單ニ違約シタルニ止リ其結果上告人ニ毫末ノ損害ヲ加フルコ
 トナシ故ニ前訴判決確定ノ後テ荷受人ニ係リ代金ヲ請求シ其目的ヲ達セザリシニヨリ本訴ヲ
 提起セリ左レハ本訴ノ趣旨ニ依レハ荷受人ニ於テ代金ノ幾分ヲ辨濟シタルトキハ之ヲ控除シ
 其殘額ヲ請求シ得ルニ過キス偶マ荷受人ノ全然資力ナカリシ爲メ請求金額ノ前訴ニ同シカ
 シノミ然ルニ前訴ハ委託シタル貨物ノ返還ヲ求ムルモノナルヲ以テ荷受人ノ資力有無ニ拘ラス
 提起シ得ヘキモノナリ是ヲ以テ新潟地方裁判所カ判決スルヤ被上告人カ貨物ノ引渡シ方ニ過
 失アリタルカ爲メ原告ニ損害ヲ加ヘタルヤ否ヤ(即チ本訴ノ爭點)ハ別問題トシテ特ニ之カ説明
 ヲ避ケタリ兩訴ノ異ナルコト素ヨリ多辯ヲ要セサルナリト云ニアリ○依テ乙第一號證即前訴

ニ於ケル第一審訴狀ヲ閱スルニ原判決理由ニ據示スル所ト同一ノ記載アリテ其請求スル所獨
 リ委託米其物ヲ求メタルニ止マラス若シ之ヲ引渡ス能ハサルニ於テハ之ニ代ルヘキ金員及利
 息ノ賠償ヲ求メタルコト明了ナリト然レモ其之ヲ求メタル所以ノ理由ハ被上告人カ委託貨
 物ヲ荷受人ニ引渡スニ當リテハ必スヤ送り狀ト引換ニスヘキ規約ナリシニ其規約ヲ守ラス之
 ナ引渡シタルヨリ送り狀返戻トナリタルニ付其送り狀ニ基キ委託米ノ返還即其引渡ヲ求メタ
 ルニアリテ損害賠償ノ要求ヲ爲タルニアラザリシトハ右訴狀ハ全體及之ニ對スル判決書即乙
 第二號證中ニ被告ニ過失アリ且少其爲メ原告ニ損害ヲ被ラシメタルモノトシ是カ賠償ヲ求ム
 ルハ格別現ニ己カ指名セシ荷受人ニ被告カ引渡シタル事實ヲ認メナカラ再ヒ之ヲ己レニ引渡
 サシメント強ユルヲ得ル道理アラサルナリト説明シテ損害賠償ノ訴權ヲ留保シアルニヨリ明
 カナリ而シテ本訴請求ノ主旨ハ其後正當ノ順序ヲ履ミ荷受人小野床太郎ニ係リ委託米販賣金
 ノ請求ヲ爲タルモ同人ニ資力ナクシテ一金ノ入手ヲモ爲ス能ハザリシハ畢竟被上告人違約ハ
 結果茲ニ至リタルモノナルヲ以テ之カ爲メ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムト云ニアリテ甲第七號
 證(即荷受人ニ對スル確定判決書)甲第八號證(即荷受人ニ對スル有體動產差押調書)ヲ提出シアル
 ハ假令其當事者及ヒ目的物ヲ同フスルトモ彼此其原因ヲ異ニスルコト一瞥炳焉ナルヲ以テ之
 ナ目シテ一事再訴ト云フヲ得サルハ辯ヲ俟タサル所ナリト然ルニモ拘ラス原裁判ニ於テ乙
 第一號證ニアル請求ト本訴ノ請求トハ原因モ同一云々ト説明シテ控訴棄却ノ判決ヲ爲タルハ
 一事不再理ノ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニテ上告人論告スル所ハ其理由アリトス既ニ此點

ニヨリ原判決全部破毀スヘキモノト判定スル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シ一々説明ヲ付スルノ必要ナシトス

上文辯明ノ如ク本件上告ハ其理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ依リ原判決ヲ破毀シ仍ホ同第四百四十八條第一項ニ從ヒ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス所以ナリ

○不動産賣買約定手附金ノ件

明治三十年五月二十二日第一民事部判決

○判決要旨

一 賣主カ一個ノ物件ヲ時日ヲ隔テ、甲乙二者ニ賣却スルノ契約ヲ爲スモ之レカ爲メニ先キニ締結セル賣買契約ハ當然消滅スヘキモノニアラス(判旨第三點)
一 訴訟ノ併合審理ヲ命シタル後其決定通り履行セサルトキハ更ニ分離シテ審理スヘキコトヲ命スルハ當然ナルモ此手續ヲ爲サス分離ノ上審理判決シタリト

テ訴訟手續ニ違背シタルモノト云フヲ得ス(判旨第八點)

第一審 岡山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

上告人 岡本 明 訴訟代理人 三宅碩夫

被上告人 三宅藤四郎

右當事者間ノ不動産賣買約定手附金事件ニ付大阪控訴院カ明治二十九年十月三十日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點凡テ契約ハ其文字ノミニ拘泥セス當事者ノ意思ヲ推究シテ解釋スヘキハ契約解釋法ノ原則ナリ今甲第一號證ニ此賣買後代金五千六百圓也内金千圓也約定手附金請取候トアル金壹千圓ハ果シテ文字ノ如ク手附金ナリヤ否ハ甲第一號證ノ解釋上最必要ノ點ナリトス然ルニ原院ハ其文字ノミニ拘泥シ之ヲ手附金ナリトセラレタレトモ該證ハ其次ノ記載ニ於テ殘金四千六百圓也但登記簿ノ上受取可申事トアリテ全ク其性質ノ内入金ナルコトヲ表明セリ蓋シテ手附金ナルモノハ契約締結ノ際履行ノ擔保トシ交付セラルヘキモノナレハ之カ履行ノ時ニ於テ其シ代金ニ差繼カルコトアルヘキモ代金一部ノ交付ニアラス反之内入金ハ常ニ契約ノ一部履行ノ爲メ代金トシテ交付セラルヘキナリ今甲第一號證ニヨルニ右ノ記載ノ外然ル上ハ本

月三十日限賣渡證相整へ登記請願濟ノ上殘金ト引換受授可致候トアリテ其所謂殘金ナル文字ハ當時交付セラレタル金壹千圓カ代金ノ一部ナルコトヲ表シ賣買物件バ登記願濟ノ上殘金ト引換ヘラルヘキモノナルヲ以テ既ニ代金一部ノ履行セラレタルコトハ明ナレハ當事者カ金壹千圓チ内入金トナシタルモノナルコトハ推知シ得ラルヘキニ偶其文字カ手附金ト記載サレタリトテ原院カ之ヲ以テ直ニ手附金ナリト解釋シ出訴期限規則第一條ノ手附金ナリトナシタルハ契約解釋法ニ違背シタル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル契約ノ解釋ニ付論難ヲ試ムルモノニシテ固ヨリ上告適法ノ理由トナラス

第二點假リニ甲第一號證ノ金壹千圓チ手附金ナリトスルモ出訴期限規則第一條ヲ適用スヘキモノニアラス(一)同規則ノ理由書ニヨルニ金穀貸借ヲ始メトシ物品賣買ヨリ其他種々ノ取引等ニ至ル迄云々トアリテ不動産賣買ノ如キ常ニ證書ヲ以テ其成立ヲ證シ得ラル、モノニ付テハ該規則ヲ適用セサルコトハ其第一條乃至第三條ニ列記シタル項目中不動産賣買ニ關スル代金ノ請求若クハ内拂金ノ返還等ニ付一モ年限ノ規定ナク(二)該規則ハ其理由ニ云ヘル如ク數多歲月ノ經過スルトキハ事理曖昧ニ立至ルヘキコトヲ恐レ義務者ヲシテ辨濟ノ舉證ヲ免カレンシメントノ推定ニ出テタルモノナレハ多クノ證書ヲ以テ證シ得ラルヘキ場合ニ付テハ普通證書ナキモノヨリ其年限ヲ永クセリ故ニ第一條ニ手附金ト云ヘルハ(一)ニ云ヘル如ク物品賣買ノ場合ニ於ケル手附金ノミチ意味シ普通證書ヲ以テ證シ得ヘキ不動産ノ賣買ニ於ケル手附金ハ同條ノ關スル所ニアラサルノミチナラス普通不動産賣買ニ手附金ヲ交付スルノ習慣ハ我國ニ存在セ

サレハ法律ハ付テ如斯手附金ノアルヘキコトヲ豫想セス然ルニ原院ハ甲第一號證ニ對シ直チニ同規則第一條ヲ適用シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○出訴期限規則ノ冒頭ニアル理由ニハ金穀貸借ヲ始メトシ物品賣買ヨリ其他種々ノ取引等ニ至ルマテ云々トアレハ同規則ハ獨リ金穀ノ貸借ト物品ノ賣買トニ限リ適用スヘキ規則ニアラサルハ勿論不動産賣買ノ如キハ其他種々ノ取引云々トアル文字中ニ包含セラル、モノト見做サルヘカラス、而シテ不動産ノ賣買ニ付テハ手附金ヲ授受スルノ習慣ナシトノ事ノ如キハ上告人一己ノ意見ニシテ本院ノ同意スル能ハサル所トス要スルニ本論旨ハ出訴期限規則ノ誤解ヨリ生スルモノニシテ上告ノ理由ナシ

第三點原院判決理由ニ曰ク該鹽田等ハ明治二十七年七月五日ヲ以テ甲第一號證ノ如ク控訴人ト被控訴人ノ間ニ賣買契約ヲナシ控訴人ノ都合ニ依リ示談上更ニ甲第三四號證ニ記載ノ如ク飯尾麒太郎外二名ト被控訴人ノ間ニ賣買契約ヲ爲シタルモノナレハ其代金ハ甲第一號證ノ賣買契約金ト同一ナルモ二個ノ賣買契約ニ成立アルモノニシテ云々ト確定セラレタルモノニシテ斯ク確定セラレタル事實ヨリ見ルモ甲第三四號證ノ如ク飯尾麒太郎外二名ノ賣買契約成立ニ付甲第一號證ハ當然解除セラレ先キニ引渡シタル金壹千圓ハ其時ヨリ全ク性質ヲ變シ被上告人ノ預リ金若クハ不當利得ニ歸スヘキモノナレハ其性質ヲ推究シ之レカ判斷チナスヘキモノナルニ同一物件ノ上ニ二個賣買契約ノ成立ヲ認メ甲第一號證ノ金壹千圓ノ手附金ナリト判斷シタルハ確定サレタル事實ニ對シ適當ノ法則ヲ適用セサル不當ノ判決ナリ加之出訴期限規

二重賣買○訴訟ノ併合審理○分離審判ノ手續

判旨第三點

則發布ノ當時ハ日本國民ニ土地ノ所有權ヲ認メ之カ賣買讓與ヲ許可セラレタルヨリ僅少ノ日時經過ノ時ナリシヲ以テ土地ノ賣買ニ關シ手附ノ行ハルヘキ如キハ該布告ノ管テ豫期セサル所ナレハ從テ該布告中是等手附金ニ付規定シタルコトナキノミナラス不動産賣買契約ニ關シ一モ其出訴期限ノ規定ナキ所以ナリト云フニ在レトモ○賣主カ一個ハ物件ヲ時日ヲ隔テ甲乙二者ニ賣却スルハ契約ヲ爲シカハトテ之レカ爲メ先キニ締結セル賣買契約ハ當然消滅スヘキモノニアラス故ニ甲第三四號證ノ賣買契約成立シタルカ爲メ甲第一號證ノ賣買契約カ當然解除セラレタルカ如ク論スルハ其當ヲ得ス殊ニ原判決ノ趣旨ヲ案スルニ行文上稍々明瞭チ欠ク所アリト雖モ要スルニ上告人ニ於テ本訴所爭ノ物件ヲ被上告人ヨリ買得スルノ契約ヲ爲シ未タ登記等ノ手續ヲ爲サル以前ニ被上告人ト協議ノ末其物件ヲ訴外人飯尾麒太郎外二名ニ賣却スルノ契約ヲ爲シ名義書替等便宜ノ爲メ甲第三四號ノ如ク表面上被上告人ヨリ右飯尾外二名ニ直接ニ賣買シタル如ク爲シタルモノナリト云フニ在ルコトハ原判文中該鹽田等ハ明治二十七年七月五日ヲ以テ云々トアル以下數行ノ說明ニ由テ推知スルヲ得ヘシ左スレハ甲第一號證ノ賣買契約ハ甲第三四號賣買契約成立シタルニ拘ハラズ依然存立スルモノナレハ原院カ本訴ノ金員ヲ手附金ト認定シ隨テ出訴期限ニ係ルモノト判定シタリトテ決シテ上告論旨ノ如キ不法ナシ又末段ノ論旨ノ理由ナキコトハ第二點ノ論旨ニ對スル辯明ニ由リテ了解ス可シ

第四點原院ハ其代金ハ甲第一號證ノ賣買契約代金ト同一ナルモ二個ノ賣買契約ニ成立アルモノニシテ該證ノ契約ヲ承繼セスト判決セラレタレトモ同一物件ノ上ニ二個賣買ノ成立シ能ハ

サルハ明カナルノミナラス前項記載ノ判決理由ヨリスルモ甲第一號證賣買契約成立後上告人ノ都合ニヨリ示談上甲第一號證ノ賣買契約ヲナシタルモノナレハ二個特立ノ賣買契約アルニアラスシテ甲第一號證ノ賣買契約カ對手ヲ異ニシ甲第三四號證ト形ヲ變シタルニ過キス然ルニ原院カ此更改ノ事實ヲ認メナカラ尙同一物件ノ上ニ二個各別ニ賣買契約成立シタリトナシタルハ法則ニ反シ不當ニ事實ヲ確定シタル判決ナリト云フニ在レトモ○右論旨ノ理由ナキコトハ第三點ノ說明ニ依リ了解シ得ヘキニ付特ニ辯明ヲ與ヘス

第五點原院ハ甲第一號證ノ金壹千圓ハ賣買契約ノ證據金ニシテ手附金ナルコトハ明ナリト判決セラレタレトモ證據金ト手附金トハ大ニ其性質ヲ異ニシ從テ出訴期限規則適用ノ上ニ於テ大差アリ若シ原院カ甲第一號證ノ金壹千圓ヲ手附金ト認メタルモノナレハ同規則第一條ニ由ルヘク若シ證據金ト認メタルモノナレハ同規則第三條ニ由ラサルヘカラス然ルニ此性質ノ異ナリ且出訴期限ヲ異ニスル證據金ト手附金トヲ同視シ金壹千圓ハ契約ノ證據金ニシテ手附金ナリト判決シタルハ法則ニ違背シタル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ノ所謂證據金トハ手附金ノ意味ニテ說明シタルモノナレハ出訴期限規則中偶證據金ノ文字アルヲ以テ之ヲ理由トシ原判決ヲ攻撃スルハ判旨ニ副ハサル論旨ナリトス

第六點原院ハ已ニ各個ノ賣買契約ニ成立アル以上ハ飯尾麒太郎等トノ賣買代金ニ當然差繼キ計算スヘキモノニアラスト判決セラレタレトモ同判決カ他ノ場合ニ確定シタル事實(第三第四ニ云フ)ノ如ク甲第一號證成立ノ後上告人ノ都合ニヨリ示談上更ニ甲第三四號證ノ如ク買主ノ

二重賣買○訴訟ノ併合審理○分離審判ノ手續

更改チナシタルモノナレハ從テ甲第一號證ノ一部履行トシテ(文字上手附金トシテ)交付シタル
 金壹千圓ハ全ク無原因ノ交付トナリ從テ被告上告人ノ不當利得ニ歸スヘキモノナレハ之レカ取
 戻ハ何時ニテモナシ得ヘキモノナルニ原院ハ買主更改ノ事實ヲ認メナカラ尙甲第一號證ノ成
 立當時ニ交付シタル金ハ手附金タル性質ヲ變スルモノニアラストナシタルハ法則ニ違背シタ
 ル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右論旨ノ理由ナキコトモ亦第三點ノ説明ニ依リ自ラ了
 解シ得ラルヘキヲ以テ別ニ辯明セス

第七點出訴期限規則ハ對手ニ於テ其請求サルノ債務ノ辨濟ハ了シタルモ幾多歲月ノ經過シタ
 ル爲メ其證明チナスコト能ハサル旨ヲ主張シ之ヲ援用シタルトキ始メテ法律上救済ノ途ヲ與
 フルモノニシテ之カ援用チナシタリトノ事ハ出訴期限規則適用ノ上ニ於ケル精神ナルニ原院
 ハ單ニ控訴人カ支持命令書ヲ發シ及ヒ本件出訴セシ迄ハ共ニ其辨濟期日ナル明治二十七年八
 月十四日ヨリ滿一ケ年餘ヲ經過スルヲ以テ出訴期限規則第一條ニヨリ本件請求スルノ權利ナ
 キモノトスト判決シ被告上告人カ會テ之ヲ援用シタルコトヲ判決理由中ニ明示セス全ク裁判所
 ノ職權上調査適用スヘキモノト如ク説明シ去リタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナ
 リト云フニ在レトモ○被告上告人カ出訴期限規則ヲ援用シタルコトハ事實摘示中被告上告人陳述
 ノ部ニ明記シアル通りナリ己ニ被告上告人ヨリ之ヲ申立テタルコト明カナル以上ハ判決ノ理由
 中ニ之ヲ明示セサルモ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法ナシ

第八點裁判所ハ其緊屬スル數個訴訟ノ辯論及裁判ノ併合ヲ命スルコトヲ得レトモ其一旦發シ

判旨第八點

タル併合ノ命ハ之レヲ取消スコトナク當然別個ノ訴訟トシテ審理シ得ヘキモノニアラス然ル
 ニ原院ハ明治二十九年三月三十日ノ辯論ニ於テ裁判長ハ(子)八三號事件ノ記録準備不完全ニ付
 該記録準備ノ上聯合審理スルニ付本日ハ是ニテ審理ヲ止メト決定シ本件ト二八(子)第八三號ノ
 訴訟ト併合ノ命ヲ發シナカラ次回ノ辯論ニ至リ之レカ取消ノ命ヲ發スルコトナク二八(子)第八
 三號訴訟ト分離シ別ニ辯論及裁判チナシタルハ訴訟手續ニ違背シタル判決ナリト云フニ在リ

○案スルニ訴訟ハ併合審理ヲ命シタル後其決定通り履行セサルトキハ更ニ分離シテ審理スヘ
 キコトヲ命スルハ當然ナレトモ假リニ此手續ヲ爲サシテ分離ハ上審理判決シタリトテ決シ
 テ之ヲ以テ直ニ訴訟手續ニ違背シタルハト論斷スルヲ得ス

第九點民事訴訟法第二百三十六條第二ニハ事實及ヒ爭點ノ摘示但其摘示ハ當事者ノ口頭演述
 ニ基キ殊ニ其提出シタル申立ヲ表示シテ之ヲ爲ストアリ此判決ニ掲クヘキ事實及ヒ爭點ノ摘
 示トハ如何ナルモノヲ云フカ民事訴訟法第一百十條以下ノ規定ヨリ考フルトキハ當事者ノ辯論
 ニ基キ裁判所ノ知悉シタル訴訟關係ノ事實ヲ以テ訴訟ノ事實トナシ但其事實ニ付當事者ノ意
 見相一致セサルモノヲ指シテ爭點トナスモノト如シ左レハ判決ニ掲クヘキ事實ハ當事者ノ陳
 述其モノヲ以テ事實トナスヘキモノニアラスシテ當事者ノ辯論ノ結果ニ基キ裁判所ノ知得シ
 タル關係上ノ事實ヲ指スモノナルコト明ナリ是レ民事訴訟法第二百三十六條ノ但書ニ當事者
 ノ口頭演述ニ基キ云々ト云ヘル所以ナリ然ルニ原院ハ漫然當事者ノ陳述ノミヲ記述シ以テ判
 決事實ヲ組成シタルハ法律ニ違背シタル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○事實ハ當事者ノ

演述シタル所ニ基キ指示スヘキモノナレハ原院カ當事者ノ陳述ヲ其儘掲載シタルハ相當ナリ
以上説明ノ如ク本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

〇米穀定期取引決算殘額請求ノ件

明治三十年五月二十五日第一民事部判決

〇判決要旨

一 民事訴訟法中基本クル口頭辯論ニ臨席シタル判事カ其判決ヲ爲スコトヲ規定
シアルモ其判決シタル判事カ必スシモ其言渡ヲ爲ササル可ラストノ規定ナシ
故ニ判決原本ニ署名セサル判事カ其言渡ヲ爲スモ定數ノ判事カ臨席シテ言渡
シタル上ハ違法ニアラス(判旨第四、五點)(第三輯第三卷所載明治二十九年
第四百八十六號判決參看)
一 一定ノ申立訂正書ノ提出カ控訴期間經過後ニ係ルモ最初ノ請求以外ニ變更シ
タルモノニアラサル上ハ期間經過後ニ起シタル控訴トシテ却下ス可キモノニ
アラス(判旨第六點)

第一審 和歌山地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 楠本藤助 訴訟代理人 花井卓藏

被上告人 土橋卯之助

右當事者間ノ米穀定期取引決算殘額請求事件ニ付大阪控訴院カ明治二十九年十一月十六日言
渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點原判決ハ前署甲第一號證ハ宇兵衛ヨリ控訴人ニ交付シアル定期取引ノ通帳ニシテ
宇兵衛カ廢業後モ猶被控訴人カ右通帳ヲ襲用シ宇兵衛營業中ノ取引ヲ其廢業後ニアリテ被控
訴人カ引受ケ云々同ク宇兵衛ノ取引ナレハ控訴人トノ取引モ亦被控訴人カ引受ケタルモノト
認定シ得ヘク云々ト説明セリ假リニ此認定ヲ以テ相當ナリトスルモ通帳ヲ襲用シタリトノ事
實ハ何カ故ニ通帳上ノ權義ヲ引受ケタリトノ事實トナル歟抑モ自ラ干與セサル取引關係ニ對
シ法鎖ヲ生セサルハ法律ノ原則ナリ而シテ原判決ハ簿冊ノ襲用ヲ以テ直チニ簿冊ニ於ケル權
義ノ引受ナルモノト如ク誤斷シ第三者ニ屬スル義務ノ履行ヲ上告人ニ強ヒントスルモノナリ
乃チ原判決ハ此點ニ於テ法律ニ違背シ不當ニ事實ヲ確定シタル歟點アリト云フニ在レトモ
原判文ヲ査閱スルニ甲第一號證ハ宇兵衛ヨリ控訴人ニ交付シアル定期取引ノ通帳ニシテ宇兵
衛カ廢業後モ猶被控訴人カ右通帳ヲ襲用シ宇兵衛營業中ノ取引ヲ其廢業後ニアリテ被控訴人

判決言渡ニ臨席スル判事〇一定ノ申立訂正書

カ引受ケタルハ該帳記載ノ月日其他被控訴人ノ手代上野萬吉カ第一審ノ證言ニ徴シ明瞭ナリ云々ト記載シアリ由是觀之ハ上告論旨ノ如ク原院ハ通帳ヲ費用シタリトノ事實ノミチ以テ其權義ヲ引受ケタリトノ事實ヲ認メタルモノニアラスシテ其費用シタル通帳記載ノ事項其他上野萬吉ノ證言等ニ據テ字兵衛カ營業中ノ取引ヲ尙ホ上告人カ任意ニ引受ケタルモノト認定シタルコト明カナリ故ニ上告論旨ハ全ク原判文ノ誤解ニ基由スルモノニシテ適法上告ノ理由ナシ

其第二點甲第一號證ハ訴外人多田字兵衛ヨリ被上告人ニ交付セル定期取引ノ通帳タルコトハ原院ノ認ムル所ナリ而シテ字兵衛カ仲買人タリシ當時ニアリテ上告人ノ未タ仲買人タラザリシ事實モ亦原院ノ異議ナキ所トス按スルニ定期取引ハ官ノ認許ヲ得タル仲買人ニアラザレハ之ヲ營ムヘカラサルハ論ヲ缺タス而シテ又前仲買人ノ使用シタル通帳ヲ後ノ仲買人於テ費用シタルハトテ其取引權義ヲ繼承シタルモノト看做スヘキ法規慣例アルコトナシ果シテ然レハ上告人ハ字兵衛ノ取引ヲ繼承セントスルモ法律上到底不能ノ事爲ニ屬セリ偶々一二ノモノト字兵衛ノ爲シタル取引ヲ定結シタル事實アリトスルモ是レ通帳費用ノ結果トシテ法律上當然生スヘキ義務ヲ履行シタルニアラスシテ格段ナル合意ニ基キタルモノト推定スルヲ至當トス從テ之ヲ以テ直ニ被上告人ニ對スル取引ヲモ引受ケタルモノト推定スルヲ得ス然ルニ原院カ通帳ノ費用及ヒ一二取引ノ定結トテ以テ定期取引ニ於ケル權義繼承ノ事實ヲ認定シタルハ定期取引ニ關スル法則ヲ無視シタル不法アリト云フニ在レトモ○原院ハ通帳費用ノ結果トシテ

法律上當然其取引ヲ繼承シタルモノト認定シタルニアラスシテ諸般ノ證憑ニ據リ任意ニ繼承セシモノト認定シタルコトハ上告第一點ニ於テ說明シタル如クナルヲ以テ此點ノ論告モ亦タ適法ノ理由ナシ

其第三點原院ハ又被控訴人ニ於テ信三郎庄助等ノ取引ヲ定結シタルハ特別ノ理由ノ存スルアリト云フモ其特別タル證ヲ舉ケサル限リハ被控訴人ハ多田字兵衛ノ死亡ヲ奇貨トシ控訴人ニ對スル義務ヲ免カレントストノ控訴人ノ陳述ハ信憑スルニ十分ナリトスト判定セリ然レトモ是レ學證ノ責任ヲ顛倒セルノ太甚キモノナリ前點論スル次第ナルヲ以テ信三郎庄助等ノ取引ヲ定結シタルハ法則當然ノ結果トシテ到底履行シ得ラレサル事爲タリ而シテ其取引ヲ定結セサルコソ法則當然ノ結果ナリトス果シテ然レハ格別ナル合意アリトセハ被上告人コソ其立證ノ責任ヲ負ハサルヘカラス然レニ原院ニ於テ爰點ニ對スル學證ノ責任ヲ上告人ニ歸シタルハ證據法ノ通則ニ背戾スル不法アリト云フニ在レトモ○原判旨ハ要スルニ上告人カ其取引ヲ繼承シタルハ法律上當然ノ結果ナリト認定シタルニアラスシテ字兵衛カ仲買營業中ニ係ル信三郎庄助及被上告人等トノ取引ヲ上告人カ合意上繼承シテ更ニ仲買營業ヲ爲シタルモノト云フニ在リ故ニ若シ上告人カ信三郎庄助等ノ取引ヲ完結シタルハ尙他ニ理由ノ存スルアリトセハ上告人ニ於テ之ヲ證明スヘキモノト爲シタル原判決ハ當然ニシテ證據法ノ通則ニ背戾シタルモノニアラス

其第四點民事訴訟法第二百三十二條ニ依レハ判決ハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ

限リ之ヲ爲スヘキモノナリ而シテ本件ハ其最終ノ口頭辯論明治二十九年十一月九日開廷ニ於テ部員ニ變更アリ審理ヲ更新シ事實證據調竝ニ辯論ヲ完了シ直ニ結審ヲ告ケタルモノニシテ當時列席シタル判事ハ檜崎安藤澤崎向山谷ノ五名ナリ而シテ此辯論ハ判決ノ基本ナリシモノナリ然ルニ其判決ハ安藤澤崎向山谷小川ノ五判事ニ依リテ言渡サレ基本辯論ニ臨席セサル判事二名干與セリ乃チ芦谷小川ノ二判事はナリ是レ明カニ前記法則ニ背戾セルモノナリト云ヒ其第五點ハ前點述フル如ク本件ノ判決ヲ爲シタルハ安藤澤崎向山谷小川ノ五判事ナルニ判決書ニハ芦谷小川ノ判事署名セス檜崎向山ノ判事署名セリ然レトモ判決書ニハ判決ニ干與シタル判事署名スヘキモノニシテ之ニ干與セサル判事署名スルモ法律上何等ノ効力ヲ有スルモノニアラス果シテ然レハ檜崎向山二判事ノ署名ハ法律上其効ナキヲ以テ結局三名ノ判事判決ヲ爲シタルノ不法ニ陷ルヘシ右ハ裁判所構成法第四十條及第百十九條ニ背戾スルモノナリト云フニ在レトモ〇民事訴訟法ニ於テハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事カ其判決ヲ爲スコトヲ規定シタルトモ其判決シタル判事カ必ラスシモ其言渡ヲ爲サハル可ラストハ規定ヲ設ケタルコトナシ而シテ本按訴訟記録ヲ査閱スルニ原院ハ其口頭辯論ニ臨席シタル判事カ判決シ其判決原本ニ署名捺印シアルヲ以テ之レカ言渡ヲ爲シタル判事ニ變更アルモ定數ハ判事カ臨席シテ言渡シテ爲シアルカ故ニ之ヲ以テ違法ト爲スヲ得サルモノナリ

判事第三四
五點

其第六點假リニ一定ノ申立訂正書ノ如ク申立タリトモ本件ノ控訴ハ不適法ナリ抑モ訴ハ訴狀ノ提起ヲ以テ始マルヘキモノニシテ權利拘束ノ關係亦此時ヲ以テ發生ス而シテ訴狀ハ一

判事第六點

定ノ申立ヲ以テ其骨子骨髄トナスヘキモノナリ是故ニ主要ナル一定ノ申立ヲ全然變更スル如キハ茲ニ新ナル訴狀ノ提起アリタルモノト看做サハルヘカラス果シテ然レハ本件補充申立書ハ明治二十九年十月三十日ニ係ルヲ以テ控訴期間ヲ經過セルモノナリ乃チ期間ノ經過後ニ起シタル控訴トシテ却下スヘキ筋ナルニ原院ノ所措爰ニ出テサルハ民事訴訟法第四百二條ノ法則ヲ適用セサル不法アリト云フニ在レトモ〇本訴ニ於ケル一定ノ申立訂正書ハ提出カ縱令控訴期間經過後ニ係ルモ決シテ期間經過後ニ起シタル控訴トシテ却下スヘキモノニアラス何トナレハ本訴ハ米穀定期取引決算殘額ヲ請求スルニ在リ而シテ其訂正ニ係ル一定ノ申立ハ右殘額請求中ニ包含セラレタル爭點中先ツ其原因ニ就テノ判決ヲ請求スルモノニシテ決シテ本訴ノ請求以外ニ變更シタルモノニアラサレハナリ故ニ原判決ハ違法ニアラス

其第七點假リニ一定ノ申立訂正書ヲ以テ有効ナリトモ本訴ニ於ケル一定ノ申立訂正書ノ原因ノミニ付裁判ヲナシタルモノナルヲ以テ民事訴訟法第四百二十二條第三號(三號ハ四號ノ)法則ニ基キ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキ筋ナルニ單ニ原因アリトノミ判斷シテ差戻ノ裁判ヲ爲サハルハ前記法則ヲ適用セサル不法アリト云フニ在レトモ〇第一審判決ハ全ク本按ノ結局判決ニシテ原因ノミニ就テノ判決ト云フヘキモノニアラサルヲ以テ民事訴訟法第四百二十二條第四號ヲ適用スヘキ場合ニアラス故ニ原院ニ於テ尙ホ數額ニ就テノ等ヲモ判決スヘキモノニシテ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノニアラス然ルヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ

判決會決ニ臨席スル判事〇一定ノ申立訂正書

百十

以上説明シタル如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照ラシ之ヲ棄却スル所以ナリ

總目録
民法

代理ハ委任者ノ死亡ニ因リ終了スヘキモノナレトモ代理人カ其死亡ヲ知リ
得ルマテハ依然代理關係ヲ存續ストノ事……………一

手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及期日ヲ約シタル場合ニ之ヲ賣買ノ豫約ト認ム
ヘキヤ否ヤハ事實承審官ノ職權ニ屬ストノ事……………二五

賣買契約ハ代價ノ全部若シハ一部ノ支拂ヲ爲ササル間ハ完成セストノ慣習
若シハ法理ナシトノ事……………二五

不動産ノ賣買ハ登記ヲ爲ササルモ當事者間ニ在テハ賣買契約ノ完結ト同時
ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉ストノ事……………二五

親族會員中ノ非行者ヲ除斥セントスルトキハ裁判所ニ出訴シテ其保護ヲ求
ムルヲ得ルトノ事……………五三

後見人ノ罷黜並ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人ノ家長及親族ヨリ提出シタ
ルハ相當ナリトノ事……………五三

地所ノ永小作權ハ小作人カ其地所ヲ占有シ之ヲ小作セル事實アルトキニ限
 リ所有權ノ移轉ト共ニ之ヲ繼承スルハ我邦古來ノ慣習ナリトノ事……………六一
 單身戶主死亡シ家督相續人ナキ場合ハ其親族ノ協議ニ依リ之ヲ選定スルハ
 我邦ノ慣習ナリトノ事……………六六
 婚家ヨリ分レテ一家ノ戶主トナリタル者カ死亡シタルトキハ本家筋ノ親族
 及實方親族ノ協議ニ依リ相續人ヲ選定スヘキモノナリトノ事……………六六

商 法

商業ニ附隨スル事項ニ付キ店判ヲ使用スルモ通常一般ノ慣行ニ違背シタル
 モノト云フヲ得ストノ事……………六四

民事訴訟法

訴訟手續ノ中斷ハ死亡者相續人ノ利益ノ爲メ設定セラレタルモノナレハ相
 續人ヨリ中斷ノ通知ヲ爲スニ非ザレハ訴訟手續ハ繼續ストノ事……………六一
 證據決定ノ際受命判事ヲ指名セヌ又ハ受命判事指名ノ事項カ口頭辯論調書

ニ記載ナキモ右受命判事ノ證據調ハ無効ニアラストノ事……………五
 辯論調書ニ判決言渡公行ノコト記載ナキモ違法ニアラストノ事……………五
 檢眞裁判ハ中間判決ニ依リ又ハ本案判決ト同時ニ爲スヲ得ルトノ事……………三
 檢眞ニ付キ中間判決アルモ之ニ對シ直ニ眞否確定ノ申立ヲ爲スヲ得ストノ
 事……………三
 證書ニ證券印紙ヲ貼用セザリシ事實アルモ公訴期滿免除ノ後之ニ相當印紙
 ナ貼用シタルトキハ裁判所カ之ヲ採テ判斷ノ資料ニ供スルモ不法ニアラス
 トノ事……………三
 刑事ノ判決カ民事ノ判決ヲ羈束スルハ犯罪ノ眞實犯罪ノ性質及被告人ノ罪
 責ニ限ルトノ事……………三
 代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ本人死亡シタルトキハ相手方ニ對シ委
 任消滅ノ通知アルマテ其訴訟手續ハ中斷セストノ事……………三七
 訴訟當事者ノ一方カ死亡スルモ訴訟手續ノ中斷ヲ爲ササルトキハ受繼ノ手
 續ヲ爲スヲ要セストノ事……………三六
 死亡シタル當事者ノ一方ノ相續人カ訴訟手續ノ中斷ヲ爲サヌ直ニ訴訟ノ繼

承人トシテ出廷シタル場合ニ於テ裁判所カ相手方ニ其事實ヲ告ケス繼承人
ヲ當事者トシテ裁判ヲ爲スハ不法ナリトノ事……………三六

裁判所ニ申請スル和解ハ必スシモ當事者雙方ノ讓歩示談ヲ目的トスルヲ要
件トセストノ事……………四〇

一定ノ申立ニ二者擇一ノ權ヲ相手方ニ與ヘ其一ヲ履行スヘキコトヲ請求ス
ルハ違法ニアラストノ事……………四四

裁判所書記カ各期日ニ辯論調書ヲ作成セサルモ直チニ上告ノ理由トナラス
トノ事……………四六

判決ハ口頭辯論終結ノ日ニ指定シタル期日ニ言渡サス其後更ニ指定シタル
日ニ言渡スモ不法ニアラストノ事……………五〇

普通有リ得ヘキ事ヲ異常ノ事柄ナリトシテ其事實ノ主張者ニ立證ノ責ヲ負
ハシメタルハ不法ナリトノ事……………五五

宗教部内ノ紛議ニ基ク争訟ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニアラストノ事……………五七

民事訴訟用印紙法

財産權上ニ非ル訴訟ニ於テ其請求二個以上ニ涉ルモ其訴訟物ノ價格ヲ百圓
ト看做シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用スレハ足ルトノ事……………五九

登記法

訴訟當事者ノ合意ノ有無ニ關セス又其取引カ登記法發布以前ニ係ルニモセ
ヨ既ニ其當事者ノ一方ニ於テ登記ノ必要ヲ認メ之ヲ他ノ一方ニ請求スルト
キハ裁判所ハ登記法ニ照シ請求ノ當否ヲ判斷スヘキモノトストノ事……………四〇
行政官廳ヨリ拂下ヲ受ケタル地所ヲ買取リタル者ハ直接ニ其官廳ニ對シ登
記ノ請求ヲ爲スヲ得ストノ事……………四二

町村制

町村内ノ部落全體ニ於テ費用ヲ負擔シタル水路ハ町村制第百十四條ニ所謂
營造物ナリトノ事……………七一

區町村會法

聯合區町村會ノ管理者タル郡區長ハ其評決ヲ施行スル權限ヲ有ストノ事……………一八
 聯合區町村會ノ管理者ハ其評決ノ必要ニ應シ聯合區町村會ナル集合名稱ノ
 下ニ他人ト契約シ及之ニ起因スル諸般ノ爭訟ニ付キ裁判上原告若クハ被告
 トナルコトヲ得トノ事……………一九

事件目錄

事件	關係事項	判決日	番號	訴訟關係人	丁數
預ケ金取戻請求ノ件	代理ノ終了、訴訟手續ノ中斷 受命判事ノ證據調、判決言 渡ノ公行ヲ記載セサル辯論 證書 檢査裁判、私署證書ノ真否 確定	一六日	二九九年 四八八號	上告人 清水 平右衛門 被上告人 永原	一
貸金請求及登記取消反訴ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 明滿免除ニ係ル證券印紙不 貼用ノ證書	三六日	五〇號	上告人 荒波 元次郎 被上告人 渡邊	五
預品取戻請求ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	三六日	二九九年 一三二號	上告人 明田 川喜平 被上告人 吉川 庄藏	三
損害要償ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	四六日	二九九年 五〇二號	上告人 飯島 清太郎 被上告人 遠藤 善助	八
證書取戻請求ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	五六日	七九號	上告人 飯島 清太郎 被上告人 遠藤 善助	三
地所賣買契約履行ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	七六日	一三二號	上告人 森田 利兵衛 被上告人 越知 保之助	三
貸金辨償請求ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	六六日	七四號	上告人 森島 儀八郎 被上告人 石川 新六	三
貸金催促ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	六七日	二九九年 三八八號	上告人 飯島 幹太郎 被上告人 小野 克二	三
拂下地所登記請求ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	六八日	一五七號	上告人 武田 忠臣 被上告人 久我 通久	三
地所賣買約定履行請求ノ件	聯合區町村會ノ性質及管理 者 手附金ヲ授受シ買賣條件及 期日ヲ約シタル契約、買賣 契約ノ完成、不動産買賣ノ 登記	六八日	二九九年 三九二號	上告人 菅井 庄兵衛 被上告人 衣嶋 米治郎	一

事件目録

後見親族會員除斥請求ノ件
 永小作權確認ノ件
 預金取戻ノ件
 不當相續取消請求ノ件
 養水使用爭論ノ件
 借入金精算過渡金取戻請求ノ件
 宗族綱要中へ四個尋言及謗法嚴戒ノ
 二照編入義務確認請求ノ件

後見人罷黜親族會員除斥ノ
 訴、財産權上ニアラサル訴
 訟、辯論調書ノ作成
 地所永小作權
 店判ノ使用
 相續人ノ選定、判決ノ言渡
 町村ノ營造物
 普通事實ノ立證
 宗教部内ノ紛議ニ基ク争訟

六月十九日	一三八號	上告人 内田 儀三郎	三
六月一日	一七八號	被上告人 内田 儀三郎	三
六月二日	一八號	被上告人 村上 仙吉	六
六月二日	一三九號	被上告人 殿内 甚之助	六
六月三日	一五四號	被上告人 川口 養治	六
六月九日	二一九號	被上告人 菅沼 太	七
六月九日	五二一號	被上告人 古阪 鶴太郎	七
六月三十日	一六九號	被上告人 佐藤 彦太郎	七
		被上告人 鈴木 平外	七
		被上告人 千野 重吉	七
		被上告人 小葉 重吉	七
		被上告人 板垣 日光	七
		被上告人 大谷 光尊	七

いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ頭音ヲ取テいろはノ順ニ從テ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非
 サレハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラズ人ノ通常言
 フ所ノ音聲ニ據ル例之ハいろはニ入ルカカ如シ

[S] 委任者ノ死亡

(代理ノ終了) 参看
 移轉
 (不動産賣買ノ登記) 参看
 一定ノ申立
 (二者擇一ノ申立) 参看

言渡
 (判決ノ言渡) 参看
 異常ノ事柄
 (普通事實ノ立證) 参看

判決言渡ノ公行ヲ記載セサル辯
 論調書
 判決ノ言渡ハ常ニ公行スヘキモノナルカ故
 ニ辯論調書ニ其公行ノコト記載ナキモ違法
 ニアラス

賣買ノ豫約
 (手附ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタル
 いろは索引

丁數

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

[R]

契約 参看

賣買契約ノ完成

賣買契約ハ代價ノ全部若クハ一部ノ支拂ヲ
 爲サ、ル間ハ完成セサルモノトスル慣習若
 クハ法理存セサルモノトス

賣買ノ登記

(不動産賣買ノ登記) 参看

拂下地所ノ登記

(登記ノ請求) 参看

判決ノ言渡

判決ハ口頭辯論終結ノ日ニ指定シタル期日
 ニ言渡サス其後訟廷ヲ公開シテ指定シタル
 日ニ之ヲ言渡スモ不法ニアラス

二者擇一ノ申立

原告カ一定ノ申立トシテ二者擇一ノ權ヲ相
 手方ニ與ヘ其一ヲ履行スヘキコトヲ請求ス
 ルハ違法ニアラス

三 四 五 六 七 八 九 十

いろは索引

〔八〕

辯論調書

(判決言渡ノ公行ヲ記載セラル辯論調書) 参看

辯論調書ノ作成

裁判所書記カ各期日ニ辯論調書ヲ作成セザルモ其判決ニ影響ヲ及ボサトル限リハ上告ノ理由トナラス

〔九〕

登記

(不動産買買ノ登記) 参看

當事者一方ノ死亡

(訴訟手續ノ中断) (訴訟當事者一方ノ死亡) 参看

登記ノ請求

訴訟當事者ノ合意ノ有無ニ關セス又其取引カ登記法發布以前ニ係ルニモセヨ既ニ其當事者ノ一方ニ於テ登記ノ必要ヲ認め之テ他ノ一方ニ請求スルトキハ裁判所ハ登記法ニ照シ請求ノ當否ヲ判断スヘキモノトス
登記ハ其物件ノ所有權者ト直接ノ權利移付者ノ間ニ爲スヘキモノナリ故ニ行政官廳ヨリ拂下ヲ受ケタル地所ヲ買取リタル者ハ直接ニ其官廳ニ對シ登記ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス

〔一〇〕

中斷

(訴訟手續ノ中斷) (訴訟當事者一方ノ死亡) (死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判) 参看

地所永小作權

地所ノ永小作權ハ小作人カ其地所ヲ占有シ之ヲ小作セル事實アルトキニ限リ地所所有權ノ移轉ニ從ヒ永小作ノ關係ヲ繼承スヘキコトハ我邦古來ノ慣習ナリ

町村ノ營造物

養水ニ必要ナル樋管、土手、其他ノ工事ニ關スル費用ヲ町村内ノ部落全體ニ於テ負擔シタル以上ハ其水路ハ町村制第百十四條ニ所謂營造物ナリトス

立證

(普通事實ノ立證) 参看

和解

(裁判所ニ申請スル和解) 参看

價格

(財產權者上ニアラサル訴訟) 参看

豫約

(手附金ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタル契約) 参看

〔九〕

代理ノ終了

代理ハ委任者ノ死亡ニ因リテ終了スヘキモノナルモ代理人ニ於テ其死亡ヲ知り得ルマテハ依然存續スヘキモノトス

代價ノ支拂

(賣買契約ノ完成) 参看

擇一ノ申立

(二者擇一ノ申立) 参看

單身戶主ノ死亡

(相續人ノ選定) 参看

〔九〕

聯合區町村會ノ性質

聯合區町村會ハ行政上ノ必要ニ應ジ臨時開設セラルル行政組合ニシテ其管理者タル郡區長ハ明治十七年第十四號布告區町村會法第四條ニ準據シ其評決ヲ施行スル職務權限ヲ有ス

聯合區町村會ノ管理者

聯合區町村會ノ管理者ハ其評決ハ必要ニ應ジ聯合區町村會ナル集合名稱ノ下ニ他人ト契約スルコトヲ得ヘク隨テ之ニ起因スル紛争其他目的事件ノ關係ヨリ生スル諸般ノ争訟ニ付テモ右集合名稱ノ下ニ於テ裁判上原告トナリ又被告トナルコトヲ得

いろは索引

〔三〕

訴訟手續ノ中斷

訴訟手續ノ中斷ハ死亡者ノ相續人ノ利益ノ爲メ設定セラレタルモノナルニ依リ其相續人ヨリ中斷ノ通知ヲ爲スニ非サレハ訴訟手續ハ繼續スヘキモノトス

代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ當事者中一方カ死亡シタルトキハ他ノ一方ニ對シ委任消滅ノ通知アルマテハ其訴訟手續ハ中斷セラレサルモノトス

(訴訟當事者一方ノ死亡) (死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判) 参看

訴訟當事者一方ノ死亡

訴訟當事者ノ一方カ死亡スルモ民事訴訟法第百八十三條ニ依リ訴訟手續ノ中斷ヲ爲ササルトキハ同法第百八十七條ノ規定ニ從ヒ受繼ノ手續ヲ爲スヲ要セス

訴訟ノ繼承人

(死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判) 参看

訴訟物ノ價格

(財產權上ニアラサル訴訟) 参看

相續人ノ選定

單身戶主死亡シ家督相續人ナキ場合ニ於テハ其親族ノ協議ニ依リ之ヲ選定スルヲ以テ

三

〔三七〕

二

六

七

三

〔三七〕

六

元

六

いろは索引

我邦ノ慣習トス

婚姻ニ因リ他家ニ入りタル者カ其後婚家ヨリ分レテ一家ノ戸主トナリ死亡シタルトキハ本家ノ親族及其買方親族ノ協議ニ依リ相續人ヲ選定スベキモノトス

區町村會

(聯合區町村會ノ性質)(聯合區町村會ノ管理)參看

管理者

(同上)參看

管轄

(宗教部内ノ紛議ニ基ク争訟)參看

檢眞裁判

檢眞裁判ハ中間判決ニ依リ又ハ本案裁判ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ得

刑事判決

刑事判決カ民事ノ判決ヲ竊取スルハ犯罪ノ眞實犯罪ノ性質及ヒ被告人ノ罪責ニ限ルモノトス

繼承人

(死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判)參看

不動産買買ノ登記

四

不動産ノ買買ハ其登記ヲ爲サレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト雖モ當事者間ニ在テハ買買契約ノ完結ト同時ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉ス

普通事實ノ立證

貸借契約ニ於テ當事者カ一年毎ニ元利金ヲ精算シテ借用證書ヲ書改メ利金ヲ元金ニ組込ムハ普通有リ得ヘキ事柄ナルニ之ヲ異常ノ事柄ナリトシテ其事實ノ主張者ニ立證ノ責ヲ負ハシメタルハ不法ナリ

公行ノ記載ナキ調書

(判決言渡ノ公行ヲ記載セサル辯論調書)參看

後見人罷黜親族會員除斥ノ訴

親族會ハ成法上其組織ヲ認メタルモノナキモ現ニ其會員中ニ非行者アリテ之ヲ除斥セサル可ラサル場合ニ於テハ裁判所ニ出訴シ其保護ヲ求ムルヲ得ヘキモノトス

後見人ノ罷黜并ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及ヒ親族ヨリ提起シタルハ訴訟手續上相當ナリ

永小作權

(地所永小作權)參看

五

六

七

八

九

一〇

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

營造物

(町村營造物)參看

手附金ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタル契約

手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及期日ヲ約シタル場合之ヲ賣買ノ契約ト認ムヘキ一般ノ慣習ナシ故ニ斯ル場合ニ於テ當事者ノ意思何レニ存スルヤヲ認定スルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

裁判上ノ行爲

(聯合區町村會ノ管理)參看

裁判所ニ申請スル和解

裁判所ニ申請スル和解ハ必スシモ當事者雙方ノ讓歩示談ヲ目的トスルヲ要件ト爲スヘキ限リニアラス故ニ其申請カ催告ノ効アリヤ否ヲ認ムルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

財産權上ニ非ル訴訟

財産權上ニ非ル訴訟ニ於テ其請求二個以上ニ涉ルトキハ法律上合算スヘキ價格存セサルニ依リ單ニ其訴訟物ノ價格ヲ百圓ト看做シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用スレハ足レリ

作成

いろは索引

七

八

九

一〇

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

〔き〕

(辯論調書ノ作成)參看
期滿免除ニ係ル證券印紙不貼用ノ證書

證書ニ證券印紙ヲ貼用セザリシ事實アルモ既ニ其公訴ノ期滿免除ニ係ルヲ以テ處罰ヲ受ケス之ニ相當印紙ヲ貼用シ裁判所ニ提出シタルトキハ裁判所カ之ヲ採用シテ判斷ノ資料ニ供スルモ不法ニアラス

羈束ノ範圍

(刑事判決)參看

民事判決

(同上)參看

店判

店判ハ商業以外ノ權利關係ニ付キ之ヲ使用スヘキモノニアラサルモ商業ニ附随スル事項ニ付キ義務ヲ負フ場合ニ之ヲ使用シタルハトテ通常一般ノ慣行ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

終了

(代理ノ終了)參看

受命判事ノ證據調

證據決定ノ際受命判事ヲ指名セス又ハ受命

三

四

五

六

七

八

九

一〇

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

いろは索引

判事指名ノ事項カ口頭辯論調書ニ記載ナカ
リシト雖モ爲メニ右受命判事ノ爲シタル證
據調ヲ全然無効ナリトスルヲ得ス

證據調

(受命判事ノ證據)參看

私署證書ノ眞否確定

民事訴訟法第三百五十一條ニ基キ私署證書
ノ眞否確定ノ申立ヲ爲スニハ其證書カ他事
件ニ於テ檢眞裁判ヲ經其事件カ既ニ終局シ
タル場合ニ限ル故ニ檢眞ニ付キ中間判決ア
リタルハトテ之ニ對シ直ニ眞否確定ノ申立
ヲ爲スコトヲ得ス

眞否確定ノ申立

(私署證書ノ眞否確定)參看

證券印紙ノ貼用ナキ證書

(期滿免除ニ係ル證券印紙不貼用ノ證書)參
看

支拂

(賣買契約ノ完成)參看

事實承審官ノ職權

(手附金ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタ
ル契約)(裁判所ニ申請スル和解)參看

所有權ノ移轉
(不動産賣買ノ登記)參看

死亡

(代理ノ終了)(訴訟手續ノ中斷)(訴訟當事
者一方ノ死亡)(相續人ノ選定)參看

死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁
判

死亡シタル當事者ノ一方ノ相續人カ訴訟手
續ノ中斷ヲ爲サス直ニ訴訟ノ繼承人トシテ
出廷シタル場合ニ於テ裁判所カ相手方ニ其
事實ヲ告ケス繼承人ヲ當事者トシテ裁判ヲ
爲スハ不法ナリトス

親族會ノ除斥

(後見人罷黜親族會員除斥ノ訴)參看

除斥

(同上)參看

使用

(店判)參看

借用證書ノ書改

(普通事實ノ立證)參看

宗教部内ノ爭訟

宗教部内ノ紛議ニ基ク爭訟ハ司法裁判所ノ

ひ

せ

す

管轄スヘキモノニアラス

罷黜

(後見人罷黜親族會員除斥ノ訴)參看

請求

(登記ノ請求)參看

選定

(相續人ノ選定)參看

水路

(町村ノ營造物)參看

いろは索引

六

三
六八七

元

壹

壹

壹

壹

七

三

四〇

六

七

七

法 文 表

	丁數
民事訴訟法	
一八三條·····	六
一八七條·····	六
三五一條·····	三
町村制	
一一四條·····	七
明治十七年第十四號布告區町村會法	
四條·····	六

月日目錄

判決月日

六月一日
六月三日
六月三日
六月四日
六月五日
六月七日
六月十二日
六月十七日
六月十八日
六月十八日
六月十九日
六月二十一日
六月二十二日

番號

四八八號
五〇號
二九九年
一三二號
二九九年
五〇二號
七九號
一三二號
七四號
二九九年
三八八號
一五七號
二九九年
三九二號
一三八號
一七八號
一八號

判決結果

棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
破毀
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
破毀

原控訴院

大阪
名古屋
東京
東京
宮城
大阪
廣島
東京
宮城
東京
京城
東京
長崎
大阪
東京

丁數

一
五
三
三
五
三
七
四
四
五
六
六
六

月日目錄

六月二十二日
六月二十三日
六月二十九日
六月三十日

一三九號
一五四號
五二二號
一六九號

棄
棄
破
棄
却
却
却
却

東京
大阪
大阪
東京

六
七
七
七

總計十七件
棄却
破毀
十三件
四件

人名音字目錄

人名	番號	原控訴院	丁數
飯島清太郎對遠藤善助	七九號	宮城	三
石川新 <small>六被上 告人</small>	二十九 三八八號	東京	三
飯島幹太郎對小野シニ		東京	六
衣鳩米治郎 <small>被上 告人</small>			四
板垣日暎對大谷光尊	一六九號	東京	七
堀内九兵衛對川口養治	一八號	東京	五
藤堂安雄對齋藤半十郎	五〇號	名古屋	五
千葉重吉 <small>被上 告人</small>			五
越知保之助 <small>被上 告人</small>			六
渡邊ト <small>被上 告人</small>			三
川口養治 <small>被上 告人</small>			五
鉦本利平外二十九名			七

人名音字目錄

[よ]	吉川庄 藏 <small>被上告人</small>	一五七號	宮城.....	四
[た]	武田忠臣對久我通久.....	一五七號	宮城.....	四
[な]	永原 <small>マ被上告人</small>	一五七號	宮城.....	四
[む]	村上仙吉對藪内甚之助外五名.....	一七八號	大阪.....	六
[う]	内田儀三郎對内田 <small>キミ</small>	一三八號	長崎.....	五
[れ]	内田 <small>キミ被上告人</small>	一三八號	長崎.....	五
	小野 <small>シニ被上告人</small>	一三八號	長崎.....	五
	小野トセ對千葉重吉.....	二九九年 五二一號	大阪.....	七
	大谷光尊 <small>被上告人</small>	二九九年 五二一號	大阪.....	七
[く]	久我通久 <small>被上告人</small>	二九九年 五二一號	大阪.....	七
[や]	藪内甚之助外五名 <small>被上告人</small>	二九九年 五二一號	大阪.....	七
[ふ]	古坂鶴太郎外四名 <small>被上告人</small>	二九九年 五二一號	大阪.....	七
[え]	遠藤善助 <small>被上告人</small>	二九九年 五二一號	大阪.....	七
[あ]	荒波元次郎對渡邊トリ.....	二九九年 五二一號	東京.....	三
	明田川喜平對吉川庄藏.....	二九九年 五〇二號	東京.....	九

[さ]	齋藤半十郎 <small>被上告人</small>	一五四號	大阪.....	七
	佐藤彦太郎外百九名對鉦本利平外二十九名.....	二九九年 四八八號	大阪.....	一
[志]	清水平右衛門對永原 <small>シマ</small>	二九九年 四八八號	大阪.....	一
[も]	森田利兵衛外二名對越知保之助.....	一三一號	大阪.....	六
	森島儀八郎對石川新六.....	七四號	廣島.....	三
	菅井庄兵衛對衣鳩米治郎.....	二九九年 三九二號	東京.....	四
[す]	菅沼 <small>タケ外三名對古坂鶴太郎外四名</small>	一三九號	東京.....	六

大審院民事判決錄

第三輯 第六卷

○預ケ金取戻請求ノ件

明治二十九年第四百八十八號
明治三十年六月一日第一民事部判決

○判決要旨

- 一 代理ハ委任者ノ死亡ニ因リテ終了スヘキモノナルモ代理人ニ於テ其死亡ヲ知リ得ルマテハ依然存續スヘキモノトス(判旨第一點)
- 一 訴訟手續ノ中斷ハ死亡者ノ相續人ノ利益ノ爲メ設定セラレタルモノナルニ依リ其相續人ヨリ中斷ノ通知ヲ爲スニ非サレハ訴訟手續ハ繼續スヘキモノトス(判旨第二點)

第一審 和歌山地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 清水平右衛門

訴訟代理人 菊池武夫

被上告人 永原クマ

訴訟代理人 角谷大三郎

代理ノ終了○訴訟手續ノ中斷

代理ノ終了〇訴訟手續ノ中断

右當事者同ノ預ケ金取戻請求事件ニ付大阪控訴院カ明治二十九年十月三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

理由

上告論旨第一點ハ控訴人(被上告人前代)永原勘三郎ハ明治二十九年一月二十一日ニ死亡シ同人名義ノ控訴ハ其翌日ナル一月二十二日ニ提起セラル(被上告人ヨリ原院ニ提起シタル明治二十九年一月二十七日付證明書控訴狀)乃チ原院ニ提起セラレタル控訴ハ本人死亡後ニ係ルモノナルニ原院カ此控訴ヲ有効トシテ審判セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ〇依リテ按スルニ凡ソ代理ハ委任者ハ死亡ニ因リテ終了スヘキモノナルトモ代理人ニ於テ其死亡ヲ知リ得ルマテハ依然存續スヘキモノナルトハ普通條理ハ認ムル所ナリ今一件記録ヲ閱スルニ被上告人先代勘三郎ノ控訴訴訟委任ハ其生存中明治二十九年一月十一日ニ成立シ其後代理人カ右委任ニ基キ控訴ヲ提起セシ際ニ在リテ勘三郎ノ既ニ死亡セルコトヲ知リ得タルノ形跡毫モ之レナキヲ以テ其控訴ハ尙ホ委任存續中提起セラレタリトスヘキモノナルニ因リ原院カ之ヲ有効トシテ審理シタルハ不法ニアラス

同第二點ハ被上告人ハ明治二十九年一月二十五日付ノ書面ヲ以テ前代勘三郎名義ノ控訴ヲ追

判旨第一點

認スト稱シタルモ受繼ノ手續ヲ爲サス又新控訴ヲ起シタルコトナシ然ルニ原院カ勘三郎名義ノ控訴ハ有効ニシテ適當ニ受繼セラレタリヤ將タ又被上告人ノ追認ニ因テ有効ト爲リタリヤ又ハ追認ハ新控訴提起ノ効ヲ生シタリヤニ付キ説明ヲ與ヘラレサルノミナラス元來無効タルヘキ被上告人ノ控訴ヲ排斥セラレサルハ不當ナリト云フニ在レトモ〇既ニ第一點ニ於テ説明セシ如ク被上告人先代名義ノ控訴ノ元來有効ナル以上ハ原院ニ於テ其控訴ハ被上告人ノ追認ニ因リテ有効ト爲リタルヤ又被上告人ノ追認ハ新控訴提起ノ効ヲ生スルヤニ付キ説明ヲ與フルノ必要アルコトナシ又訴訟手續ハ中断ハ死亡者ノ相續人ハ利益ハ爲メ設定セラレタルモノニシテ相續人ヨリ中断ハ通知ヲ爲スニ非サレハ其訴訟手續ハ依然繼續スルモノナルハ今勘三郎ノ相續人ナル被上告人ヨリ上告人ハ中断ノ通知ヲ爲シタルコト曾テ之レナク隨ツテ其控訴ハ未ダ中断セラレサリシヲ以テ被上告人ヨリ更ニ受繼ノ手續ヲ爲スニ及ハサルヤ論ヲ俟タス故ニ原院ニ於テ亦同シク此點ニ付キ説明ヲ與ヘサリシハ當然ノコトナリ況ンヤ上告人ハ此等ノ諸點ニ付原院ニ於テ曾テ爭ハサリシニ於テチヤ依テ本上告論旨ハ其理由ナシ

判旨第二點

同第三點ハ被上告人ハ受繼手續ヲ爲サス隨テ原院モ何等ノ通知ヲ上告人ニ爲サス故ニ上告人ハ判決正本ノ送達アルマテ被上告人カ勘三郎ノ相續人ナルコト並ニ其資格ヲ以テ本件ニ付訴訟行為ヲ爲シタルコトヲ知ラス乃チ被上告人ノ訴ニ付テハ上告人ハ原院ニ於テ代理セラレサル者ナリト云フニ在レトモ〇被上告人ノ控訴訴訟手續ハ中断セラレサリシニヨリ隨ツテ被上告人ヨリ受繼ノ手續ヲ爲スニ及ハサリシコトハ前點ニ於テ説明シタル如シ而シテ又一件記録

代理ノ終了〇訴訟手續ノ中断

代理ノ終了○訴訟手續ノ中斷

テ按スルニ被告上告人ヨリ原院ニ相續ノ證明書訴訟代理委任狀控訴事件追認ノ書面ヲ提起シテ
已レ勘三郎ノ相續人ニシテ訴訟ヲ繼續セントスルノ意思ヲ表明シアルノミナラス原院口頭辯
論調書ニモ控訴人永原クマ右訴訟代理人角谷大三郎被控訴人清水平右衛門右訴訟代理人高松
元楠右當事者間ノ明治二十九年(子)第三六號預ケ金取戻控訴事件ニ付(中)尋公開口頭辯論ニ依リ
云々ト明記セラレハニヨリテ之ヲ觀レハ上告人ハ原院ノ口頭辯論カ勘三郎相續人ナル被告上告
人永原クマ名義ヲ以テ開始セラレタルコトヲ知悉セルコト明カナリ何トナレハ辯論ノ期日ハ
事件ノ呼上ヲ以テ始マルヲ以テナリ而シテ上告人カ此點ニ付キ何等ノ異議ヲ唱ヘサリシコト
モ亦同調査上明白ナレハ上告人カ被告上告人ノ訴ニ付キテハ原院ニ於テ代理セラレサリシト
上告論旨ハ其理由ナキモノナリ
以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ從ヒ主文
ノ如ク判決ス

○貸金請求及登記取消反訴ノ件

明治三十年六月三日第一民事部判決

○判決要旨

一 證據決定ノ際受命判事ヲ指名セス又ハ受命判事指名ノ事項カ口頭辯論調書ニ
記載ナカリシト雖モ爲メニ右受命判事ノ爲シタル證據調ヲ全然無効ナリトス
ルヲ得ス(判旨第三點)

一 判決言渡ハ常ニ公行スヘキモノナルカ故ニ辯論調書ニ其公行ノコト記載ナキ
モ違法ニアラス(判旨第九點)

第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

上告人 藤堂安雄 訴訟代理人 宮古啓三郎

被告上告人 齋藤半十郎

右當事者間ノ貸金請求及ヒ登記取消反訴事件ニ付明治二十九年十二月十二日名古屋控訴院カ
言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點本件ハ被告上告人カ原告ニシテ上告人ニ對シ甲第一號證ノ貸金アリトシテ之カ請求

受命判事ノ證據調○判決言渡ノ公行ヲ記載セサル辯論調書

ヲ爲スモノナリ而シテ上告人ハ曾テ甲第一號證ヲ差入レタルコトナキヲ以テ絶對的ニ之ヲ否認シタリ然ルニ原院ニ於テ甲第一號證ハ上告人ノ認諾上正當ニ成立タル證書ニシテ實際金二百二十圓ノ貸借アリシモノト認視セサルヲ得スト判決シタリ其判決ノ理由ハ第一甲第一號證ノ上告人ノ署名ハ上告人ノ自筆ト認ムト云フコト、第二其上告人名義ノ下ニアル印影ハ上告人ノ印ニ非スト認ムルニ由ナシト云フコト、第二其第一ノ點カ果シテ其理由トナスニ足ルヤ否ヤハ別論トシテ茲ニ之ヲ論セサントモ第二ノ點ヲ其理由ニ供シタルニ至テハ其何ノ故タルコトヲ解スルコト能ハサルナリ抑モ此第二點ハ上告人名義ノ下ニアル印影カ上告人カ官公署ニ對シテ使用シタル新乙第二號證ニ押捺シタル印影ト相違スルモ其日付ノ當時上告人カ實印ノ届出ヲ爲サリシモノナレハ其印カ果シテ上告人ノ印ニ非スト認ムルヲ得スト云フニ在リテ敢テ上告人ノ印ナリト云フニモ非ス畢竟甲第一號證上告人名義ノ下ニ在ル印影ハ上告人ノ印影ナルヤ否ヤ分明ナラサル趣旨ニ歸着スルモノナリ已ニ其印影カ何人ノ印ナルヤ明ナラストセハ何カ故ニ甲第一號證カ真正ニ成立シタル事ノ證據トナルカ普通ノ考察力ニ於テ何人ト雖トモ此理由ヲ以テ甲第一號證カ上告人ノ認諾正當ニ成立シタル證書ニシテ實際金二百二十圓ノ貸借アリシモノト認ムルコトヲ得サルナリ故ニ之カ甲第一號證ヲ真正ノ成立トスルノ證據ニ供セント欲セハ其何故ニ證據トナルヤノ理由ヲ付セサルヘカラス然ルニ原院ニ於テハ何等ノ理由モ説明セスシテ甲第一號證ノ成立ヲ真正トナシタルハ裁判ニ理由ヲ付セサル失當ノ裁判ナリ」上告第二點若シ原裁判ノ意味カ甲第一號證上告人名義ノ下ニ在ル印影カ上告

人ノ印影ナリトノ認定ニシテ之カ爲メニ甲第一號證ヲ真正ト判決シタルモノトスルナラハ是亦裁判ニ理由ヲ付セサル裁判ナリ抑モ原院ニ於テモ新乙二號證ニ押捺シアル印ノ上告人ノ印ナルコトハ之ヲ認メ居リテ唯當時市役所ニ届出ナキ故果シテ之カ實印ニシテ甲第一號證ニアラ上告人ノ印影ハ上告人ノ印ニアラスト認ムルニ由ナキモノト云フナリ而シテ此市役所ニ届出ナキノ理由ヲ以テ甲第一號證ノ印影カ上告人ノ印影ナリト認定スルコトヲ得ヘキ理ナキヲ以テ果シテ原院判決ノ趣旨カ上告人ノ印影ナリトノ認定ナリトセハ他ニ其理由ヲ説明セサルヘカラス然ルニ他ニ何等ノ理由ヲ付セサル亦不法ナリト云フニ在レトモ〇原裁判ハ其理由ノ示ス如ク上告人カ否認スル甲第一號證ニ付鑑定ノ結果署名ハ上告人自筆ナルコトヲ認メ而シテ其名下ニアル印影ハ實印ニアラストノ否認ニ對シ實印ノ届出ハ甲第二號證ノ如ク明治二十八年中ニアレハ其以前ニ押捺シタル印影ハ何レモ實印ナリト認定スルヲ得サルヲ以テ新乙第二號證ノ印影カ實印ニシテ甲第一號證ノ印影ハ實印ニアラスト言フヲ得ス即チ甲第一號證ノ印影ハ實印ニアラスト新乙第二號證ノ印影カ實印ナリトス上告人ノ主張ヲ排斥スルト共ニ其署名ノ自筆ナリト認メラレタル甲第一號證名下ノ印影ハ上告人使用ノ印タルコトヲ認メタルヤ明カナリ夫レ然リ原裁判ハ甲第一號證署名ノ上告人ノ自筆タルコトヲ鑑定ノ結果ニ依リテ認定シ而シテ實印ノ否認ニ對シ甲第二號證ニ依リ其届出ノ甲第一號證成立以後ナル明治二十八年中ニ在ルヲ認メ以テ實印ニアラストノ主張ヲ採用セサリシモノナレハ他ニ理由ヲ付スヘキ必要ナシ況ンヤ原裁判理由ノ後半ニ於テ甲第四五號證ニ依リ上告人カ甲第一號證ノ抵當地ヲ

其書入登記ノ儘他ニ賣却スルコトヲ約シ明カニ之ヲ認メ居ルノ事蹟アリトシテ甲第一號證成
立ノ真正ナルコトヲ推知スルニ足ルヘキ理由ノ説明アルヲ裁判ニ理由ヲ付セストノ論告ハ
共ニ其當ヲ失スルモノトス

上告第三點民事訴訟法第二百七十八條ニ曰ク「受訴裁判所ノ部員カ證據調ヲ爲ストキハ裁判所
證據決定言渡ノ際受命判事ヲ指名シ且證據調ノ期日ヲ定ム若シ其期日ヲ定メサルトキハ受命
判事之ヲ定ム」ト此法文ニ依レハ證據調ノ期日ハ必スシモ證據決定ノ際ニ定ムルコトヲ要セス
ト雖トモ受命判事ハ必ス證據決定言渡ノ際ニ指名スルコトヲ要スルヤ言テ俟タス然ルニ原院
カ受命判事大野金三郎ヲシテ筆跡鑑定ノ證據調ヲ爲サシメタルニ拘ハラズ右筆跡鑑定ノ證據
調決定言渡ヲ爲シタル明治二十六年六月十六日ノ口頭辯論調書ニ依レハ「裁判長ハ列席官協議
ノ上控訴人ノ筆跡鑑定被控訴人ノ書類取寄ノ申請ハ何レモ必要ト認ムル旨決定ヲ言渡シ本日
ハ之ニテ止ムヘシト告ク」トアルノミニテ受命判事ノ指名ヲ爲シタルコトナシ故ニ假令其後之
カ指名ヲ爲シタリトスルモ其指名ハ適法ノ手續ニ違由シタルモノニ非ス從テ此適法ノ手續ニ
ヨリ指名セラレタル受命判事ノ證據調モ亦無効ナルヤ明カナリ然ルニ原院カ此無効ノ證據調
ノ結果ニ基キ甲第一號證ノ筆跡ハ上告人ノ筆跡ナリト判定セラレタルハ適法ナリト云フニ在
レトモ○民事訴訟法第二百七十八條ハ、受命判事ニ證據調ヘテ爲サシムルニ付テハ手續ヲ定メ
タルニ過キスシテ假令受命判事ハ指名カ證據決定ノ際ニ爲サレサリシトスルモ又證據決定ハ
際ニ爲シタル受命判事指名ノ事項カ口頭辯論調書ニ記載ナカリシトスルモ之レカ爲メ受命判

判旨第三點

事ハ爲シタル證據調ハモ全然無効ナリトスルハ規定ニアラス論告ハ其當ヲ失スルモノトス
上告第四點我邦ノ慣習トシテ貸借其他權利義務ニ關スル樞要ノ證書ニハ必ス實印ヲ捺捺セシ
ム其姓名モ亦之ヲ自署セシムト雖トモ筆蹟ハ寧ロ之ヲ第二ニ置キ其自筆ニ非サルモ實印アレ
ハ足レリトセリ明治十九年布告第五十號ニ貸借證書等ニ姓名ハ代書セシムルヲ得ルモ必ス實
印ヲ押スヘシト命セルモ蓋シ此慣習ニ基キタルモノナリ故ニ我邦ニ於テハ貸借證書ノ如キニ
假令自筆ニモセヨ其實印之ナキニ於テハ未タ完全ノ證書ニ非ス例ヘハ貸借ニ在テ金圓ノ授受
ナケレハ署名スルモ捺印セサル如キコトアリ故ニ我邦ノ證據法トシテハ獨リ署名ヲ證スルヲ
以テ足レリトセス必スヤ其實印ナルコトヲ證スルノ責任アリト思料ス然ルニ本件ニ
於テ被上告人ノ鑑定ヲ以テ甲一號證中上告人ノ自筆ヲ證シタルトモ其印影カ上告人ノ印ナル
コトハ毫モ之ヲ立證セス然ルニ原院カ上告人ニ於テ新乙二號證ヲ提出スルモ未タ被上告人ノ
印ニ非スト認ムルニ由ナシト判決シ舉證ノ責任カ上告人ニ在ルカ如ク説明シ上告人カ其證明
ヲ爲ス迄ハ印モ上告人ノ實印ニシテ證書モ完全ナルモノ、如ク判決シタルハ我邦ノ證據法ニ
違背シ舉證ノ責任ヲ誤マシタル裁判ナリ」上告第八點上告人ハ甲第一號證ノ印影ヲ認メサルノ
ミナラス其前後ニ於テ使用シタル印影ヲ立證シ被上告人ハ何等ノ立證ヲ爲サハルニ拘ハラズ
實印届チ爲サハリシトノ事實ノミニヨリテ甲第一號證ノ印影ヲ上告人ノ印影ナリト判斷シタ
ルハ舉證ノ法則ニ反シ且無證ノ事實ヲ認定シタル不法アリト云フニ在レトモ○實印ノ捺捺ナ
キモノハ證據トシテ採用スルヲ許サハルモノニアラスシテ實印ニアラサル他ノ捺捺ニテモ又

署名ノ自筆ナル場合ニハモ普通ノ證據トシテ採用スルヲ妨ケサルハ探證上ノ慣習トシテ是認
 スル所ナリ而シテ原裁判ハ上告第一二點ニ於テ辯明セシ如ク甲第一號證ハ上告人ノ自筆ノ署
 名ナルコトヲ鑑定ノ結果ニ依リテ之ヲ認メ實印ノ點ニ付テハ上告人ノ否認ニ對スル被上告人
 ノ甲第二號證立證ノ趣旨ヲ採リ且甲第四五號證ニ依リテ上告人ノ甲第一號證ヲ認メタル事實
 チ認定セリ畢竟論告ハ探證ノ批難ニ屬シ一モ證據法ニ違背シ舉證ノ責任ヲ誤リ無證ノ事實チ
 認定セシ等ノ不法ナキモノトス

上告第五點被上告人ハ第一審以來本訴甲第一號證ノ金圓ハ直接ニ上告人ニ交付シタリト申立
 テシチ以テ上告人ハ之ニ對シ乙第一號證ヲ提出シ以テ上告人ハ甲第一號證成立ノ當時即明治
 二十四年十二月二十五日ニハ東京市神田區三崎町永井方ニ在留セシコトヲ立證シタリ然ルニ
 原院ハ此立證ニ對シ電報ハ他人ヲシテ發セシムルコトヲ得ルモノト下說明シ到底是等チ以テ甲
 第一號證ノ證據力ヲ抹殺スルニ足ラスト判定セラレタリ此判文ニ依レハ原院ハ乙第一號證電
 報自體ノ真正ナルコトハ認メラレタルモ其記載事項即チ「ナト」ク「レタ」ア「スタツ」アル事實チ
 虛偽ナリト認定セラレタルモノ、如シ然レトモ既ニ電報其物ノ真正ナルコトヲ認メラルト以
 上ハ其記載事項モ亦真正ナリト認メラルヘキハ證據法上ノ原則ナルノミナラス身伊勢國ニ在
 リナカラ東京ヨリ明日日出立ストノ電報ヲ發スルカ如キハ絶無稀有ノ事實ニ屬スルチ以テ假令
 電報ハ他人ヲシテ發信セシムルコトヲ得ルニモセヨ他ニ十分ノ證據ナキ限リハ妄リニ此稀有
 ノ事實ヲ推定スヘキモノニ非ス要スルニ原判決ハ何等ノ反證ナキニモ拘ハラズ稀有ノ場合チ

假想シテ乙第一號證ヲ排斥シタルモノニシテ即チ證據法ニ違背セル裁判ナリ」上告第六點上告
 人ハ新乙第二號證ヲ提出シ上告人カ明治十七年家督相續以來明治二十八年ニ至ル迄常ニ使用
 シタル實印ハ甲第一號證ノ印影ト相違セルコトヲ立證シタリ而シテ新乙第二號各證ハ何レモ
 公ケノ官署ニ差出シタル書面ニ係ルチ以テ苟モ他ノ反證ナキ限リハ甲第一號證成立ノ當時即
 チ明治二十四年十二月二十五日ニ在テモ亦上告人ノ使用セル實印ハ新乙第二號各證名下ニ押
 捺セル印章ナリト看做スヘキヤ言ヲ俟タス何トナレハ兩問ヲ證スルトキハ其中間ハ自ら推定
 セラルハ證據法上ノ原則ナレハナリ然ルニ原院ハ甲第一號證成立ノ以前及以後ニ於テ上告
 人ノ使用セル實印ハ新乙第二號ノ各證名下ニ押捺セル印章ナルコトヲ認メナカラ忽チ此認定
 チ翻シテ「甲第一號證成立ノ當時即明治二十四年十二月二十五日ニ在テ果シテ被控訴人主張ノ
 如ク新乙第二號ノ各證ニ押捺シタル被控訴人ノ印影カ被控訴人ノ實印ト認ムルニ由ナキモノ
 トス」ト判定セラレタリ而シテ其理由トスル所ハ單ニ「明治二十八年二月五日迄被控訴人ハ所轄
 市役所へ實印届出チ爲サ、ルモノナレハ」ト云フニ過キス然レトモ假令實印届出チ爲サ、リシ
 ニモセヨ既ニ上告人ニ於テ甲第一號證成立ノ前後ニ於テ使用シタル實印ノ同一ナルコトヲ立
 證シ原院モ亦之ヲ認メラレタル以上ハ甲第一號證成立ノ當時ニ於テ使用シタル實印モ亦同一
 ノ印章ナリト看做スヘキヤ言ヲ俟タス何トナレハ吾人カ數箇ノ實印ヲ所持シ且使用スルカ如
 キハ世間絶無稀有ノ事實ニ屬シ而シテ此事實ハ實印届出チキ、ノ一事ニ因リテ推定スヘキモノ
 ニ非レハナリ然ルニ原院カ此法則ニ反シ甲第一號證成立ノ當時ニ在テ、ミ上告人ノ實印ハ新

乙第二號各證名下ノ印影ナリト認ムルニ由ナシト判定セラレタルハ證據法ニ違背セル裁判ナリト云フニ在レトモ○是等ハ畢竟事實ノ認定證據ノ採否ニ付批難ヲ試ムルニ過キサレ論難ニシテ一モ適法上告ノ理由ナキモノトス

上告第七點一件記録ニ依レハ申請ニヨリ鑑定ヲ爲シタル後判事ニ更代アリテ辯論ヲ更新サレタリ而シテ其更新ノ法廷ニ於テ右ノ鑑定ノ結果ヲ唯報告シタルニ止マリ之ヲ引用セサルニ拘ハラズ採用シテ判斷ノ證據トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○辯論調書中裁判長ハ云々筆跡鑑定ノ結果ヲ告知ス云々其下文控訴代理人曰ク被控訴人ノ申立ル如キ鑑定人ハ相談ナシタルコトナク對照物ハ共ニ見タルモ辭ヲ突ヘタルコトナク云々控訴代理人ハ辯論ヲ爲シタリトアリテ鑑定ヲ引用シタルハ明知スルニ足ル論告ハ毫モ其理由ナキモノトス

上告第九點第二審口頭辯論調書ニ依レハ判決言渡シヲ爲スニ當リ法廷ヲ公開シタルハ又ハ之ヲ禁シタルハ何等ノ記載ナキヲ以テ適法ニ開廷シテ言渡シタル判決ナルヲ知ルニ由ナキ不法アリト云フニ在レトモ○辯論ト異リ判決ハ言渡シハ常ニ公開スヘキモノニシテ之ヲ禁スヘキモノニアラハハ調書ニ其公開ハコトハ記載ナキヲ以テ違法ト爲スヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ從ヒ主文ノ如ク本上告ヲ棄却スルモノナリ

判旨第九點

○預ケ品取戻請求ノ件

明治二十九年第三百三十一號
明治三十年六月三日第一民事部判決

○判決要旨

一 檢眞裁判ハ中間判決ニ依リ又ハ本案裁判ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ得(第三輯第八十三號判決參看)

一 民事訴訟法第三百五十一條ニ基キ私署證書ノ眞否確定ノ申立ヲ爲スニハ其證書カ他事件ニ於テ檢眞裁判ヲ經其事件カ既ニ終局シタル場合ニ限ル故ニ檢眞ニ付キ中間判決アリタレハトテ之ニ對シ直ニ眞否確定ノ申立ヲ爲スコトヲ得(第三輯第五卷所載明治三十年第四號判決參看)
(以上判旨第三點)

(參照) 公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ヲ偽造者クハ變造ナリト主張スル者ハ其證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第百五十一條)

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院
上告人 荒波元次郎 訴訟代理人 藤井剛次郎
被上告人 渡邊トリ 訴訟代理人 皆川廣濟

右當事者間ノ預ケ品取戻請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年一月二十四日言渡シタル判

檢眞裁判○私署證書ノ眞否確定

決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

理由

上告第一點ハ原院ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定セリ甲第一號證ニ因レハ着類取マセ三十八枚トアリ而シテ筆筒ノ記載ナシ着類ト云ヒ何故ト云フ文字中ニ筆筒ヲ含蓄スヘキ意義アルコトナシ而シテ單ニ被上告人カ供述ニ因リ上告人ハ之ヲ認メサルニモ拘ハラズ衣類三十八枚取マセノ文字中ニ包含スル如ク限定シタルハ證據法ニ違背シ且證書ノ解釋ヲ誤マレル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇原判文未段ノ說明ニ徵スレハ原院ハ單ニ衣類取交三十八枚トアル文字中ニ筆筒モ包含スルモノト認メタルニアラスシテ甲第一號證ニ衣類三十八枚トアルハ三十七枚ナレハ被上告人カ右衣類ヲ筆筒ニ入レタル儘上告人ニ預ケタリトコトハ事實ニ適合シタルモノナリト認定シタルニ外ナラサレハ右論旨ハ結局事實ノ認定ニ對スル攻撃ニシテ上告適法ノ理由ナシ

同第二點ハ原院判決ハ理由ノ不備アリ原院ニ於テ上告人ハ乙第一號證ノ檢眞ヲ申立テタリ故ニ證據物全體ニ付テ檢眞ノ結果ヲ決定セサルヘカラス然ルニ其筆蹟ヲ比照セルノミニシテ證書ノ主要部分ナル印章ヲ比照セザリシハ民事訴訟法第二百五十三條ニ違背シ總テノ證據方法

ニ因ラス不法ニモ裁判所カ制限シタル手跡比照ノ方法ノミニ因リタルハ不法ナリ又口頭辯論調書ニ控訴代理人ハ乙第一號證ハ第二審へ差出シタル委任狀ト對照シテ御檢眞ヲ願フト記載アリ此記載ニ由レハ乙第一號證全體ト第二審へ被上告人カ差出シタル委任狀全體ト對照シ檢眞アラントト申請シタルコト明カナリ而シテ其對照書類トセル委任狀ハ被上告人自身カ提出シタル處ナレハ眞正ナルコト勿論ニシテ其署名ハ裁判長カ第一審ノ委任狀ハ誰カ書キタルヤトノ問ニ對シ被控訴本人トリハ人ニ頼ミ書キ貰ヒタルニ付該委任狀タル明カニ自己ノ行爲又ハ實驗シタル事實ニ成リタルコト明瞭ナリサレハ被上告本人カ不知ノ陳述ハ許ス可カラサルモノニシテ爭ハサル事實ノ一タリ夫レ爭ハントスル意思ナキトキハ自白ノ効果ヲ生スルハ民事訴訟法第百十一條ノ規定スル所ナリ依テ該委任狀ハ自己ノ署名自己ノ印章ニシテ對照書類トシテハ恰當適切ノモノナリトス之レ上告人カ唯一完全ノモノトシテ選擇採用シタル所以ナリ然ルニ原院ハ書類ヲ故ラニ變スル虞アル相手方ノ手記ヲ採リ以テ事ヲ誤マレリ依テ民事訴訟法第三百五十三條ヲ按スルニ一定ノ語辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得ル場合ハ一ノ制限アリ即チ同條第三項ニ眞正ナリト自白又ハ證明シタル適當ノ對照書類ナキ場合ニ限レリ然ルニ本按ノ場合ニ於テハ署名印章トモ自己ノ手記自己ノ押捺ト自白シタリト看做スヘキ委任狀アルニ危險ナル若カモ法律ノ許サトル方法ニ由ルノ必要ナシ依テ原院カ乙第一號證ノ署名下被上告人カ當法廷ニ於テ手記シタル文字ト比照シタルハ民事訴訟法第三百五十三條第三項ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇原判決中事實ノ摘示ヲ閱スルニ乙第一號證ノ署名

ハ被控訴人(被告)ノ手記ニシテ被控訴人ノ當院ニ提出シタル委任狀ノ署名ト同一ノ筆跡ナルヲ以テ檢眞アラシメテ請フトアルニ依リ上告人ハ被上告人ノ署名ヲ對照シテ檢眞セラレシコトヲ申立テタルマテニシテ其他ノ對照方法ヲ請求セサルモノナレハ原院カ其請求ノ趣旨ニ基キ手記ノミニ依リ檢眞ヲ爲シタルハ決シテ不法ニアラス又原院ハ被上告人カ原院ノ法廷ニテ手記セサルモノノミニ由リ檢眞シタルニア非シテ其手記ト同院ニ提出シタル委任狀トニ由リ檢眞ヲ爲シタルモノナルコトハ判文ノ冒頭ニ明示シアル通りナレハ原院カ單ニ手記ノミニ由リ檢眞シタル如ク論告スルハ其當ヲ得ス又原院ハ右ニ說明スル如ク如ク上告人ノ申請ニ基キ第二審ニ提出シタル被上告人ノ委任狀ニ依リ乙第一號證ノ檢眞ヲ爲シタルモノナレハ被上告人カ第一審ニ於テ提出セル委任狀ハ右檢眞ニ付何等ノ關係ナキモノニシテ從テ第一審ノ委任狀ニ關スル被上告人ノ陳述ヲ援引シテ原判決ヲ攻擊スルハ原院旨ニ副ハサルモノトス

同第三點ハ民事訴訟法ノ精神ヲ按スルニ檢眞ノ他ニ舉證方法トシテ證書ノ眞否確定ノ申立ヲ爲シ之レカ中間判決ヲ爲スノ規定アリ故ニ檢眞ニ關スル結果ハ之レヲ本按判決前ニ宣言セサルヘカラス原院ハ其手續ヲ履行セス以テ眞否確定ノ申立ヲ爲ス機會ヲ與ヘサリキ之レ訴訟法ノ精神ニ違背セル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

〇私署證書ハ檢眞裁判ハ前以テ中間判決ニ由リ之ヲ爲スモ又ハ本按ハ裁判ト同時ニ爲スモ致テ妨ケナキモノナレハ原院カ本按ハ裁判ト同時ニ乙第一號ハ檢眞裁判ヲ爲シタルトテ不法ト云フヲ得ス元來民事訴訟法第三百五十一條ニ依リ私署證書ハ眞否確定ハ申立ヲ爲スニハ其證書カ他事件ニ於テ檢眞裁判ヲ經テ其事件

判旨第三點

ハ已ニ終局シタル場合ニ限ルモノトス故ニ本件ニ於テハ假令乙第一號證ハ檢眞ニ付中間ノ裁判アリタルトテ直ニ其裁判ニ對シ上告人ヨリ眞否確定ハ申立ヲ爲シ得サルモノナレハ原院カ此點ニ付キ中間裁判ヲ爲サハリシトテ上告人ニ舉證ハ機會ヲ失ハシメタルモノト云フヲ得ス

尤モ民事訴訟法第三百五十一條ニ拘ハラス偽造變造ノ申立ヲ爲スハ當事者ノ隨意ナリ換言スレハ當事者ハ同條ニ從ヒ眞否確定ノ申立ヲ爲サントスレハ必ス右ニ説明スル如キ場合ニ制限セラルト雖モ同條ニ由ラサルトキ即チ最初ニ檢眞裁判ヲ求メスシテ直ニ偽造變造ノ申立ヲ爲サントスレハ何時ニテモ其申立ヲ爲スヲ得ヘシ故ニ本論旨ハ適法ノ理由トナラス

同第四點ハ上告人ハ原院ニ於テ被上告人ト懇昵タリ而シテ偶々相争ヒ同日ニ預リ同日ニ還付セリト供述セリ故ニ世間普通ノ事情ニ適合セリ既ニ男女間情交ノ争トナリ茲ニ至レル以上ハ同日ニ預リ同日ニ還付スルモ怪ムニ足ラス證據法上單ニ還付シタリトノ證據ヲ提出スル外他ニ立證ノ義務アルコトナシ故ニ上告人ハ原院ニ於テ乙第一號證ヲ提出セリ右ハ證據法ヲ誤リタル違背ノ判決ナリト云フニ在レトモ

〇本件ノ如ク物品ヲ他人ヨリ預リ即日之ヲ還付シタリト云フカ如キハ稍々異例ニ屬スルヲ以テ原院カ特別ノ事情アラサル限りハ實際之レアリシモノト認定シ難シト斷定シタルハ畢竟其職權内ニ於ケル事實ノ認定ニ外ナラサレハ此論旨モ亦相當ノ理由ナシトス

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ從ヒ主文ノ判決ヲ爲ス

更正判決原本

上告人 荒波元次郎 訴訟代理人 藤井訓次郎
 被上告人 渡邊トヨ 訴訟代理人 皆川廣濟

右當事者間ノ本院明治二十九年第三百一十一號預ケ品取戻請求事件ニ付言渡シタル判決理由第三點ノ末文中「サルトキ即チ最初ニ檢査裁判ヲ求メ」ノ十六字及「直ニ」ノ二字ハ何レモ誤謬ニ付民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ職權ヲ以テ之ヲ削除ス

○損害要償ノ件

明治二十九年第五百二號
明治三十年六月四日第二民事部判決

○判決要旨

一 聯合區町村會ハ行政上ノ必要ニ應ニ隨時開設セラルル行政組合ニシテ其管理者タル郡區長ハ明治十七年第十四號布告區町村會法第四條ニ準據シ其評決ヲ施行スル職務權限ヲ有ス

(參照) 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不

適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事(縣令)ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ(明治十七年第十四號布告區町村會法第四條)

一 聯合區町村會ノ管理者ハ其評決ノ必要ニ應ニ聯合區町村會ナル集合名稱ノ下ニ他人ト契約スルコトヲ得ヘシ隨テ之ニ起因スル紛爭其他目的事件ノ關係ヨリ生スル諸般ノ爭訟ニ付テモ右集合名稱ノ下ニ於テ裁判上原告トナリ又被告トナルコトヲ得(以上判旨第一、二、三點)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 明田川喜平 訴訟代理人 岸 小三郎

被上告人 吉川庄藏 訴訟代理人 高橋捨六

右當事者間ノ損害要償事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年十月二十一日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ立會檢事岩田武儀ハ意見ヲ陳述シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點ハ本件被告タル西蒲原郡長ハ法律ノ規定ニ從ヒ設ケラレタル總町村聯合會ノ

聯合區町村會ノ性質○聯合區町村會ノ管理者

管理者タルハ其聯合會ノ議決ヲ施行シ外ニ對シテ其責任者タルコトハ原裁判ニ於テ引用說明シタル法律ニ牽連セル明治十七年十四號布告ノ第十五條ニヨリ明白ナリ既ニ管理者タリ施行責任者タル以上ハ假令明文ヲ以テ其訴訟當事者タルノ能力アルコトヲ掲ケサルモ其資格アルコト當然ナリ然ルニ原裁判ニ於テハ法令上訴訟當事者タルノ資格ナキモノト判定シタルハ不當ニ法律ヲ適用シタル不法ノ裁判ナリト云ヒ其第二點ハ加之本件損害要償ノ起因タル工事請負契約ハ當初ヨリ被告郡長ニ於テ特別委任ナク上告人ト締結シ其契約ノ條件ニ違反シタルヨリ本件ヲ起シタルモノナレハ被告ニ於テハ其法律上ノ代理資格ノ有無ニ拘ハラズ賠償ノ責任スヘキモノナルニ原裁判ニ於テ何等ノ理由ヲ附セス本訴ヲ排斥シタルハ管ニ理由ノ不當ナルノミナラス法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリト云ヒ其第三點ハ本件ハ第一審ニ於テ被告郡長ノ資格ノ有無ヲ調査セス本案ノ審理ヲ爲シ本件ニ付裁判ヲ下シタルモノナレハ原裁判ニ於テ被告郡長ニ當事者タル資格ナキモノト判定スレハ應サニ第一審裁判ヲ取消シ更ニ本訴ヲ却下スヘキニ原裁判ハコレヲ爲サス直チニ原裁判ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタルハ訴訟手續上違法ナリト云フニ在リ

依テ案スルニ聯合町村會ナルモノハ事件ノ數區町村ニ關涉シ一區若クハ一町村限リ施行スルコト能ハサルトキ之ヲ開設スヘキモノトナルコトハ明治十七年五月七日第十四號布告區町村會法第十三條ニ「府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキハ其區域ヲ定メ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得」トアルニ徴シ明カナリ且ツ同法第十四條ニ「聯合區町村會及ヒ水利土功會

ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長月長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但月長ヲシテ評決ヲ施行セシムルコトアルヘシトアルニ依レハ聯合區町村會ハ行政上ノ必要ニ應ジ隨時開設セラルル所ハ行政組合ニシテ其管理者ハ同法第四條ニ準據シ區長若クハ月長カ其區町村會ハ評決ヲ施行スルト同シク聯合町村會ハ會議ハ評決ヲ施行スル職務アルヤ論ヲ俟タズ既ニ管理者ニ於テ其評決ヲ施行スルハ職務ヲ有スル以上ハ管理者ハ評決ハ必要ニ順ヒ聯合區町村會ナル集合名稱ハ下ニ於テ他人ト契約スルコトヲ得ヘク隨テ右ノ契約ニ起因スル紛争其他目的事件ハ關係ヨリ生スル諸般ハ争訟ニ付テモ亦等シク右集合名稱ハ下ニテ裁判上ハ原告トナリ又被告トナルコトヲ得ヘシ蓋シ行政上及ヒ社交上一體トシテ活動シ加之外部ニ對シ其各分子ヲ指示スルコトヲ要セサル組織ニシテ現ニ特別ノ財産ヲ有スルカ若クハ之ヲ有セサルモ財産ヲ集收スルノ能力アルモノニ至テハ裁判上ニ於テモ亦一體トシテ活動スルノ能力ヲ有スルコトハ當然ノ條理ナリ尤聯合區町村會ナル名稱中ニハ其本體タル行政組合ト之カ機關タル議會及ヒ管理者ヲ包含スルコトハ言ヲ俟タサル所ナレトモ本件ハ上告人ニ於テ西蒲原郡總町村聯合會ナル行政組合ヲ被告トシテ之カ機關タル議會又ハ管理者ノミヲ被告トシタルニアラサルコトハ原院ノ調書中「裁判長問前同ニ於テ當事者ノ誰タルヲ取調ニ於テ當事者ノ誰タルヲ取調ヘノ上申立ルトノコトナリシカ如何控訴代理人答聯合會カ當事者トナルヘキモノニシテ郡長ハ聯合會ノ理事者即チ管理者ナルヲ以テ相手取タルモノナリ尙聞然ラハ聯合會其者カ當事者ナリト云フヤ答左様ナリ尙聞此訴訟ヲ何ニ依テ起シタルヤ答本訴

ハ明治十七年五月七日太政官第十四號布告二十二年三月二十一日法律第十一號及ヒ二十二年新潟縣令第三十三號ニ基キ之ヲ爲スモノトアルニ依リ明カナレハ本訴ハ尋モ對手ヲ誤リタルモノニアラス然ルニ原裁判ニ於テ右聯合會ナルモノハ云々町村置ヲ以テ支辨スヘキ數町村ニ涉ル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ其町村ニ代リ議定スルカ爲メ設ケラレタル一ノ機關タルニ止マリ法令上訴訟當事者タルノ資格ヲ有セサルコト明確ナレハ固ヨリ獨立シテ法律上代理人ノアルヘキ道理アラサルモノトス果シテ然ラハ控訴人カ右聯合會ニ掛リ本訴ヲ提起シタルハ即チ其對手ヲ誤リタルモノニシテ不法ノ要求タルヲ免レサルモノトスト說明シテ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタルハ本訴ノ提起ヲ以テ聯合町村會ノ行政組合ヲ被告トセス其評決機關タル議會ニ掛ルモノト誤認シタルヤ或ハ又聯合町村會ハ行政上ノ組合ニシテ法人ニアラサル故ニ該會ヲ以テ集合名稱ノ下ニ訴ヘ又ハ訴ヘラルトコトヲ得ルノ能力ヲ有セサルモノト誤解シタルヤ明了ナラスト雖モ兎ニ角右ノ如キ說明ヲ以テ正當ニ提出セラレタル訴訟ヲ排斥シタルハ當事者ノ訴訟上ノ陳述ヲ誤認シタルノ不法アルカ然ラサレハ訴訟能力ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタルノ不法ヲ免レサルモノナリトス

上來說明ノ如ク本件上告ハ適法ノ理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ依リ原判決ヲ破毀シ尙ホ同法第四百四十八條第一項ノ規定ニ從ヒ事件ヲ東京控訴院ニ差戻スヲ相當ナリトス是レ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

○證書取戻請求ノ件

明治三十年第七十九號
明治三十年六月五日第一民事部判決

○判決要旨

一 證書ニ證券印紙ヲ貼用セザリシ事實アルモ既ニ其公訴ノ期滿免除ニ係ルヲ以テ處罰ヲ受ケス之ニ相當印紙ヲ貼用シ裁判所ニ提出シタルトキハ裁判所カ之ヲ採用シテ判斷ノ資料ニ供スルモ不法ニアラス(判旨第一點)(第二輯第十卷所載五十號判決參看)

第一審 福島地方裁判所

第二審 宮城控訴院

上告人 飯島清太郎

訴訟代理人 佐藤喜三

被上告人 遠藤善助

右當事者間ノ證書取戻請求事件ニ付宮城控訴院カ明治二十九年十二月十四日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

期滿免除ニ係ル證券印紙不貼用ノ證書

上告理由ノ第一ハ原院カ證據トシテ採用シタル甲第一號證ハ證券印稅規則ニ從ヒ相當ノ證券印紙ヲ貼用スヘキニ其コトナク又々處罰ヲ受ケタル後チ印紙ヲ貼用スルニ非ラザレハ裁判上證據トシテ採用スルヲ得サルコトハ該證券印稅規則ニ明定スル處ナリ而シテ甲第一號證ハ同規則第二條ニ依リ印紙貼用スヘキモノナルニ其貼用ナキハ證券印稅規則ニ違犯シタルモノナリ然ルニ其無効ノ證據ヲ取テ以テ上告人敗訴ノ判決ヲ與ヘラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院辯論調書中被告代理人ハ第一審口頭辯論調書ニ基キ申立ヲ爲シ且第一審中甲第一號證ニ印紙貼用致サス有之タル處今般被控訴人ニ於テ貼用シタリ又公訴期滿免除ニ係ルヲ以テ處罰ハ受ケスト申立タリトアリ而シテ控訴代理人カ此申立ニ對シ争ヒタル事跡ナキヲ以テ觀レハ控訴人即チ上告人ハ被告上告人カ甲第一號證ニ相當ハ印紙ヲ貼用シテ原院ニ提出シタル事實ヲ認メタルモノナリ而シテ既ニ公訴ハ時効ニ罹リタルヲ以テ處罰ヲ受ケスシテ被告上告人カ甲第一號證ニ相當ハ印紙ヲ貼用シ原院ニ提出シタル以上ハ原院カ之ヲ採テ其判斷ハ材料ニ供シタレハトテ毫モ不法ハ廉アルコトナシ

其第二ハ本件被告上告人カ訴求スル甲第一號證ニ記載アル五個ノ證書ハ第一審廷ニ於テ訴外人富永馬次郎カ證書セシ如ク被告上告人ヘ引渡タルモノナルカ故ニ上告人ノ手裏ニ存在スルコトヲ確メテ後ニアラサレハ大早計ノ訴ト言ハサルヲ得ス原院ニ於テ第一審ノ裁判ヲ認可シ上告人ノ控訴ヲ棄却セラレタルモ固ヨリ四個ノ證書ハ上告人ノ手裏ニ存在セス結局執行シ得サル判決ナリ夫レ法官ニ云ハスヤ能ハサルモノハ能ハサルナリト原院ニ於テハ此點ヲ推究セス職

判旨第一點

ケ前記ノ判決ヲ與ヘラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ハ甲第一號證ニ記載アル證書ヲ上告人カ被告上告人ヨリ預リ居ルヤ否ヤヲ以テ主要ノ争點ナリトス然レハ原院ニ於テハ上告人カ其證書ヲ預リ居ルヤ否ヤノ事實ヲ判斷スルヲ以テ足ルヘク其證書カ果シテ上告人ノ手裏ニ存在スルヤ否ヤヲ確メタル者ニ非サレハ上告人カ其證書ヲ預リ居ルモノト判斷スルコトヲ得ストノ理アルコトナシ而シテ若シ右ノ證書カ上告人ノ手裏ニ存在セサルヲ以テ原院判決タルヤ結局執行不能ノモノナリトスレハ其不能ノ結果ハ毫モ上告人ノ不利ニ歸スヘキ筈ナキカ故ニ原判決ノ執行不能ノ理由トシテ上告ヲ爲スコト得サルモノトス以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ從ヒ主文ノ判決ヲ爲ス

○地所賣買契約履行ノ件

明治三十年第六百三十一號
明治三十年六月七日第二民事部判決

○判決要旨

一手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及期日ヲ約シタル場合之ヲ賣買ノ豫約ト認ムヘキ
手附金ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタル契約○賣買契約ノ完成○不動産賣買ノ登記

一般ノ慣習ナシ故ニ斯ル場合ニ於テ當事者ノ意思何レニ存スルヤヲ認定スルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス(判旨第一點)

一 賣買契約ハ代價ノ全部若クハ一部ノ支拂ヲ爲ササル間ハ完成セサルモノトスル慣習若クハ法理存セサルモノトス(判旨第五點)

一 不動産ノ賣買ハ其登記ヲ爲ササレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト雖モ當事者間ニ在テハ賣買契約ノ完結ト同時ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉ス(判旨第六點)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

上告人 森田利兵衛 訴訟代理人 岡崎正也
外二名
被上告人 越知保之助 花井卓藏

右當事者間ノ地所賣買契約履行請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十年二月十三日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ凡ソ賣買ヲ目的トセル契約ニ於テ單ニ手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及ヒ期日

ヲ約シタル場合ニ於テハ之ヲ賣買ノ豫約ト認メラルヘキ一般ノ慣習ナリトス且ツ又賣買ヲ目的トセル契約カ賣買豫約タルヘキヤ將タ賣買契約タルヘキヤハ當事者ノ意思如何ニヨリ決セラルヘキモノトシ必スシモ其賣買目的物ノ代金及ヒ代金目的ノ授受ノ期間等賣買條件確定不確定ノミニヨリ決セラルヘキモノニアラサルハ當然ノ筋合ナリトス而シテ上告人ハ原院ニ於テ本件當事者間ノ契約ハ甲一號乙一號登記載ノ如ク明治二十九年九月十日ヲ期シ同登記載ノ條件ヲ以テ賣買ヲ爲スヘキ事ヲ豫約シ手附金ヲ授受シタルモノニシテ即チ賣買豫約ノ合意ヲ爲シタルニ外ナラサルコトヲ論争セリ然ルニ原裁判ニ於テハ控訴代理人ハ本訴ノ地所ハ控訴代理人高崎末造ト被控訴人トノ間ニ乙一號證ノ如ク賣買豫約ヲ爲シタルヲ甲一號證ニ其豫約ノ儘更改シタルモノニシテ云々抗辯スルモ其甲乙一號證ヲ閱スルニ賣買地ノ反別及ヒ代金モ確定シ且ツ代價ノ支拂並登記ノ期日ヲ約定シアルニ付當事者間ニ於テ該賣買契約ノ完結シタルコトハ疑ヲ容レズト判示シ即チ賣買ヲ目的トスル契約ニ於テハ賣買ノ條件ヲ決定シタルトキハ常ニ必シモ賣買豫約ニ非スシテ賣買契約ニシテ當然所有權ノ歸付アルヘキモノ、如ク判決セラレタリ依テ右判決ハ本件契約當事者ノ意思賣買ヲ結了スルニアリタルヤ將タ未來ニ賣買ヲ結了セラルヘキ豫約ヲ爲スニアリタルヤノ必要ノ事實ヲ遺脱シ且ツ慣習ニ違背シ不法ニ事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ○之ヲ按スルニ本件ハ甲乙一號證ニ於ケル結約ハ地所賣買ノ豫約ナルヲ將タ其賣買契約ノ完結シタルモノナルヲ判定スレハ其曲直ノ定マルヘキモノタリ而シテ上告人論告ノ如キ手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及ヒ期日ヲ約シタル手附金ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタル契約○賣買契約ノ完成○不動産賣買ノ登記

場合ニ於テハ之ヲ賣買ハ豫約ト認メラルヘキ一般ノ慣習アルヲ見ス故ニ斯ル場合ニ於テハ當事者ハ意思ハ何レニ出テタルモハナルヲ認定スルハ偏ニ原承審官ノ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ判斷ヲ爲シ得ヘキモハト是ヲ以テ原裁判所ハ甲乙一號證ニ依リ其意思ノアリシ所ヲ推定シ當事者間ニ於テハ地所賣買契約ノ完結シタルモノト判斷シタル筋合ナルコトハ原判決理由中ニ自ラ明カナレハ原判決ハ上告論旨ノ如キ違法ノ點ナシ

其第二點ハ上告人ニ於テ其本件地所賣買契約ノ成立シタルモノトスルモ被上告人ハ故ナク賣買履行ノ期日ヲ怠リタルニ因リ甲第一號證(乙第二號證)特約ノ旨趣ニ基キ其賣買契約ハ當然解除シタルモノナルニ因リ本訴ノ請求ニ應ズル貴ナシ而シテ被上告人ハ期日即チ九月十日ハ天災ノ爲メ出頭スルコト能ハサリシト主張スルモ被上告人ハ當時大阪市居住ノ者ナルヲ以テ假令其原籍地ニ天災アリトスルモ爲メニ期日登記所へ出頭シ克ハサル理ナシト論争セリ然ルニ原裁判所ニ於テハ右ノ爭點ニ對シ其登記期日即チ九月十日ハ霖雨ノ爲メ神崎川南岸ノ堤防決潰シ河水被控訴人居村近傍ニ侵入シ數日間他方へ交通杜絶シタルコトハ最も顯著ナル事實ナレハ被控訴人カ右期日登記所ニ出頭セサリシハ天災ニ由リ出頭スルコト克ハサリシモノト認ムルニ足レリト判決シ上告人ノ主張ヲ排斥セラレタリ然レトモ上告人ハ第一審以來被上告人ハ大阪市北區堂島中二丁目九十八番屋敷越知周次方ニ居住シ其原籍地タル大阪府西成郡神島村ニ居住セサリシトノ理由ヲ以テ被上告人カ天災ノ爲メ期日ニ登記所ニ出頭シ克ハサリシトノ事ヲ絶對ニ否認セシモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テハ此ノ重要ナル争アル事實ニ對シ何

等ノ説明ヲモ與ヘラレスシテ恰モ争ナキ事實ノ如ク看過シ慢然前掲ノ如ク判決セラレタルハ必要ナル爭點ヲ遺脱シ不當ニ事實ヲ確定セラレタルモノニシテ理由不備ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ原裁判所ニ於ケル口頭辯論調書及ヒ控訴狀等ヲ點檢スルニ上告人ハ被上告人ノ肩書ニ「大阪府西成郡神島村第三百八十九番屋敷平民農」ト掲ケテ控訴狀ヲ提出シナカラ口頭辯論ニ於テ被上告人カ天災ノ當時大阪市北區堂島中二丁目九十八番地ニ居住セシ旨ヲ以テ獨立ノ抗辯トシテ主張シタル事跡ノ見ルヘキモノナシ然ラハ原裁判所カ其登記期日云々河水被控訴人居村近傍ニ侵入シ數日間他方へ交通杜絶シタルコトハ最も顯著ナル事實ナレハ被控訴人カ右期日登記所ニ出頭セサリシハ天災ニ由リ出頭スルコト克ハサリシモノト認ムルニ足レリト判決シ他ニ何等ノ説明ヲモ爲サリシハ當然ニシテ上告其理由ナシ

其第三點ハ假ニ本件當事者間ノ契約ハ賣買豫約ニアラスシテ賣買契約ナリトスルモ甲一號規約ノ如ク本件賣買履行ノ期日ハ明治二十九年九月十日限リトス若シ一日ニテモ期日ヲ經過シタルトキハ此ノ賣買ハ當然解約トナリ手附金ハ没入シ云々トアリテ即チ期日ヲ條件ト爲シタル契約タルコトハ争ナキ所ナリトス而シテ右期日ニ於テ上告人ハ代金ヲ持參シ登記所ニ出頭シタルニ被上告人ノ出頭セサリシタメ右期日ニ履行スル克ハサリシハ争ナキ事實ニシテ原判決モ亦認ムル所ナリトス右本文ノ如ク履行期日ヲ條件ト爲シタル場合ニ於テ契約者一方タル被上告人カ期日ニ爲スヘキ義務ヲ履行セサリシ以上ハ其原因被上告人ノ懈怠ニ出テタルヤ或ハ又不可抗力ノ爲メ履行スル克ハサリシモノタルヤニ不拘相手方ナル上告人カ之カ爲メ當初

ノ契約ニ反シ期日後ニ至テ右契約ヲ履行スヘキ責任ヲ生スヘキ道理ナキヤ明カナリトス然ルニ原裁判ニ於テハ被告入カ期日ニ賣買ヲ履行スル克ハサリシハ其懈怠ニ出テタルニアラストノ理由ニヨリ契約條件ニ反シ期日後ニ至リ上告人ニ於テ該契約ヲ履行スヘキ責任アルモノ如ク判決セラレタルハ法則ニ反スル違法ノ裁判ナリト云フニアルモ○原裁判所ハ本件賣買實行ノ期日即チ登記ノ期日ハ當事者間ノ懈怠ニ出テ之ヲ徒過シタルニ非スシテ天災ニ原因シ其實行延引シタルモノト認メ其期日後ニ至リ遑テ賣買實行ヲ請求スルチ契約ノ本主ナリトシ之ヲ採用シタル筋合ナルコトハ第一二點ノ論旨ニ對スル説明ニ依リ之ヲ會得スヘシ然ラハ原判決ハ上告人所論ノ如キ違法ノ裁判ニ非ス

其第四點ハ原裁判所ハ「甲乙一號證ヲ附スルニ賣買地ノ反別及ヒ代金モ確定シ且代價ノ支拂並ニ登記ノ期日ヲ約定シアルニ付當事者間ニ於テ該賣買契約ノ定結シタルコト疑チ容レヌ」ト判定セリ然レトモ甲乙一號證ハ單純ニ右等ノ事實ノミチ約定シアルニアラス若シ期日契約ヲ實行セザルトキハ契約ヲ解除シ手附金ヲ徵收スヘキ條件ヲモ約定セリ乃チ該證ハ單純ナル賣買契約ニアラスシテ條件付ノ賣買契約ナルコト知ルヘシ而シテ原裁判所ノ口頭辯論調書中被告入立證ノ部チ看ルモ甲第一號證ノ條件契約タル事實ハ被告入自ラ認ムル所ニ係ル然ルニ原裁判所ニ於テ該證ヲ以テ恰モ單純普通ノ賣買契約ナルカ如ク推定シ賣買契約締結セリト判斷シタルハ法律ニ違背シテ不當ニ事實ヲ確定シタル不法アリト云フニアルモ○上告人所論ノ如ク解除條件付ノ賣買契約トスル其條件到來スル迄ハ賣買契約ハ締結スルチ以テ原裁判ト結

果ニ於テ異ナルコトナシ故ニ本論旨モ上告其理由ナシ

判旨第五點

其第五點ハ代價ノ全部若クハ其一部ノ支拂ナキ以上賣買契約ハ決シテ完成セザルモノナリ本件ニアリテハ全ク代價ノ支拂ナク原裁判所モ亦其支拂ノ事實ヲ認定セス果シテ然ラハ甲乙一號證ノ契約ハ法律上完結セルモノニアラス然ルニ原裁判所ハ此事實ヲ認メナカラ「賣買契約ノ締結シタルコトハ疑チ容レヌ」ト判定シタルハ賣買契約ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リタル不法アリ但シ該證中手附金提供ノ一事アレトモ手附金ハ決シテ代金ノ内拂ニアラス又手付金ト内拂金トハ法律上格段ナル差異アルカ故ニ手附金ヲ以テ代金ノ内拂ナリト論定スルチ得サルヤ言ヲ待タスト云フニ在リ○然レトモ代價ノ全部若クハ其一部ハ支拂ヲ爲サハル間ハ賣買契約ハ完成セザルモノハナリトスル慣習若クハ法理ハ本邦ニ於テ未タ曾テ認メサル所ナレハ本論旨モ上告ハ理由トナラス

其第六點ハ又原裁判所ハ「既ニ其賣買契約成立シタル以上ハ設令ヒ其地所カ水害ノ爲メ損害ヲ蒙リタリトスルモ契約成立ト同時ニ其所有權ヲ得タル控訴人ニ於テ其損害ヲ負擔スルハ當然ニシテ云々」ト判定セリ然レトモ不動産ノ所有權ハ契約ノ成立ト同時ニ移轉スヘキモノニアラス必スヤ登記ノ手續ヲ履踐スルチ要ス然ラサレハ法律上完全ナル所有權ヲ享有スルコトヲ得ス既ニ所有權ナシ何カ故ニ所有權ニ伴フ損害ヲ負擔スヘキ理由アリヤ契約ナル人權ト所有權ナル物權トハ法律上同一ノ効果ヲ生スヘキモノニアラス要之原裁判所ニ於テ契約ノ成立ト同時ニ所有權移轉スヘキモノナリト判定シタルハ契約並ニ所有權ニ關スル一般ノ法則ニ背反セ

手附金ヲ授受シ賣買條件及期日ヲ約シタル契約ノ賣買契約ノ完成○不動産賣買ノ登記

判旨第六點
 ル不法アリト云フニ在リ。○依テ按スルニ凡ソ、不動産ノ賣買ハ其登記ヲ爲サレハ單ニ賣買契約ノ成立ノミヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト雖モ其賣買契約ヲ爲シタル當事者間ニ在テハ其登記ヲ爲シタルト否トニ依リ權利關係ニ消長ヲ來スヘキモノニ非ス即チ其賣買契約ハ完結ト同時ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉スヘキ筈合ナルヲ以テ本論旨モ亦上告適法ノ理由ナシ

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○貸金辨償請求ノ件

明治三十年第七十四號
 明治三十年六月十二日第一民事部判決

○判決要旨

一 刑事ノ判決カ民事ノ判決ヲ羈束スルハ犯罪ノ眞實犯罪ノ性質及ヒ被告人ノ罪責ニ限ルモノトス(判旨第一點)(第九年第三百六號判決參看)

第一審 廣島地方裁判所尾道支部 第二審 廣島控訴院

上告人 森島儀八郎 訴訟代理人 高木益太郎

被上告人 石川新六

右當事者間ノ貸金辨償請求事件ニ付廣島控訴院カ明治二十九年十二月七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

判旨第一點

上告論旨第一點ハ原判決ヲ視ルニ其理由ハ全然刑事上ノ確定判決ニ抵觸セリ故ニ原裁判ハ已判力ヲ無視シテ不法ニ事實ヲ斷定シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑事ノ判決ニシテ民事ノ判決ヲ羈束ス可キハ犯罪ノ眞實犯罪ノ性質及ヒ被告ノ罪責ニ限ル可キモノニシテ本件ハ如キ無罪ヲ言渡シタル判決ニ羈束セラル可キニ非ス故ニ論旨ハ其理由ナキモノトス

同第二點ハ原判決ハ栗根正夫等ノ被告タリシ刑事事件ノ豫審調査ニ基キ本件ノ裁判ヲ下シタルトモ果シテ原判決理由ノ部ニ掲グルルカ如キ申立アリトノ事ハ上告人ニ於テ之ヲ認ムル能ハサルノミナラス本件ノ訴訟記録ニハ右豫審調査ノ添付ナク又之ヲ援用シタル被上告人ニ於テ該調査ノ寫スラ提出セザリシヲ以テ視レハ本件ノ訴訟記録中右事蹟ヲ確認スルニ由ナキモノトス然ルニ原院カ訴訟記録上存在セサル事柄ニ基キ上告人ニ不利益ノ判斷ヲ與ヘタルハ法則

ニ違反シテ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○豫審調査ノ如キハ必要ナル場合ニ於テハ何時ニテモ取寄スルコトヲ得ルモノナレハ舉證者ヨリ其原本ヲ差出シ記録ニ添付スルノ要ナシ而シテ原判決ノ材料ト爲リタル豫審調査ハ之ヲ取寄セ證據調後還付シタルコト訴訟記録ニ依リ明カナレハ記録中ニ其證據書類ノ原本存在セサルモ之ヲ以テ記録ニナキ事柄ヲ判決ノ資料ニ供シタル不法アリト云フヲ得ス

同第三點ハ原判決ハ刑事事件ノ被告人又ハ證人ノ豫審調査ヲ轉テ本按ノ證據ニ採用シタルトモコハ本件ニ就キ直接訊問ヲ經タルモノニアラサレハ其陳述ヲ採テ直ニ本按ノ證據ニ採用シタルハ不法ノ措置タリ何トナレハ民事訴訟事件ニ付人證ヲ採ラントスルトキハ民事訴訟法ノ規定セル法式ニ從ヒ且當事者ト身分上ノ關係如何ノ調査ヲ經タルモノナラサルヘカラス然ルニ右證人調査等ハ固ヨリ是等ノ法式ヲ踐ミタルモノニアラサレハ其陳述ヲ採テ直チニ本件ノ證據ニ供スルトキハ民事訴訟法ノ證人調ニ關スル規定ヲ無視シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ豫審調査ニ記載スル證言ニ入證トシテ採用シタルニ非スシテ調査タル書類ヲ以テ判斷ノ材料ト爲シ即チ書證トシテ採用シタルモノナレハ人證ノ法則ヲ根據トシ原判決ヲ攻撃スルハ筋違ノ論告ニシテ其理由ナシ

同第四點ハ原判決ハ上告人ノ手控タル寶帳ノ記載事項中或ハ其位地ノ相違レル點或ハ日付ノ顛倒アル點或ハ同一ノ墨色アル點及ヒ栗根正夫被告事件ニ付上告人カ參考人トシテ豫審調査中ノ申立等ニ依リ右寶帳ノ記載ハ隨時ノ記入ニアラス後日同時ノ記入ナリトノ推定ヲ下シタ

レトモ此點ニ就テハ既ニ上告人ニ於テ該豫審調査中取引ノ多忙ナル時ニテ忘レテ居リシ故跡ヨリ考ヘ出シテ他ノ帳簿ヨリ記載シタルモノヲ御坐リマストノ申立ヲナシアルニモ不拘原判決ハ寶帳ノ原簿タル他ノ帳簿ノ記載如何ヲ審及セス及本按以外即チ裁判外ニ於ケル上告人ノ申立ヲ妄リニ分割シテ其一部ハ之ヲ被上告人ノ利益ナル證據ニ供シ他ノ一部ハ全ク之ヲ捨テ顧ミサリシハ自認不可分ノ法則ニ違反スル裁判ナルノミナラス假令手控帳ノ記載ハ各項一時ニ之ヲ記入シタリトスルモ元來上告人ハ非商人ニシテ手控帳記載ノ時期方法ニ付何等ノ責任ナク其帳簿ハ唯上告人ノ記憶ヲ喚起スルノ用ニ供スルニ止マリ第三者ニ對抗スルノ考ヲ以テ之ヲ記載シタルモノニアラサレハ其記入ノ時日如何ハ本件貸借存否如何ヲ決スルノ資料トナスニ足ラサルモノトス然ルニ原判決ハ寶帳ノ記載事項ニ基キ之ヲ後日同時ノ記入ナリト推定シ此不當ナル推定ノミチ基本トシテ更ニ實際貸借存セシモノト認ムルヲ得ストノ斷定ヲ下シタルハ直接ノ證據ニ基カス妄ニ推定ノ上ニ架空ノ推定ヲ構ヘ不法ニ事實ヲ確定シタル裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ本件貸借ノ事項ハ其目的ノ當時寶帳ナルモノハ適實ニ之ヲ記載セシモノニ非スシテ後日ニ至リ各項一時ニ記入シタリト認定シタルハ單ニ原判文中ニ採用スル豫審調査中ノ上告人供述ノミニ依據スルニ非ス上告論旨中ニモ揭クル如ク寶帳中本件貸金ノ記載事項ハ其位地相違レルコト日附ノ前後顛倒セルコト及ヒ各項記載カ執レモ同一ノ墨色ヲ呈シ居ルコト等カ右認定ノ主たる根據ナルコト原判決ニ徴シテ明カナリ然レハ假令原院ニ於テ豫審調査中ニ上告人ノ主張スル如キ供述アルヲ看過シタリトスルモ之ヲ以テ自白

ナ分割シタル不法アリト云フヲ得ス又他ノ帳簿ヨリ後日記入シタルトコトハ原院ニ於テ上
 告人ヨリ其帳簿ヲ證據トシテ主張シタル事跡ノ原記録中見ル可キモノナケレハ此點如何ヲ審
 及スルノ要ナシ而シテ後段ノ論旨ハ寶帳ノ證據力ヲ攻撃スルニ在ルモ原院ハ寶帳ノミヲ基本
 トシテ本件貸借ノ有無ニ付キ裁判ヲ爲シタルニ非スシテ上告人ノ主張タル其自宅ニ於テ栗根
 正夫及ヒ被上告人立會ニテ甲第一號證ノ貸借ヲ爲シタリトノ事實ヲ虛妄ナリト認定シタルコ
 ト及ヒ同證ノ金高及ヒ宛名等ノ文字カ他ノ借用證一金トアル文字及ヒ證書本文ト同時ニ記入
 セラレタルニ非スト認メタルコト等ニ基クノミナラス間接ノ證據ノミニ依リテハ事實ヲ認定
 スルヲ得サル謂レナケレハ同帳ハ商業帳簿ノ如キ證據力ナキモ之ニ依リ本件貸借ノ事實アル
 ナ否ヲ推定シタルハ毫モ不法ニ非ス要スルニ論告ハ事實ノ認定及ヒ探證ノ當否ヲ攻撃スル
 ニ外ナラサレハ其理由ナキモノトス

同第五點ハ原院判決理由中(被控訴人カ明治二十八年一月二十八日自宅ニ於テ控訴人立會ニテ正
 夫ニ該證ノ金額ヲ貸付タリトノ主張ハ到底信用ヲ置クニ足ラサル者トス)トアル一句ハ(控訴人
 カ其日ニ立會タリトノ事ハ信用スルニ足ラス)トノ意義ニシテ(立會ノ有無)ヲ主トシテ判斷シタ
 ル文字ナリト解釋セサル可カラス抑モ上告人ノ主張セル(被上告人ノ立會アリタリ)トノ點ニ關
 シ其證據ハ乏シキニモセヨ被上告人ノ立會ナケレハ貸借成立セストハ決スル能ハサル筈
 合ナルヲ以テ立會ノ有無ハ必竟貸借ノ成立ニ必要條件ニアラサルナリ是故ニ此帳ニ對スル判
 斷ハ未タ以テ正夫ニ該金額ヲ貸付サルノ理由トスルニ足ラス從テ(正夫ニ該金ヲ貸付タルコト

無之)トノ斷定ニ關スル理由ハ判決中其適當ナルモノヲ明示シタルノ處ナキニ歸ス是レ則チ判
 決ニ理由ヲ付セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原院判決ハ決シテ被上告人ノ立會ヲ
 以テ本件貸借成立ノ必要條件ナリトシ其事實如何ノミニ基キ貸借關係ノ存否ヲ裁判シタルニ
 非ス該事實ノナキコトヲ以テ貸借ノ正當ニ成立シタルニ非ストスル裁判ノ一理由ニ供シタル
 ニ過キスシテ同裁判ハ前點ノ終ニ於テ說示スル如キ證據ト事實ニ基クコト明カナレハ上告ノ
 如キ不法アルコトナシ
 以上説明スル如ク上告論旨ハ總テ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ
 本件上告ヲ棄却スルヲ相當トス

○貸金催促ノ件

明治二十九年第三百八十八號
明治三十年六月十七日第一民事部判決

○判決要旨

一 代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ當事者ノ中一方カ死亡シタルトキハ他ノ
 一方ニ對シ委任消滅ノ通知アルマテハ其訴訟手續ハ中斷セラレサルモノトス

訴訟手續ノ中斷○訴訟當事者一方ノ死亡○死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判

一 訴訟當事者ノ一方カ死亡スルモ民事訴訟法第百八十三條ニ依リ訴訟手續ノ中斷ヲ爲ササルトキハ同法第百八十七條ノ規定ニ從ヒ受繼ノ手續ヲ爲スヲ要セ

(參照) 訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ原告若クハ被告カ死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ法律上代理人カ死亡シ又ハ代理權カ消滅スルトキハ委任消滅ノ通知ニ因リ訴訟手續ヲ中斷ス(訴訟手續ノ受繼ニ付テハ第百七十八條第百八十條第百八十一條ノ規定ニ從フ(民事訴訟法第百八十三條)中斷シ又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼及本節ニ定メタル通知ハ原告若クハ被告ヨリ其書面ヲ受訴裁判所ニ差出シ裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達ス可シ(同第百八十七條)

一 死亡シタル當事者ノ一方ノ相續人カ訴訟手續ノ中斷ヲ爲サス直ニ訴訟ノ繼承人トシテ出廷シタル場合ニ於テ裁判所カ相手方ニ其事實ヲ告ケス繼承人ヲ當事者トシテ裁判ヲ爲スハ不法ナリトス(以上判旨第一點)

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 飯島幹太郎 訴訟代理人 田澤鎮太郎

被上告人 小野クニ 訴訟代理人 森 啓治郎

右當事者間ノ貸金催促事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年六月十八日言渡シタル判決ニ對シ

上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ヘ差戻ス

理由

上告第一點ハ本按ハ小野敬藏ヨリ上告人ニ對スル貸金請求ノ訴訟ナリ故ニ被上告人クニ當事者トスルニ付テハ先以テ上告人ヘ訴訟承繼ノ送達ヲ爲シ然ル後意見ヲ聽クヘキヲ當然トス然ルニ原院ニ於テ訴訟進行上ノ手續茲ニ出サリシテ以テ上告人ハ判決書送達ノ際迄此事ヲ知ラサリシヲ以テ被上告人ハ適法ノ相續人ナルヤ否ニ付上告人ヲシテ意見ヲ述フルノ時機ヲ得サラシメシハ是レ訴訟承繼ノ手續ニ背戾スル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ民事訴訟法第百八十三條ノ規定ニ據レハ本件ノ如キ代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ原告若クハ被告ハ死亡シタルトキハ委任消滅ノ通知アルニアラサレハ訴訟手續ハ中斷セラレズ本訴被上告人先代小野敬藏死亡シテ其訴訟委任ハ消滅セシコトハ相手方ナル上告人ニ通知ノ送達アリタルハ形骸一件記録中ニ之レナキヲ以テ其訴訟手續ハ未ダ中斷セズ故ニ小野クニナル者敬藏ハ相續人ト爲リ其訴訟ハ手續ヲ續行セントモ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ受繼ノ手續ヲ爲スニ及ハサルヲ論ナシ然レトモ原院ニ於テ敬藏ハ代ニ其相續人小野クニヲ以テ當事者ト爲シ之ニ對シ判決ヲ言渡スニハ相手方ナル上告人カ辯論中ニ之ヲ知リ居ルコトヲ要ス然ルニ原院ハ口頭辯論證書ヲ査閱スルニ其一回乃至第四回トモ孰モ其初メニ控訴人(上告人)飯島幹太郎

訴訟手續ノ中斷○訴訟當事者一方ノ死亡○死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判

訴訟手續ノ中断○訴訟當事者一方ノ死亡○死亡當事者ノ相續人ニ對スル裁判

四十

被控訴人小野敬藏間ハ貸金請求控訴事件ニ付口頭辯論ヲ開始スル旨記載アリテクニハ敬藏相續人タルコトヲ徵スヘキ記載アラズ其他一件記録中ニモ上告人ニ於テクニハ敬藏相續人ナルコトヲ知悉シタルコトノ視ルヘキモノナキヲ以テ本訴ハ判決ハ原院ニ於テ上告人ト小野敬藏トニ對シ言渡サハルヘカラサルニ原判決ニハ敬藏ハ相續人トシテ小野カニハ氏名ヲ掲ケタルハ是レ上告人ハ未タ曾テ知ラサル訴外人ニ對シ判決ヲ言渡シタルモノニシテ民事訴訟法第二百三十六條ハ規定ニ違背セル不法ハ判決ナルニ因リ破毀スヘキモノトス
上告論旨ハ既ニ此點ニ於テ理由アルニ依リ其第二點ニ付又説明ヲ與ルノ必要ナシ
以上ノ理由ニ據リ民事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒ主文ノ如ク判決スルモノナリ

○拂下地所登記請求ノ件

明治三十年第六百五十七號
明治三十年六月十八日第二民事部判決

○判決要旨

一 訴訟當事者ノ合意ノ有無ニ關セス又取引カ登記法發布以前ニ係ルニモセヨ既

ニ其當事者ノ一方ニ於テ登記ノ必要ヲ認メ之ヲ他ノ一方ニ請求スルトキハ裁判所ハ登記法ニ照シ請求ノ當否ヲ判斷スヘキモノトス

一 登記ハ其物件ノ所有權者ト直接ノ權判移付者ノ間ニ爲スヘキモノナリ故ニ行政官廳ヨリ拂下ヲ受ケタル地所ヲ買取リタル者ハ直接ニ其官廳ニ對シ登記ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス(以上判旨第一、二、三點)

第一審 東京地方裁判所

第二審 宮城控訴院

上告人 武田忠臣

訴訟代理人 江木 衷

被告 久我通久

右當事者間ノ拂下地所登記請求事件ニ付宮城控訴院カ明治三十年三月十五日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一論旨ハ原裁判所ハ東京府知事ヲ相手トシテ本訴ヲ提起シ得ヘカラス宜シク折橋政嘉外一人ヲ相手トシテ登記ヲ爲スヘキモノナリト判示セラレタレトモ上告人ハ折橋政嘉外一人ヨリ權利ヲ繼承シタル者ナレハ被上告人ニ於テ登記ノ義務ヲ有スルモノナリ故ニ原判決ハ

登記ノ請求

四十一

不當ニ法則ヲ適用シタルモノナリト云ヒ同第二論旨ハ原裁判所ハ被上告人ハ本件地所ノ直接ノ權利移付者ニアラサルヲ以テ被上告人ニ對シ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得スト判決セラレタレトモ本件地所タル拂下入折橋政嘉外一名カ未ダ登記ヲ經サリシ際同人等ト被上告人及上告人ト一同合意ノ上賣買ヲ爲シ上告人ノ所有ト爲シタルモノナルヲ以テ原裁判所ノ登記法ノ解釋ハ其適用ヲ誤リタルモノナリト云ヒ同第三論旨ハ折橋政嘉外一名ハ第一審ニ於テ本件ニ參加シ本件ノ對手ニ付テハ同人等ハ勿論被上告人モ嘗テ異議ヲ唱ヘス同意ヲ表シタルモノニシテ被上告人ハ原裁判所ニ於テモ毫モ之ヲ爭サリシナリ登記法ハ強行法ニアラサレハ故ラニ當事者ノ意思ノ自由ヲ拘束ス可キモノニアラス然ルニ原裁判所ハ恰モ之ヲ承諾ナキ場合ト同一視シタルハ法律ヲ誤リ且當事者間ニ爭ナキ點ニ付テ判決ヲ與ヘタル不法アリト云フニ在リ

依テ按スルニ登記法ハ強行法ニアラス故ニ登記ヲ爲スト爲サイルハ各人ノ自由ニ屬スルコト勿論ナリト雖モ然レトモ登記ヲ請求スル者ハ登記法ハ命スル規定ヲ遵守セサル可ラサル義務アルコト當然ナレハ苟クモ其請求ニシテ法規ニ反スルモノアリトセンカ裁判所ハ訴訟當事者ハ合意ノ有無ニ關セズ又其根本タル取引カ登記法發布以前ニ係ルニモセヨ既ニ其當事者ニ於テ登記ハ必要ヲ認め之ヲ請求スル上ハ其請求ハ當否ニ付キ判斷セサル可ラス而シテ地所ノ買得者カ其地所ニ付キ登記ヲ請求スルトキハ所有權者ト直接ハ權利移付者ト間ニ爲スヘキモノナルコトハ登記法第八條及ヒ登記法取扱規則第六條ニ依ルモ明カナルハミナラス地所ノ買得者ハ其地所ニ關スル權義ハ承繼人ナリトノ理由ヲ以テ賣主ニ代リ登記ノ請求ヲ爲シ得ルモノ

判旨第一、二、三點

トセンカ權利移轉ノ證明ハ紛雜其序ヲ失スルニ至リ登記法ハ精神ニ反スルコト亦明瞭ナルニ依リ直接ハ權利移付者ヲ措キ先キハ權利移付者即チ地所賣人ニ係リ登記ヲ請求スルカ如キハ法規ハ許サイル處ナリトス今原判決文ハ指示スル本件ノ事實ニ依レハ上告人ハ本訴ノ物件ヲ直接ニ被上告人ヨリ拂下受タルモノニアラスシテ被上告人ハ折橋政嘉外一人ニ之ヲ拂下ケ折橋等カ其代金ヲ完納シ所有者トナリタル後上告人カ同人等ヨリ其權利ハ移付ヲ受タルモノナレハ被上告人ハ上告人ニ對スル直接ハ權利移付者ニアラサルコト毫モ疑ヲ存セス左スレハ被上告人ハ本訴物件ニ付キ上告人ニ對シ登記ヲ爲スハ義務ナキニ依リ原裁判所カ上告人ノ請求ハ法規ハ許容セサルモノトシテ之ヲ排斥シタルハ相當ニシテ一モ上告所論ハ如キ憲法ナシ同第四論旨ハ相手方ノ當否ニ付テハ第一審以來毫モ被上告人ノ爭ハサリシ所ナリ若シ被上告人ニシテ之ヲ爭ハント欲セハ宜シク妨訴ノ抗辯トシテ本案ノ口頭辯論前之ヲ提出セサルヘカラス凡ソ被告ハ答辯ノ義務ナシトノ抗辯ハ所謂相對的拒絕ノ答辯ニシテ即チ民事訴訟法第二百六條第七ノ延期ノ抗辯ニ屬スルモノナルコト明白ナリ然ルニ原院ハ全然被上告人ノ延期ノ答辯的理由ヲ採用シ本案ニ付キ被上告人カ口頭辯論ヲ爲シタル後ニ於テ之ヲ容レタルハ民事訴訟法ニ反スル不法ノ判決ナリト云フニアルモ○原記録ニ徴スルニ被上告人ハ原裁判所ニ於テ上告人云フ如キ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタル事跡ハ一モ視ルヘキモノナシ故ニ本論旨ハ其理由ナシ

上文辯明スル如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキニ依リ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ

○地所賣買約定履行請求ノ件

明治二十九年第三百九十二號
明治三十年六月十八日第二民事部判決

○判決要旨

一 裁判所ニ申請スル和解ハ必スシモ當事者雙方ノ讓歩示談ヲ目的トスルヲ要件ト爲スヘキ限リニアラス故ニ其申請ノ催告ノ効アリヤ否ヲ認ムルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス(判旨第一點)

一 原告カ一定ノ申立トシテ二者擇一ノ權ヲ相手方ニ與ヘ其一ヲ履行スヘキコトヲ請求スルハ違法ニアラス(判旨第二點)(第二輯第十卷所載明治二十九年第三百二十號判決參看)

第一審 千葉地方裁判所八日市場支部 第二審 東京控訴院

上告人 菅井庄兵衛 訴訟代理人 小島重太郎

被上告人 衣嶋米次郎

右當事者間ノ地所賣買約定履行請求事件ニ付キ東京控訴院カ明治二十九年六月二日言渡シタ

ル判決ニ對シテ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ原判決ハ和解申請及ヒ契約期限ノ性質ヲ誤認シ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリ本件記録ニ依ルニ甲第一號證賣渡期限ハ二十七年十一月二十日ニシテ被上告人ハ同日和解申請ヲ爲シ其和解ハ二十日不調トナリ十二月四日日本訴ヲ提起シタル次第ナリ故ニ上告人ハ原院ニ於テ第一和解ノ申請ハ其性質トシテ契約履行ノ請求ト認ムヘカラサルコト第二契約期限ハ時効ノ如ク中斷停止等アル理ナキコトヲ論シ被上告人ハ己ニ其契約履行請求權ヲ失シタル旨抗辯セシニ原院ハ此抗辯ニ對シ己ニ其和解申立カ期限ヲ懈怠セサリシトキハ控訴人ハ義務履行ノ遲滯ニ附セラレタルモノナレハ其和解不調ノ後ニ在リテハ縱令數日若クハ數月ヲ經過シテ起訴スルモ其時効ニ係ラサルヨリハ控訴人ハ敢テ請求權ヲ喪失スルコトナシト判斷セラレタリ是レ和解申請ノ性質及ヒ契約期限ノ性質ヲ誤解スルノ甚シキモノナリ抑モ和解ノ申請ハ單ニ或ル事件ニ付キ双方ノ讓歩示談ノ目的トセルモノニシテ相手方ニ對シ義務履行ノ催告ト看做スヘキモノニアラス左レハ之ヲ以テ附遲滯ノ効アリト爲スノ法律アラハ格別法律上決シテ其當ヲ得タルモノニアラス又契約期限ハ法律ニ於テ恩惠上猶豫期限ヲ與フル場合ニアラサルヨリハ必ス嚴格ノ期限ニシテ若シ之ヲ怠ルトキハ其期限ノ到來ニ繋ル權利ノ得喪ヲ

裁判所ニ申請スル和解〇二者擇一ノ申立

生スルモノニシテ之ヲ以テ時効ト混同シ中斷停止等ヲ適用スヘキモノニアラス殊ニ若シ賣買又ハ賣戻契約等ノ場合ニ於テ其期限切迫セルニ臨ミ金圓ヲ提供スルヲ爲サス和解ノ申請ヲ爲シテ期限猶豫ノ利益ヲ受ケ更ニ數日又ハ數月ノ後ニ於テ起訴スルヲ得ハ最モ嚴格ヲ要スル契約ノ期限ハ全ク無益トナリ要約者ハ何時ニテモ其期ヲ延ハスヲ得ヘク遂ニ契約ノ法則ヲ破滅スルニ至ル而シテ被上告人ノ如キハ第一審五月三十日ノ調書中、和解ヲ願ヒテ不調ト爲リ夫レヨリ本案出訴スル迄如何爲シ居タリカトノ問ニ對シ、本訴ヲ爲スニハ金ナキ爲メ困ミ居タリト答ヘ和解ノ申請ハ義務履行ノ催告ニアラス只期限ノ利益ヲ保存セントスル一ノ狡猾手段ニ外ナラサルコト明カナリ果シテ然ラハ被上告人カ期限ノ當日和解ノ申請ヲ爲シタルハ期限ヲ猶豫セシムルノ理ナキノミナラス假リニ和解ノ申請中ハ効アリトスルモ其不調ト爲ルト直チニ起訴セサレハ契約期限ノ利益ヲ失ヒタルモノナリ然レハ被上告人ハ己ニ請求權ナキモノナルニ原院方控訴人ハ敢テ請求權ヲ喪失スルコトナシト判定シタルハ全ク法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト云フニ在リ

○依テ一件記録ヲ查閱シ之ヲ按スルニ抑本件ハ被上告人カ第一號ナル地所賣渡約定證ニ基キ其約定履行ヲ請求スルモノナルニ上告人ノ之ニ對スル抗辯ハ上告人ヨリ被上告人ニ交付セシ地所賣渡約定證ハ第一號證ト異ナリテ二ケ年ノ期限ナリシニ被上告人カ其期限ニ至リ約定ノ如ク履行セサルヲ以テ上告人ニ於テハ明治二十六年中其地所ヲ他人ニ賣却シタルモノナレハ上告人ハ最早約定ヲ履行スヘキ義務ナシ假リニ第一號證ハ真正ニ成立シタルモノトスルモ其期限ハ明治二十七年十一月廿日ニシテ被上告人ハ同日和

判旨第一點

解ヲ申請シ同月二十八日不調ニ歸シタリシニ被上告人ハ直チニ訴ヲ起サス翌月四日ニ至リ本訴ヲ提起セシモノナレハ被上告人ハ己ニ請求權ヲ喪失シタルモノナリト云フニ過キサリシコトハ原院ニ於ケル控訴院口頭辯論調書及ヒ原判決ニ引用シタル第一審判決ノ事實ノ摘示ニ徴シテ明カナリ然ラハ原院ニ於ケル本件ノ主タル争點ハ第一號證ノ眞否如何ト被上告人カ該證ノ約定期限ヲ懈怠セシモノナルヤ否ヤノ點ニ在テ存ス之ヲ以テ原院ハ證據調ノ結果ニ因リ第一ニ甲第一號證ハ真正ニ成立セシモノト認メ第二ニ該證ノ期限内ニ被上告人カ區裁判所ノ和解ノ申請ヲ爲シタルハ即チ約定ノ履行ヲ促シタルモノト換言スルハ催告スルノ意義ニ出テ期限ヲ懈怠セシモノニ非スト認メタル筋合ナルヲトハ原判決理由中ニ自ラ炳焉タリ而シテ裁判所ニ申請スル和解ノ如キハ敢テ當事者双方ハ讓歩、示談、目的トスルヲ要件トスヘキ限リニアラサルヲ以テ其和解申請ハ催告ノ効アリヤ否ヤハ原審官ハ職權内ナル事實ハ認定ニ屬スヘキモノナリ果シテ和解ノ申請ニシテ約定ノ履行ヲ促シタル意義ニ出テ期限ヲ懈怠セシモノニ非サル限リハ時効ニ係ルマテハ何時ニテモ之カ請求ヲ爲シ得ヘキモノト云ハサルヲ得ス然ラハ原判決ハ相當ニシテ上告人所論ノ如キ不法ノ點ナシ

其第二點ハ原判決ハ訴訟手續ヲ誤リ民事訴訟法第四百三十五條ニ違背シタル不法アリ被上告人ハ「最初云々ノ地所ヲ云々ノ代金ヲ受取リテ賣渡スヘシ若シ賣渡シ能ハサルトキハ損害云々ヲ賠償スヘキ旨」一定ノ申立ヲ爲シ其地所カ既ニ第三者ニ賣渡サレ居ルカ爲メ單ニ損害金ヲ得レハ可ナルモノト如ク申立ヲ爲シタル事實ハ原判決ニ於テ明カニ認メラレタル所ナリ原告カ

判決ニ至ル迄ハ其訴ノ原因ヲ變更セサル限リハ申立ヲ増減シ又ハ變更ヲ得ルコトハ民事訴訟法第九十六條ニ明文アルヲ以テ敢テ不法ニアラスト雖モ其申立ノ増減變更ハ同法第二百一十二條ニ所謂判決ヲ受ク可キ事項ニシテ必ス書面ヲ以テセサル可カラズ而シテ被上告人ハ第一審ニ於テハ曾テ之カ書面ヲ呈出シ居ラサルコトハ一件記録ニ徴シテ明白ナリ果シテ然ラハ第一審判決ハ明カニ無効ノ制裁アル訴訟手續ニ違背セルモノニシテ原院ハ宜シク其判決ヲ廢棄シ而シテ控訴ニ至リテモ別ニ請求シ變更又ハ減縮ノ書面アラサルヲ以テ原院ハ民事訴訟法第四百二十三條ニ基キ第一審裁判所ニ差戻スハ格別若シ然ラサレハ訴狀記載ノ通地所ヲ賣渡スヘク若シ能ハサレハ損害金ヲ賠償スヘシトノ判決ヲ與ヘサル可カラズ然ルニ原院ハ事茲ニ出テス敢テ申立ノ變更若クハ減縮ト認ムヘキモノニアラスト說明シ「違法ノ手續ト云フ可カラスト」判決シタルモ此レ變更又ハ減縮ニ非ラストノ事ハ毫モ理由ノ見ルヘキナク被上告代理人ハ原院ニ於テ事實ノ陳述中本件ハ第一審ニ於テ地所賣買ノ約定履行ノ請求ニ損害賠償ノ請求ヲ附帶シテ請求セシカ其請求ヲ減縮シテ損害賠償トシテ請求スルコトニナリタリ云々又判事ノ間ニ對シ第一審ニ於テ然ラハ約定履行ノ請求ハ止ムルヲ答然リト申立居ルヲ援用シ此申立ニテ約定請求消滅セリト說明セルヲ以テ請求ノ減縮ナルコト多言ヲ俟タサルナリ故ニ原判決ハ訴訟手續ニ違背シタル不法アルモノト云フニ在リ〇依テ按スルニ凡ソ原告タル者カ起訴スルニ方カ其一定ノ申立トシテ二者擇一ハ權ヲ相手方ニ與ヘ以テ其一ヲ履行スヘキコトヲ請求スルハ法律ハ禁セサル所ニシテ固ヨリ爲シ得ヘキ事項ナリ本訴ノ第一審ニ於ケル被上告人ノ

判旨第二點

申立即チ是ナリ然ルニ上告人ハ第一審ニ於テ之ニ對シ抗辯シテ曰ク茲ニ被上告人ニ地所ヲ賣渡スヘキ約定ヲ爲シタルコトアルモ被上告人カ違約ノ爲メ之ヲ解除シ其地所ハ己ニ他人ニ賣却セリト主張シタルヨリ被上告人ハ上告人ニ與ヘタル二者擇一ノ權ヲ制限シ損害賠償ノ一ニ歸セシメタルニ過キサルトハ記録ニ徴シテ明カナリ然ラハ斯ル制限ハ敢テ民事訴訟法第二百二十二條ノ規定ニ依リ書面ニ基キ之ヲ爲サルヲ得サルノ限リニアラス故ニ原判決ノ理由中ニ「變更若クハ減縮ト認ムヘキ者ニ非ス從テ云々敢テ違法ノ手續ト云フ可ラスト」說明シタルハ相當ニシテ原判決ハ上告論旨ノ如ク民事訴訟法ニ違背シタルモノニ非ス其第三點ハ原裁判ハ主要ノ事實ニ對シ判斷ヲ遺脱シ且合意ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリ第一被上告人カ本訴請求ノ基本トスル所ハ甲第一號證ノ契約ナリ該證ニハ「明治二十七年十一月二十日ナ期シ代金三百圓持參ノ上ハ速ニ地所賣渡シ可申候若シ其期日ニ至リ云々」トアリテ該契約ハ被上告人カ一定ノ期限内ニ一定ノ代金ヲ提供シテ地所買受ノ申込ヲナストキハ上告人ハ之ヲ賣渡スヘシトノ賣買ノ片務ナリトス故ニ賣買ノ成立ハ被上告人ノ任意ノ未必條件ニ係ルモノニシテ被上告人カ期限内ニ買受ノ申込ヲ爲サルトキハ賣買ハ成立セサルモノニシテ上告人ハ何等ノ義務ヲモ負ハサルナリ又被上告人カ期限内ニ買受ノ申込ヲ爲ストキハ賣買契約ハ成立シ上告人カ賣渡スヘキ義務ハ確定スルモノトス而シテ本訴被上告人ノ主張ハ甲第一號證ノ約旨ニ依リ其期限内ニ買受ノ申込ヲ爲シ其條件ハ到來シタルモ上告人ハ賣買ノ實行ヲ爲サス依テ本訴ニ於テ其賣買ノ實行ヲ要求シ若クハ損害ノ賠償ヲ請求スルモノナ

リト云フニ在リ而シテ上告人ハ本訴請求ノ原因ナキモノナリト抗辯シタリ故ニ原院ニ於テ甲第一號證ヲ基本トシテ被上告人ニ本訴請求權アリト判斷セシムルニハ其原因タル事實即チ甲第一號契約ノ成立及ヒ其條件ノ到來ノ事實ヲ判示セサルヘカラサルニ原院カ條件ノ到來ニ關スル事實ヲ判示セザリシハ主要ノ事實ヲ遺脱シタル不法アルモノナリ第二被上告人ハ甲第一號證買受申込ニ關スル期限ノ末日ニ甲第五號證ノ和解申請ヲ佐原區裁判所ニ差出シタリトノ事實ヲ提出シ原院ハ該事實ヲ判示シタリ然レトモ該和解申請ノ旨意ハ甲第一號證ノ買受申込ノ條件ハ到來シ上告人ハ買實行スヘキ義務發生シタルモ之ヲ履行セサルヲ以テ之ヲ履行セシメントノ要求ヲ爲サンカ爲メニ提出シタルモノナレハ和解申請其者ハ甲第一號證ノ條件タル買受申込其者ニ非サルコト明カナリ買受申込ハ條件ナルカ故ニ一度爲シタル以上ハ之ヲ隨意ニ取消ヲ得ヘキニ非サルモ和解申請ハ相手方ニ送達前ニ隨意ニ取消スルヲ得ヘシ之レ條件ノ到來ト同一視スヘキモノニ非サルコト明カナリ故ニ被上告人モ該和解申請ノ事實ヲ以テ買受申込條件ノ到來セシ事實其者トシテ主張シタルニ非ス假リニ之ヲ主張シタルモノトスルモ其主張ハ法理ニ反スルモノナリ甲第一號證ノ約旨ニ依レハ第一ノ條件ハ買受ノ申込ハ一定ノ期限内ナラサルヘカラス此期限内ト云フハ其申込カ期限内ニ上告人ニ到達スルヲ要スルナリ然レニ甲第五號證和解申請ハ期限内ニ申請シタルモ其申請アリシコトノ通知カ上告人ニ到達シタルハ期限經過後ニ係ルヲ以テ此條件ニ違背スルモノナリ其第二ノ條件ハ買受申込ヲ受クルモノハ上告人ニ對シテ爲シタルモノナラサルヘカラス然レニ甲第五號證和解申請ハ第三者タル

裁判所ニ對シテ爲シタルモノナレハ此條件ニモ違背スルモノナリ其第三ノ條件ハ代金ヲ提供シテ爲サトルヘカラサルニ甲第五號證和解ノ申請ハ代金ヲ提供シタルモノニアラス此ノ如ク甲第五號證和解申請ハ甲第一號證買受申込條件ノ到來其者ト同一視スルヲ得ヘキモノニアラサル以上ハ原院カ被上告人其期限内ニ甲第五號證ノ和解申請ヲ差出シタリトスル事實ヲ判示シタレハトテ該事實ヲ以テ甲第一號證買受申込ニ關スル條件ノ到來セシ事實ヲ判示シタルモノト云フヲ得ヘカラス若シ原院ニ於テハ甲第五號證ノ和解申請其者ヲ以テ甲第一號證ノ買受申込ノ條件到來セシ事實ナリト判示シタルモノトセハ原判決ハ合意ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ第三若シ夫レ原判決ニ其和解申立カ期限ヲ懈怠セザリシトキハ控訴人ハ義務履行ノ遲滞ニ附セラレタルモノナレハ云々トアル意義ハ甲第五號證和解申請ハ甲第一號證ノ買受申込ノ期限ノ利益ヲ被上告人ノ爲メニ伸長スルノ効力ヲ生シタルモノナリ故ニ期限ニ買受ノ申込ヲ爲サトルモ被上告人ハ依然トシテ何時ニテモ買受申込ヲ爲スノ權利アルヘキモノナリ而シテ既ニ此ノ現ニ被上告人ニ買受申込ノ權利アル理由ヲ説示スル以上ハ甲第一號證ノ買受申込ニ關スル條件到來セシヤ否ヤノ事實ハ判示スルヲ要セストノ意義ナルハ果シテ然リトセハ是又合意ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シ且更ニ主要ノ事實ニ對シテ判斷ヲ遺脱シタル不法アルモノナリ甲第一號證ノ期限ハ買受申込ニ關スル條件ナレハ其期限内ニ買受申込ヲ爲サトルハ條件ハ到來セサルモノナレハ期限經過後ニ在テハ買受申込ヲ爲スヲ得サルモノナリトノ旨意ハ上告人カ極力主張スル所ナレハ該期限ハ當事者ニ於テ嚴守セララルヘキ條件ナルヤ

否ヤハ原院ニ於テ之ヲ判示セサルヘカラス果シテ條件ナリトセハ當事者ノ一方ノ任意ニテ伸長スルヲ得ヘキモノトセハ上告人ノ義務ハ永久不確定トナルヘキモノニシテ上告人ニ不利益ヲ生スルモノナルヘケレハ決シテ被上告人カ和解申請ヲナシテ其甲第一號證ノ期限ヲ任意ニ伸長スルヲ得ヘキ理アルヘカラス甲第一號證ノ條件到來シ上告人ノ賣買實行ノ義務確定シタル上ハ被上告人ハ其履行ヲ要求スルノ權利ハ永久存在スヘキモ此權利ト任意ノ未必條件タル買受申込ノ權利トハ混同スルヲ得ヘキモノニ非ス買受申込ノ權利ハ期限内ニ之ヲ行ハサレハ消滅シ決シテ永久存在スヘキモノニアラス然ルニ原院ハ甲第五號證和解申請ノ事實ニ依リ被上告人カ有セシ買受申請ノ權利ハ永久ニ存在スルモノト判示スルニ至リテハ不法モ亦甚シト云ハサルヘカラス要スルニ原判決ハ判旨不明ニシテ數箇ノ意義ニ解釋セラルトモ主要ノ判斷ヲ遺脱シ若クハ合意ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルヲ免レサルモノナリト云フニ在リ

然ルニ本論旨ノ如キ事項ハ原院ニ於テ上告人カ主張シタル事實ノ見ルヘキモノナシ加之元來甲第一號證ナル約定書ノ解釋及ヒ和解申請ノ意思ヲ判斷スルカ如キハ總テ原承審官ノ職權内ナル證書ノ解釋及ヒ事實ノ認定ニ屬シテ原院ハ甲第一號證ヲ上告人所論ノ如キ片務ノ豫約ト解釋セス隨テ該證約定期限内ニ被上告人カ和解申請ヲ爲シタルハ期限ヲ懈怠セスシテ其履行ヲ促カシタルモノニシテ上告人ハ之カ履行ヲ爲スヘキ義務アリト認メタル筋合ナルコトハ第一點ノ論旨ニ對スル說明ニ依リ之ヲ會得スヘシ然ラハ斯ル地所賣買約定ヲ爲シ之カ履行ヲ求ムル場合

ニ於テ買得者タル者カ其代金ヲ供託スルヲ要スルカ如キ現行法ナキヲ以テ原判決ニ於ケル判定ハ之ヲ不法ト云フヲ得ス要スルニ原判決ハ上告人論旨ノ如キ法律ニ違背シテ事實ヲ遺脱シ又ハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ點ナシ

上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○後見罷黜親族會員除斥請求ノ件

明治三十年第六百三十八號
明治三十年六月十九日第一民事部判決

○判決要旨

- 一 親族會ハ成法上其組織ヲ認メタルモノナキモ現ニ其會員中ニ非行者アリテ之ヲ除斥セサル可ラサル場合ニ於テハ裁判所ニ出訴シテ其保護ヲ求ムルヲ得ヘキモノトス
- 一 後見人ノ罷黜並ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及親族ヨリ提起シタ

後見人罷黜親族會員除斥ノ訴〇財産權上ニ非ル訴訟〇辯論調書ノ作成

後見人罷黜親族會員除斥ノ訴○財産權上ニ非ル訴訟○辯論調書ノ作成

ルハ訴訟手續上相當ナリ(以上判旨第一、二點)

一 財産權上ニ非ル訴訟ニ於テ其請求二個以上ニ涉ルトキハ法律上合算スヘキ價格存セサルニ依リ單ニ其訴訟物ノ價格ヲ百圓ト看做シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用スレハ足レリ(判旨第五點)

一 裁判所書記カ各期日ニ辯論調書ヲ作成セサルモ其判決ニ影響ヲ及ホササル限リハ上告ノ理由トナラス(判旨第七點)(第三輯第四卷所載明治二十九

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院

上告人 内田儀三郎 訴訟代理人 阪本省三

被告上告人 内田キミ

右當事者間ノ後見罷黜親族會員除斥請求事件ニ付明治三十年一月二十七日長崎控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ後見人ハ行政上現ニ公認シタル未成年者ノ代表人ナルカ故ニ之ニ關スル成法ナキ今日ト雖トモ其廢立ヲ爭フタル結果カ當否ノ判決ヲ受得ヘキハ當然ノコトナルモ抑モ親

判旨第一、二點

族會ナルモノ、組織又ハ効用ノ那邊ニ在ルヤハ現行法律上未タ認識セサルカ故ニ私權若リハ公權トシテ司法裁判權ノ保護ヲ受クヘキモノニ非サルヤ明カナル次第ニシテ假ニ原院ニ於テ認メラレタル如ク買戻シ條件付ヲ以テ上告人ノ實子タル幼者ノ財産ヲ一時賣却シタル其行為ヲシテ果シテ非行ナリトスルモ如斯ハ成典ナキ今日元來人爲的ニ奪フヲ得サル天賦ノ分限ニ影響ナク原院カ上告人ヲ親族會員ヨリ除斥スト判決シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリト云フニ在リ上告第二點ハ假リニ私權ニ屬セサルコトヲモ尙司法裁判權ノ保護ヲ受ケ得ルモノトスルモ之カ訴訟ヲ爲スノ權利ハ其所謂親族會員ヨリ成立チタル親族會ノ團體ニ屬スヘキモノニシテ一ニ親族會員之ヲ代表スヘキ者ニ非ルハ自明ノ理ナレハ被幼者保護ノ爲メ幼者親族ノ一人ヨリ後見人罷黜ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノト大ニ其原由ヲ異ニセリ何トナレハ幼者自ラハ所謂無能力者ナルカ故ニ親族代リテ之カ權能ヲ施シ得ヘキモ親族會ニ至リテハ親族會自ラ其權能ヲ施行シ得ヘキカ故ニ苟モ代理法ニ據ラサル以上ハ其會員ノ一人ニシテ據ニ其會ヲ代表スルヲ得サレハナリ今本件ハ内田家戸主ノ最近親タル母ヲ差措キタル而已ナラス其次位ニ在ル被上告人一人ニシテ其被上告人一人ニ屬セサル内田家親族會ヲ代表シタル僭越ノ請求ナルニ之レヲ容認シ上告人ヲ親族會員ヨリ除斥シタルハ民事訴訟法第四百三十六條第五號ニ當ル違法ヲ免カレスト云フニ在レトモ○成法上親族會ナルモハハ組織等ヲ認メタルモハアヲナルモ己ニ一家ニ親族會ハ設ケアリテ而シテ其會員中ニ非行アリテ之レヲ除斥セサルハカヲサル場合ハ裁判所ハ裁判ヲ求ムルハ外ナシ親族會ニ付テハ成法ナキハ故ヲ以テ裁判所

後見人罷黜親族會員除斥ノ訴○財産權上ニ非ル訴訟○辯論調書ノ作成

ハ保護ヲ受クヘキモハニアラスト言フヲ得ヌ又本件後見罷黜并ニ親族會員除斥ハ訴ハ内田家
 ハ家長タル祖母即チ後見人ハ養母ヨリ提起シ内田家ハ親族等原告ハ從參加トシテ出訴シタル
 モハニ係ル乃チ此等ハモハハ後見人ハ罷黜ヲ訴求シ得ヘキハ勿論其財產ハ保護ハ爲メ其家ニ
 對スル親族會員ハ除斥ヲモ訴求シ得ヘクシテ論告ハ如ク親族會員ハ除斥ハ親族會員ハ代表者ハ
 外出訴スルヲ得サルモハニアラス本件ヲ以テ民事訴訟法第四百三十六條法律ノ規定ニ依リ代
 理セラレザリシモノナリトノ適用ヲ試ミントスルハ其當ヲ得タルモノニアラス
 上告第三點ハ原院ニ於テ被告上告人請求ノ全部ヲ容認シタル判決理由ヲ通覽スルニ事多岐ニ涉
 ルト雖トモ之ヲ要スルニ上告人カ幼者ノ不動産ヲ賣却シタルト上告人カ妻ト同棲ニ堪ヘサル
 ヨリ幼者ト共ニ別居シタルノ二行爲ニ出テサルカ如シ然リ而シテ上告人ハ右等ノ事實止ムヲ
 得サルニ出テタル權宜ノ處置ニシテ敢テ一己ノ利益ヲ圖リタルニ非サル旨ヲ主張シ之ヲ證ス
 ル爲メ人證ノ申出ヲ爲シタル而已ナラス妻ミナカ上告人ニ對スル謀殺未遂被告事件ノ刑事訴
 訟記録ノ取寄セテ申請シタルニ原院ハ二ツナカラ之ヲ排斥シテ上告人主張ノ事實ヲ容認セザ
 リシハ探證ノ法則ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ上告第四點ハ原院ハ上告人ノ主
 張ニ係ル上告人ノ妻ミナカ親族内田權八ノ宅ニ於テ上告人ニ對シ狂暴ナル行爲アリタルト夫
 タル上告人ニ對スル謀殺未遂被告事件等ノコトアリテ殆ント常人視スル能ハサルノ事實ハ被
 上告人ニ於テモ之ヲ爭ハサル次第ナルニ斯ル殘忍不貞ナル行爲ト上告人カ右ノ境界ニ處シタ
 ル戸主共々別居ノ止ム可ラサル正當防衛ノ行爲トハ當否既ニ辨セスシテ明カナルニ原院ハ却

テ彼レヲ待ツ甚々寛ニ失シタルニ似ス此レヲ責ムルニ苛酷ヲ極メ彼此ノ當否ヲ顛倒シテ上告
 人ノ行爲ハ頗ル穩當ナ欠クモノトシ以テ被告上告人ノ請求ヲ容ル、唯一ノ理由トセシ如キ又家
 屋新築及ヒ商業開始ノ止ム可カラザリシハ右ノ事情ニ起因シタルノミナラス原審ニ於テモ認
 メラレタル如ク内田家從來ノ地所アルモ以テ一家ノ活計ヲ支フルニ足ラス年々若干ノ不足ヲ
 告ケツ、アレハ今ニシテ農業ヲ改メ商業ニ就クニ非ラサレハ年々不足ヲ告ケタルノ結果終ニ
 内田家ハ倒産ノ不孝ニ遭遇スヘキヤ事理甚々明カナルカ故ニ假令全部ノ親族同意セサルモ上
 告人ハ親權及ヒ後見人タル職責上不可奪天賦ノ親愛上ヨリ上告人ノ實子タル幼戸主前途ノ爲
 メ計畫シタル次第ナルニ原審ニ於テハ却テ之ヲシテ内田家又ハ幼者ニ關セシ非行ナリト目シ
 以テ被告上告人ノ請求ヲ容ル、唯一ノ理由トセラレシハ條理ト人情トニ反セシ判決ニシテ破毀
 ノ理由アリト云フニ在レトモ○個ハ證據ノ採否及ヒ事實ノ認定ニ關スル批難ニ過キスシテ共
 ニ適法上告ノ理由ナキモノトス

上告第五點ハ民事訴訟用印紙法第三條ノ一項ニ財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟
 物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シトアリテ同法第二條ニ財產權上ノ請求ニ係ル第一審
 ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ其區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ訴訟物ノ價額百圓マテ三圓ト
 アリ而シテ同法第十一條ニ此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セザル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノト
 ストアリ尙民事訴訟法ヲ編閱スルニ其第四條第一項ニ一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲スルハ前
 條第二項ニ掲クルモノヲ除ク外其額ヲ合算ストアリ又第九十條ニ訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所

判旨第五點

ニ差出シテ之ヲ爲ス此訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ストアリ今本件ノ訴狀ヲ査閱スルニ地方裁判所ニ向ツテ後見人罷黜親族會員除斥ノ請求トヲ併合シテ訴ヘタルモノナルカ故ニ前掲ノ法律ニ從ヒ訴狀ニハ金六圓ノ印紙ヲ貼用スルニ非サレハ民事訴訟法ノ書類タル効力ナキモノナリ果シテ然ラン乎本件ハ既ニ訴狀ナク否訴ヘナキモノナルニ第一審ニ於テ上告人ニ敗訴ノ判決ヲ爲シタルト第二審ニ於テ不服ノ申立アルニ拘ハラズ之ヲ容認シテ控訴ヲ棄却シタルハ一審二審共ニ前掲ノ法律ニ違背シタル不法アリト云フニ在レトモ○民事訴訟法印紙法第二條及ヒ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ハ財產權上ノ請求ニ關スル訴訟ニ適用スヘキモノトス而シテ民事訴訟法印紙法第三條第一項ニハ財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シトアリ抑モ財產權上ノ請求ニ非サル訴訟例ハ本件ノ如キ人ノ資格ニ關スル訴訟ニ付テハ其訴訟物タル元來財產ハ如何價額ヲ付スヘキモノニ非サルナリ然レハコソ財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ法律ハ止ムコトヲ得ス其訴訟物タル權利ノ輕重如何ニ拘ハラズ常ニ之ヲ百圓ト看做シ印紙ヲ貼用スヘキモノトセリ夫レ然リ訴訟物ニ價格ノ存セサル場合ニ於テハ假令ヒ請求ハ二箇以上ニ渉ルトキト雖トモ合算スヘキ價格ノ存スヘキ答ナキナリ同條第二項ニ財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財產權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ハ訴訟物ノ價格ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシトアルモ亦前掲ノ理由ニ基キタルコトヲ知ルニ足ルハシ何トカレハ若シ財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テ其各請求ノ價額ヲ百圓ト看做シ印紙ヲ貼用

ハ其理由ナシ
 ハハキモハトモハ前掲第三條第二項ノ如キ規定ノ存スヘキ謂レナケレハナリ故ニ本上告論旨

上告第六點ハ原院ニ於テ甲第二號證ノ記事ニ基キ如何ニモ上告人ノ素行修ラサリシモノトノ資料ヲ築キ以テ地所賣却等ノ行爲ヲシテ内田家ノ必要ヲ計リタルモノニ非ストノ認定ヲ下サレタレトモ右甲第三號證ハ金高記載ナキ約定證文ナルヲ以テ壹錢ノ印紙ヲ貼用ス可キモノナレニ之カ貼用ナキコトハ一件書類中ノ該證原本ニ印紙ノ寫影ナキニ依ルモ已ニ明カナレハ該證ハ證券印稅規則違反ノモノナルカ故ニ民事裁判ノ證據トシテ採用スルヲ許サルニ又被控訴人カ控訴人ヲシテ義雄ノ後見人タラシメタルハ控訴人ノ實兄吉田常熊等ノ切ナル恫喝禁止難ク枉ケテ許容シタリシモノナリトノ事實上ノ陳述ニ向ツテ控訴人ハ之ヲ争ヒ且甲第三號證ノ書證ヲ認メスト雖トモ云々ト列示セラレタルハ證券印稅規則第四條ニ背反セシ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原裁判ハ上告人ノ摘示スル其直下ニ於テ甲第三號ノ書證ヲ認メスト雖モ皆必シモ判定セサル可ラサルノ論點ナリト認メサル故ニ此ニ說明セス結局本案ハ云々幼者義雄ノ所有ニ係ル田畑四十四筆ノ代金千貳百圓ニテ控訴人カ賣却シタルハ後見人タル職權トシテ當然爲シ得可キ事ナルヤ否之ヲ判定スルニ在リ云々ト說明アリテ即チ甲第三號證ハ判決ノ外ニ置キタルモノナリ左レハ原裁判ノ採用セサル甲第三號證ニ對シ證券印紙ノ貼用ナキヲ論難スルノ最モ其當チ失スルモノトス

上告第七點ハ原院ニ於テ口頭辯論調書ヲ明治三十年一月二十日ノ辯論期日ニ作製セスシテ判

決言渡ノ期日ニ至リ而モ其判決言渡ノ後ニ作リタルノミナラス之ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閱覽ノ爲メ之ヲ示シタル事跡ナキハ調書其物ノ證スル處ナレハ原判決ハ斯ル無効ノ調書ニ依ル違法ヲ免レサルモノト信ス今民事訴訟法第百二十九條ノ命スル處ヲ見レハ口頭辯論ニ付テハ調書ヲ作ル可シトアリ又第百三十條ニ依レハ辯論ノ進行ニ付テ其要領ノミヲ調書ニ記載ス可シトアリ而シテ其作製ノ時期ニ付テハ一見明カニ字面ニ顯ハレタルモノナキニ似タレトモ辯論ノ進行ニ付云々關係人ニ讀聞カセ云々ト明示アル上ハ辯論ノ都度其訟廷ニ於テ調製ス可キモノナルコト論ヲ俟タサル可シ何トナレハ數日前ノ辯論ニ上リタル事項ヲ洩レナク記憶ニ印スル能ハサルノミナラス試ミニ前同ノ辯論ニ立會ヒタル裁判所書記ニシテ次回ノ辯論期日前ニ免職其他ノ事故アリトセンカ遂ニ調書ナキニ至ル不法ヲ免カレスト云フニ在レトモ○裁判所書記ニ於テ其期日毎ニ調書ヲ作ラサルモ其事ハ判決ニ對シ爲メニ影響ヲ及ボサハハ限ハ唯期日ニ調書ヲ作ラサリシトハ事由ヲ以テ上告ノ理由ト爲シ以テ判決ヲ破毀スヘキ理由ト爲スチ得ス

以上ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク本上告ヲ棄却スルモノナリ

判旨第七點

○永小作權確認ノ件 明治三十年第六百七十八號
明治三十年六月二十一日第二民事部判決

○判決要旨

一 地所ノ永小作權ハ小作人カ其地所ヲ占有シ之ヲ小作セル事實アルトキニ限り地所所有權ノ移轉ニ從ヒ永小作權ノ關係ヲ繼承スヘキコトハ我邦古來ノ慣習ナリ(判旨第二點)(第三輯第二卷所載明治二十年第九年第五百十六號判決參看)

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院
上告人 村上仙吉 訴訟代理人 中井金松
被上告人 藪内甚之助
外五名

右當事者間ノ永小作權確認事件ニ付大阪控訴院カ明治三十年三月十三日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決
理由
本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告論旨第一點ハ本件係爭地ハ上告人及岩岸元右衛門ノ共有物ニシテ上告人一己ノ所有ニアラス故ニ被上告人等モ之ヲ認メ第一二審共上告人及岩岸元右衛門ヲ共同被告トシテ訴訟ヲ提起シタル次第ナリ原院モ亦其控訴ヲ審理シシカラ共同被告ノ一人タル上告人ニ對シテハ判決

地所永小作權

ヲ與ヘタルモ岩岸元右衛門ニ對シテハ何等ノ判決ヲ與ヘス之レ訴ヲ受理シテ判決ヲ與ヘサル
 ノ不法アルノミナラス共同訴訟手續ニ違反シタル裁判ナリト云フニアルモ○原裁判所判決原
 本ニ被控訴人岩岸元右衛門ノ氏名ヲ誤脱シタルニ付明治三十年六月七日更ニ記入ノ上其正本
 ナ右同人ノ訴訟代理入タル横田九兵衛ニ送達シタルコト一件記録申載セテ明確ナレハ原判決
 ハ上告所論ノ如キ不法アルモノニアラサルヲ以テ此論述ハ上告理由トシテ採用スルニ足ラサ
 ルモノトス

同第二點ハ原判文理由ニ永小作權ハ法律ノ規定アルニ非レハ未タ以テ物權ト爲ス可ラスト雖
 モ其權利ノ設立セラレタルコトノ明確ニシテ且ツ現ニ小作シツ、アル事實ノ在ルアルニ於テ
 ハ其地所ヲ買得又ハ讓受ケタルモノハ實際之ヲ知ルト否トニ拘ハラズ其小作權ヲ繼承スヘキ
 ハ我國古來ノ慣習ナリトストアリ原院カ既ニ認メラル、如ク永小作權ハ物權ニアラストセハ
 本件ノ係争物件ヲ上告人カ買得ノ當時其永小作權ノ設定アルコトヲ知リタルノ事實ナキ限リ
 ハ上告人ニ於テ其永小作權ヲ確認スルノ責任ナキヤ明カナリ然ルニ原院ハ何レノ地方如何ナ
 ル場合ニ於テ右等慣習ハ行ハレツ、アルヤノ説明ヲモ與ヘス漫然古來ノ慣習ナリトノ理由ヲ
 附シ上告人ニ不利ナル判定ヲ與ヘタルハ理由不備ノ判決ニシテ所謂裁判ニ理由ヲ付セサル不
 法アル裁判ナリト云フニアルモ○地所ハ永小作權ハ小作人ニ於テ其小作地ヲ占有シ之ヲ小作
 シ居タル事實ハ存在スル限リハ一種ノ權利トシテ地所所有權ハ移轉ニ隨ヒ之ヲ繼承スヘキコ
 ト我邦古來ノ慣習トシテ認め來ルル所ナレハ原裁判所カ右慣習ヲ根據トシテ判決ヲ爲スニ當

判旨第二點

リ別ニ何地所如何ナル場合ニ行ハレタルヤヲ説明スルハ要ナキモハナリ左スレハ原裁判所ニ
 於テ前ニ掲ケル如キ理由ニヨリ上告人敗訴ノ旨渡ヲ爲タルハ相當ニシテ上告人ノ論スル如キ
 不法アルモノニアラス故ニ此上告論旨モ亦其理由ナシトス

同第三點ハ本件係争地ノ先所有者タリシ一人但尾善吉ハ第一審ニ於テ明治二十九年十二月七
 日證人トシテ喚問アリ其中立ニ據レハ證人ニ於テ乙訓郡井ノ内村字頭本三番地畑五段七畝十
 五歩ノ地所ヲ買得シタルトキ該地ニハ林久次郎高橋吉兵衛林清兵衛藏内甚之助春田長右衛
 門石田藤吉ノ六名カ永代小作權ヲ持テ居リシコトハ承知セサルヲ以テ該地ヲ賣却スルトキモ
 永小作權ノ事ハ知ラスシテ賣却シタリトアリテ即チ但尾善吉ハ本件地所ニ永小作權ノアル事
 ハ承知セストノ證言ナリ其他但尾善吉ハ永小作權ヲ認メタルノ證憑一モアル事ナシ又當事者
 間ニ於テ但尾善吉ハ永小作權アルコトヲ承認シ居レリトノ申立ヲ爲シタルモノナシ然ルニ原
 院カ恰モ但尾善吉カ永小作權ヲ認メテ買得シ之ヲ金五圓ノ差ヲ以テ上告人ニ賣却シタルモノ
 如ク不當ニ事實ヲ認定シ上告人ハ永小作權ノ存在ヲ承認セシモノト判決セラレタルハ不當
 ニ事實ヲ確定シタルノミナラス明カニ證據法ニ違背シタルノ不法アル裁判ナリト云フニアリ
 ○按スルニ係争地所ノ先所有者タル但尾善吉ニ於テ本訴地所ニ付永小作權ノ付着シアルトハ
 知ラスト云ヒタルニ拘ラス原裁判ニ於テ被控訴人ハ但尾善吉外一名カ該小作權ヲ承認シテ買
 受ケシ其代價ト僅ニ五圓ノ差アル價額ヲ以テ同人等ヨリ轉買セシモノナルカ故ニ云々ト説明
 シタルハ失當タルヲ免レスト雖モ其上文ニ本訴ノ地所タル元ト荒蕪地タリシヲ以テ控訴人等

ニ於テ之ヲ開墾シテ畑地トナシ爾來之ニ永小作權ヲ有シタルコトハ證人石田實ノ證言ニ依テ明カナルノミナラス控訴人等カ被控訴人ノ該地所ヲ買得スルノ當時依然小作シ居タルコトモ亦證人藤本ミ子但尾善吉ノ證言スル所云々ト説明シアリテ其認定ヲ動カスコト能ハサル以上ハ結局本案曲直ニ影響セサルヲ以テ原裁判破毀ノ材料タルヘキモノニアラス故ニ此上告論旨モ亦其理由ナシトス

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル所以ナリ

○預金取戻ノ件

明治三十年六月二十二日第一民事部判決

○判決要旨

一 店判ハ商業以外ノ權利關係ニ付キ之ヲ使用スヘキモノニアラサルモ商業ニ附隨スル事項ニ付キ義務ヲ負フ場合ニ之ヲ使用シタレハトテ通常一般ノ慣行ニ違背シタルモノト云フヲ得ス(判旨第一點)

第一審 長野地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 堀内九兵衛 訴訟代理人 兩角彦六

被上告人 川口養治 訴訟代理人 田澤鎮太郎

右當事者間ノ預金取戻事件ニ付明治二十九年十二月五日東京控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス

理由

上告論旨第一點ハ原判決ニ於テハ「元來此印判ハ俗間ノ所謂店判ニシテ書狀其他店頭用ニ押捺シ仍ホ或ハ支拂ヲ受ケタル金錢受領書等ニ之ヲ押捺ス可シト雖トモ店ノ主長カ債務ヲ負フ處ノ證書ニ之ヲ押捺シテ其認諾ヲ表證スルノ用ニ供スルカ如キハ殆ント通常一般ノ慣行ニ違フモノト云ハサルヲ得ス」ト斷定セラレタリト雖トモ原判決ハ何ニ基キテ甲一號證ノ印判ヲ以テ俗間ノ所謂店判ナルモノト判定セラレタルカ毫モ其理由ノ説示ナキハ理由不備ノ不法アルモノト云ハサルコトヲ得ス假リニ之ヲ俗間ノ店判ナルモノトスルモ店判ナルモノハ「支拂ヲ受ケタル金錢受領書等」ニモ押捺ス可キモノナルコトハ原判決ノ認ムル所ニ非スヤ既ニ金錢受領證ニハ押捺スルコトヲ認メナカラ何カ故ニ金錢預リ證ニハ該印ヲ押捺スルコトヲシトスルカ金錢拂渡ノ場合ニ於テハ該印判ハ商店ニ對スル證明方法トナルモ預ケ金ニ付テハ商店ニ對スル證據トナラストハ抑モ如何ナル理由アルカ債權免除ニハ該印判ヲ使用スルモ債務負擔ニハ之

ヲ使用スルコトナシトノ慣例ハ果シテ何レノ途ニ存スルカ上告人ノ未曾テ知ラサル所ナリ況
 シヤ被上告人ニ於テモ商店ヲ賃擔スル場合ニハ他ノ印判ヲ使用スルトノ事實ハ曾テ主張セル
 コトナク又證明シタルコトナキニ於テオヤ果シテ然ラハ原判決ハ此點ニ於テ不當ニ事實ヲ確
 定シ且ツ證明セラレサル不成立ノ慣行ヲ採用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○按スルニ
 原院カ甲第一號證ニ押捺シアル印影俗間ニ所謂店判ナリト認メタルハ此點ニ付キ當事者間ニ
 爭ナキカ故ナルコト判文ノ冒頭ニ於テ該印影ハ山加商店ノ使用スル印影ナルコト當事者間ニ
 爭ナシト判示スルニ因リ知了スルヲ得ヘケレハ此點ニ於テ理由チ欠ク不法ノ裁判ナリト云フ
 ナ得ス然レトモ店判ナルモノハ商業以外ハ權利關係ニ付キ使用スルコトナキモ商業ニ附隨ス
 ル事項ナルトキハ義務ヲ負フ場合ニ於テモ店判ヲ用ユルコトナシトスルヲ得ス而シテ取引所
 ニ就キ米穀ハ賣買ヲ爲サントスル者ヨリ其目的ハ爲メ仲買人カ金員ヲ預ルコトハ仲買商業ニ
 附隨スル事項ナレハ甲第一號證ハ如キ預リ證書ニ店判ヲ捺スルコトナシト一般ニ謂フコトヲ
 得ス然ルニ原院ハ本件上告人ノ主張スル如キ權利關係ニ付キ店判ヲ押捺シタル證書ヲ交付ス
 ルハ通常一般ノ慣行ニ違背ストノ理由ヲ以テ甲第一號證ヲ排斥シタルハ法則ヲ不當ニ適用シ
 タル不法ノ裁判ナリトス

同第三點ハ原判決ニハ「唯控訴人ノ居所チシテ遠隔ナラシメハ其取引ノ便宜上特ニ或ハ然ル可
 シト雖モ控訴人ハ即チ其町内ノ住ナレハ斯ノ如キ事實ヲ想像ス可ラストアリテ同町内ニ非サ
 ル遠隔者ニ在リテハ便宜上仲買商ニ豫メ金錢ヲ預ケ置クコトアル可シトハ原裁判所モ亦認ム

ル所ニシテ而シテ上告人ハ長野縣下水内郡飯山町居住ノ者ニシテ被上告人ノ仲買店ナル人加
 商店ハ同縣上水内郡長野町千歲町ニ設置セラレアルコトハ一件記録ノ上ニ於テモ明白ナル事
 實ニシテ上告人ノ住所ト人加商店ノ營業地トハ實ニ里程九里餘ヲ隔テツルモノナルニモ拘ハ
 ラス上告人チ以テ同町内ノ者ナリトシ從テ豫メ金錢ヲ預ケ置ク可キ答ナシト判定セラレタル
 ハ事實チ不當ニ認定シタル裁判ナリト云フニ在リ○按スルニ原判決ノ援用スル第一審判決ノ
 事實摘示中ニハ上告人カ明治二十七年八月一日長野町山加商店ニ係争金員ヲ預ケタリト陳述
 シタル旨記載アリテ被上告人ハ係争事實ノ生シタル當時上告人ノ住所ヨリ遠隔ナル長野町ニ
 居住シタルカ如クアルニモ拘ハラス前掲判文ノ如ク漫然上告人ノ居所ハ被上告人ノ居所ヨリ
 遠隔ナル地ニ在ラスシテ當事者雙方共同町内ノ住ナリト説明シ上告人ノ請求ヲ排斥スル理由
 ノ根據ト爲シタルハ裁判ニ理由チ付セサルト一般ナレハ此點ニ於テモ原判決ハ破毀ヲ免カレ
 サルモノトス

以上説明ノ如クナルチ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項及ヒ第四百四十八條第一項ニ從
 ヒ主文ノ如ク判決ス
 但シ右二ヶ點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上ハ上告論旨第二點ニ付キ説明ヲ爲スノ要ナキモノ
 トス

〇不當相續取消請求ノ件

明治三十年第六百三十九號
明治三十年六月二十二日第一民事部判決

〇判決要旨

一 單身戸主死亡シ家督相續人ナキ場合ニ於テハ其親族ノ協議ニ依リ之ヲ選定スルヲ以テ我邦ノ慣習トス

一 婚姻ニ因リ他家ニ入りタル者カ其後婚家ヨリ分レテ一家ノ戸主トナリ死亡シタルトキハ本家筋ノ親族及其實方親族ノ協議ニ依リ相續人ヲ選定スヘキモノトス(以上判旨第一點)

一 判決ハ口頭辯論終結ノ日ニ指定シタル期日ニ言渡サズ其後訟廷ヲ公開シテ指定シタル日ニ之ヲ言渡スモ不法ニアラス(判旨第二點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 菅沼タケ 外三名 訴訟代理人 平塚 有

被上告人 古阪越太郎 外四名

右當事者間ノ不當相續取消請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年三月五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由ノ第一ハ分家ノ戸主死亡シ相續人ノナキ場合ハ本家ノ戸主ハ分家ノ戸主撰定ニ關シ分家ノ先戸主ノ實家ニ優ル主宰權ヲ有スルコトハ我國古來ノ慣習ニシテ本院ニ於テモ明治二十一年第四百八號上告事件ニ對シ言渡サレタル判決ヲ以テ此慣習アルコトヲ見認メラレタリ本件亡菅沼テフハ元ト倉地治郎八ナル者ノ女ニシテ上告人菅沼定正ノ家ニ嫁シ同家ヨリ分家シタル者ニシテ而シテ上告人菅沼定正ハ亡菅沼テフノ本家ノ戸主ニシテテフノ子ニ當ル者ナレハ分家ノ戸主ニシテ且ツ母タル亡菅沼テフカ死亡ニ相續人ノレナキ場合ニ在テハ其相續人撰定ニ關シテフノ實家ノ親屬タル被上告人ニ優ル主宰權ヲ有スルコト勿論ナリ故ニ上告人菅沼ニ於ケルテフノ親屬ハ協議シ上告人菅沼タケヲ以テテフノ相續人ニ撰定シタルハ固ヨリ當然ナリ然ルニ原院ハ被上告人ニ協議シタリトノ事實ヲ見認ム可キ證據ナシトシテ(本件相續人ノ撰定ハ不當ニシテ其相續届モ不當タルヲ免レスト判決シタルハ古來ノ慣習及ヒ本院ノ判例ニ反スル不當ノ判決ナリト謂フニ在レトモ)〇單身戸主カ死亡シテ其家督相續人ナキ場合ニ於テハ其親族ハ協議ニ依リ之ヲ選定スルヲ以テ本邦ノ慣習トス而シテ本件ノ如ク其戸主タルヤ元ト婚姻ニ因リテ他家ニ入り其後婚家ヨリ分レテ一家ヲ創立シタル者ナルトキハ本家筋ハ親族及ヒ其實方ノ親族ハ協議ニ依リ相續人ヲ選定セサルヘカラス然レハ縱令本家ノ戸主ナレ

判旨第一點

相続人ノ選定〇判決ノ言渡

ハトテ分家ノ家督相續人ノ選定ニ付キ亡戸主ノ實方ノ親族ヲ關キ專斷事ヲ處スルノ權利即チ上告人ノ所謂主宰權ナルモノヲ有スルノ慣習アルニ非ス而シテ上告代理人カ引用スル明治二十一年第四百八號上告事件ニ對スル本院判決ニ掲ケタル事實ハ養子カ養家ヨリ分家シタル場合ニシテ本件ノ事實ト大ニ異ナルモノアルヲ以テ本件ノ場合ニ該判決ヲ引用シテ原判決ヲ論難スルハ其當ヲ得ス

其第二ハ(判決ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直ニ指定スル期日ニ於テ之ヲ言渡ス)ト民事訴訟法第二百三十三條ノ規定スル處ナリ然ラハ則チ口頭辯論ノ終結スル期日ニ言渡サス又直チニ指定スル期日ニ言渡サ、ル場合ニハ必ス辯論ヲ再開シテ其終結スル期日又ハ直チニ指定スル期日ニ言渡サ、ル可カラサルヲ勿論ナリ原院ニ於テ本件口頭辯論ノ終結シタルハ明治三十年二月二十六日ニシテ其判決ハ明治三十年三月一日ヲ以テ言渡ス可キ旨直チニ指定シ置キナカラ同日判決ヲ言渡サ、ルニ拘ハラズ辯論ヲ再開セスシテ明治三十年三月五日ヲ以テ判決ヲ言渡シタルハ詔ユル民事訴訟法第二百三十三條ニ反スル不當ノ判決ナリト謂フニ在レトモ(原院辯論調書ヲ閱スルニ明治三十年三月一日正午十二時前同ト同一ノ列寧列席公開ス裁判長ハ本件ノ判決言渡ヲ來ル五日正午十二時マテ延期ス)トアリテ原院ハ更ニ認廷ヲ公開シテ判決言渡ノ期日ヲ指定シタルコト瞭然タリ而シテ縱令口頭辯論終結ノ日ニ指定シタル當日ニ判決ハ言渡チ爲カス其後ニ認廷ヲ公開シテ指定シタル日ニ之ヲ言渡シタルモ不法ニアラス以上駁明スル如ク上告理由ハ一モ原判決ヲ破毀スルニ足ルヘキモノナキヲ以テ民事訴訟法第

判旨第二點

四百三十九條ノ規定ニ依リ主文ノ判決ヲ爲ス

〇養水使用爭論ノ件

明治三十年第四百五十四號
明治三十年六月二十三日第二民事部判決

〇判決要旨

一 養水ニ必要ナル樋管土手其他ノ工事ニ關スル費用ヲ町村内ノ部落全體ニ於テ負擔シタル以上ハ其水路ハ町村制第百十四條ニ所謂營造物ナリトス(判旨第一點)

(參照) 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設ケルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得(町村制第百十四條)

町村ノ營造物

第一審 德島地方裁判所 第二審 大阪控訴院

町村ノ營造物

上告人 佐藤彦太郎 訴訟代理人 岸澤孝太郎
外百九名
被上告人 鉦本利平 外二十九名

右當事者間ノ養水使用爭論事件ニ付大阪控訴院カ明治三十年二月九日言渡シタル判決ニ對シ
上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ上告人ハ原院ニ於テ本件係争養水ハ土地ニ屬スルモノナレハ大字地主ノ共
同財産ナリト申立タリ然ルニ原院カ上告人ノ陳述ノ一部及證據書類ノ二三ヲ徵憑トシテ係争
ノ養水ハ各大字ノ所有財産ニシテ即チ町村制第百十四條ニ規定スル區ノ特有財産ナルコト明
カナリト判定シタルハ法律ニ違背シテ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリ蓋シ田地養水ノ使用
權ハ固ヨリ其引用地々主ニ專屬スルモノニシテ假令借地人小作人ト雖トモ地主トノ契約アル
ニ依テ初メテ養水ヲ使用スルヲ得ル外自ラ獨立シテ其使用權ヲ有スルニ非サルハ言テ俟タス
故ニ町村内ノ一部落カ特ニ部落ノ財産トシテ土地ヲ所有スル場合ノ外養水使用權ヲ有スヘキ
答ナキハ明白ナル條理ニシテ假令當事者ノ陳述及證據ニ於テ部落全體ノ養水使用權ナリト謂
フト雖トモ其權利ノ性質上之ヲ部落ノ權利ト謂フヲ得ス之レ原判決ノ不法ナル所以ナリト云

判旨第一點

フニアルモ○原判決ハ上告人ニ於テ係争物ハ雙方何レモ大字全體ノ物ニシテ其工事費ハ村民
ニ於テ負擔シ又明治二十五年洪水後復舊工事ニ付村會ノ議決ヲ經テ地方稅ノ補助ヲ受ケタリ
ト供述スルノミナラス其提出スル甲第四號九號十一號證ニ徵スレハ係争養水中當事者雙方ノ
組合事業ト爲シタル個所アリテ其工事費賦課ヲ村會ニ委託シ又復舊工事ニ關シ村會ノ議決ヲ經
テ地方稅ノ補助ヲ受タル等町村制第百十四條ニ相當スル事迹明確ナルニヨリ該條並ニ第百十
五條第六十八條ニ依リ處置スヘキモノト爲シタルニアリテ養水使用權ノ如何ニ依リ判斷シタ
ルニアラサルヤ原判決其自體ニ照ラシ明了ナレハ原判決ハ養水ノ性質ヲ誤リタルモノニコレ
ナク從テ上告人結論スル如キ不法アルモノニアラストス如何トナレハ養水使用權ハ田地所有
者ニ屬スヘキハ言テ俟タサル所ナルモ其養水ハ流過ニ必要ナル器具即樋管土手其他一切ハ工
事ニ關スル費用ヲ部落全體ニ於テ之ヲ負擔シタル形跡アル以上ハ町村制第百十四條ニ所謂區
ノ營造物ニ該當スルヤ勿論ナレハ該條其他第百十五條第六十八條ノ支配ノ受カヘキコト當然
ニシテ決シテ養水使用者ノ自由ニ任カスヘキモノニアラサレハナリ由是看之原裁判所カ前掲
ノ理由ニヨリ上告人ノ訴ヲ棄却シタルハ相當ニシテ上告人論スル所ハ其理由ナシトス
同第二點ハ又原院ハ本件ノ養水使用權ヲ目シテ町村制ニ所謂區ノ特有財産ナリト爲シタルト
モ養水使用權ハ一種ノ財産上ノ權利タルニ相違ナシト雖モ元來法律上價值ヲ有スヘキ所謂財
産ニ非ルハ勿論ナリ然ルニ原院カ本件養水使用權ヲ以テ土地又ハ營造物ノ如キ財産ト同視シ
町村制第百十四條ニ規定スル區ノ特有財産ナリト判定シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法

町村ノ營造物

ノ裁判ナリト信スト云フニアリ○按スルニ原裁判ニ於テ係争養水ヲ指テ直ニ區ノ特有財産ト爲シタルハ聊カ穩當ナラスト雖モ該養水ハ區民ノ共同工事ニヨリ流過スルモノニシテ自然ノ流水ニアラサルコト前第一點ニ說明スルカ如クナル以上ノ其水路ハ町村制第一百四條ニ所謂營造物ニ適當シ本件ハ之ヲ要スルニ右營造物ノ使用權利ヲ争フモノニ係リ結局同一ニ歸スルヲ以テ原判決ヲ不法トスヘキ限ニアラス如何トナレハ財産ト云ヒ營造物ト云ヒ等シク村長ノ管理ニ屬スルモノナレハ本案ノ權利上毫モ影響スヘキ事柄ニアラサレハナリ故ニ此點ノ上告論旨亦其理由ナシトス

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

○借用金精算過渡金取戻請求ノ件

明治二十九年第五百二十一號
明治三十年六月二十九日第一民事部判決

○判決要旨

一 貸借契約ニ於テ當事者カ一年毎ニ元利金ヲ精算シテ借用證書ヲ書改メ利金ヲ元金ニ組込ムハ普通有リ得ヘキ事柄ナルニ之ヲ異常ノ事柄ナリトシテ其事實

ノ主張者ニ立證ノ責ヲ負ハシメタルハ不法ナリ(判旨第二點)

第一審 大津地方裁判所 第二審 大阪控訴院

上告人 小野トセ 訴訟代理人 高野榮太郎

被上告人 千葉重吉 訴訟代理人 龜崎浪重

右當事者間ノ借用金精算過渡金取戻請求事件ニ付大阪控訴院ハ明治二十九年十月三十一日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

理由

上告理由ノ第二ハ原判決ニ控訴人之ヲ否認スル上ハ被控訴人ヨリ立證セサル可カラストアリ是レ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ何トナレハ被上告人モ第一審訴狀ニ明記スル如ク上告人ハ金千六百圓ヲ返済スル爲メ小野藤平ヨリ借受ケ返済シタル者ナリト云フ以上ハ當時精算ヲ送ケ證書ノ返戻ヲ受ケ完済セシ者ト視ルハ普通ノ事實ニシテ被上告人ヨリ其證書等ヲ提出シ反テ異狀ノ立證ヲ爲ス責任アル者ナリ然ルニ立證ノ責ヲ上告人ニ負ハシメタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル者ナリト謂フニ在リ○今ハ原判決ヲ閱スルニ其理由ノ部ニ(前略)被控訴人ハ乙第一號證ノ如ク毎一年末元利精算ノ上證書ヲ書改メ來リ明治二十六年七月中迄ノ滯滞元利

判旨第二點

金千六百拾參圓六十八錢ト爲リタルヲ千六百圓ニ切捨勘辨シ既ニ精算濟ミナリト抗辯スルモ
 毎元利ヲ精算シテ證書ヲ修改メ其結果利ニ付スル如キ事實ハ固ト異常ノ事柄ニ屬スル
 ナリテ控訴人之レヲ否認スル上ハ被控訴人ヨリ立證セサル可カラズ云々トアレトモ貸借契約
 ハ當事者カ一年毎ニ元利金ヲ精算シテ借用證書ヲ書改メ利金ヲ元金ニ組込ムカ如キ事實ハ普
 通有リ得ヘキ事柄ニシテ之ヲ以テ異常ハ事柄ニ屬スルモハト謂フヘカラス而シテ被上告人ハ
 本訴ニ依リ一旦支拂ヒタル金額中過渡金アリト主張シテ其取戻ヲ請求スル者ナレハ既ニ其支
 拂ヒタル金額ニシテ過渡ニ屬スルモノアル事由ヲ立證スル責任アルヘキ筈ナルニ原院カ却テ
 前述普通有リ得ヘキ事柄ヲ以テ異常ノ事柄ナリトシ上告人ニ其立證ノ責ヲ負ハシメタルハ上
 告論旨ノ如ク原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免カレサルモノトス
 以上説明シタル如クナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百
 四十八條ニ依リ事件ヲ原院ヘ差戻ス
 既ニ上告理由ノ第二ニ因リ原判決ヲ破毀シタル以上ハ他ノ上告理由ニ付キ逐一説明スルノ要
 ナシ

○宗義綱要中へ四個格言及謗法嚴戒ノ二題編入義務確認請求ノ件

明治三十年第六十九號
 明治三十年六月三十日第二民事部判決

○判決要旨

一 宗教部内ノ紛議ニ基ク争訟ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニアラス(判旨第一點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
 上告人 板垣日暎 訴訟代理人 磯部貞藏
 被上告人 大谷光尊

右當事者間ノ宗義綱要中へ四個格言及謗法嚴戒ノ二題編入義務確認請求事件ニ付東京控訴院
 カ明治三十年三月二十九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲
 シタリ

判 決
 本件上告ハ之ヲ棄却ス
 理 由

上告第一論旨ハ原判決ノ理由ヲ閱スルニ其要旨ハ佛教各宗協會ナルモノハ佛教ノ興隆ヲ希圖
 宗教部内ノ紛議ニ基ク争訟

シテ設立セラレタルモノナレハ本件佛教各宗綱要ノ編纂モ亦單ニ佛教ノ普及ヲ謀ルニ過キサルコトハ明白ナレハ私法上ノ權利義務ヲ發生スヘキ意思ヲ以テ議定シタリト認ムルコトヲ得ス故ニ本件ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニアラスト云フニアレトモ右ハ全ク司法裁判所ノ管轄權ヲ誤解シ且ツ私法上權利義務ノ發生スヘキ原因ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス抑各宗協會ナルモノハ佛教ノ興隆ヲ希圖シ其目的ヲ以テ議定シタルモノタルコトハ勿論ナリト雖モ右ノ如ク空没タル目的ノミチ以テ成立シタルモノニアラスシテ佛教ノ要旨ヲ宗教家以外一般ノ人民ニ和ラシメ進シテハ外國人ニマテ之ヲ了解セシムルノ目的ナルコトハ甲號各證ノ明示スル所ナリ然ノミナラス場合ニ依リテハ各宗ヲ代表シテ政府ノ諮問ヲ受ケ若クハ請願建議ヲ爲シ又ハ他人ノ間ニ生シタル紛争ヲ審案シ之カ調和ノ方法ヲ講スル等ノ如キ事實ヲ爲スコトハ被告上告人ノ提出ニ係ル各宗協會規約ニ於テモ明ナル處ナリトス果シテ然ラハ佛教各宗協會ナルモノハ原判決ノ如ク單一ニ佛教ノ興隆ノミチ以テ目的トシタルモノニアラスシテ世上ノ出來事ニモ容喙スヘキ事柄ヲモ包含スル處ノモノニシテ民法ノ所謂社團法人ノ性質ヲ具有スルモノナリ故ニ其目的ノ上ニ於テモ原判決ハ大ナル誤謬ヲ免レサルモノトス然ノミナラス假ニ數步ヲ讓リ該協會ハ佛法ノ興隆ノミチ以テ目的ト爲スモノナリトスルモ其成立ノ上ニ於テ社團法人ト同様ノ性質ヲ具備スル以上ハ民法ノ支配ヲ受クヘキモノニシテ之ニ關係セル人員間ノ相互ノ契約ハ即チ司法裁判所ノ管轄ニ屬スルコト論ヲ俟タス(改正民法第三十四條以下參照)猶數步ヲ讓リ各宗協會ノ目的ハ純然タル宗教ノ興隆ニアリトスルモ協會以內

ニ在テ各人ノ契約スル處ノモノハ私法上ノ關係ヲ生スルコト言テ俟タス原判決ノ理由ヲシテ若シ完全ナルモノトセハ協會ト書林ト名宗綱要ノ賣捌契約ヲ爲スモ其履行又ハ代金請求ノ如キ事柄ニ關シテ司法裁判所ハ之カ管轄ヲ爲サスト云フノ外ナク又協會ニ使役セラルル處ノ小使等ハ私法上ノ權利トシテ其給料ヲモ要求スルコト能ハサルニ至ルヘシ斯ノ如キ不條理ノ事ナキハ最モ明白ナル處ノモノナレハ原判決理由ノ不當ナルコト推シテ知ルヘキナリ又各宗代表シテ政府ノ諮問ヲ受ケ又ハ他人ノ紛争ヲ調和スル等ノ事柄ニ關シテ原院ニ於テ申立ナシトノ説モアラン果シテ然リトセハ上告人ハ進シテ論セントス曰ク原院ハ當事者ノ申立サル事柄ヲ以テ判決ヲ與ヘラレタルモノナリト被告上告人ハ原院ニ於テ未タ管テ原院ノ判決セラレタル如キ主旨ヲ以テ妨訴抗辯ヲ爲シタルコトナシ然ルニモ拘ラス原院ハ私法上ノ權利義務ヲ生スヘキモノニアラスト判決セラレタリ右ハ一方ヨリ論スルトキハ當事者ノ申立以外ノ點ヲ以テ判決セラレタル不當ヲ免レサルモノトス然レトモ本件ノ判決ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スルヤ否ノ點ヲ以テ判決セラレタルモノナルカ故職權調査ニ依ラレタルモノナラン果シテ職權調査ニ依ラレタルモノトセハ職權上ニ於テ協會ノ目的全部ヲ調査シ如何ナル事柄ヲ目的トシテ成立シタルモノナルヤノ點ニ就テハ假令當事者ノ申立ナシトスルモ原院ノ引用セラレタル證據書類ニ記載ノ事柄ハ總テ之ヲ調査シ以テ其決定ヲ與ヘラレサル可ラス故ニ他人間ノ紛争ヲ審案調和スルカ如キ宗教ノ興隆以外ノ事柄ヲモ目的ト爲シタルモノナリトノコトハ原院ノ職權上認知スヘキ事柄ナリトス然ルニ斯ノ如キ要點ヲ遺脱セラレタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ

判旨第一點

在レトモ○佛教各宗協會ノ目的及ヒ各宗綱要編纂ノ事業カ宗務ノ範圍ヲ出テナルヤ否ヤニ關スル判定ニシテ當事者ノ意思ニ因ルモノハ事實上ノ問題ニ屬シ本院ニ於テ其當否ヲ審査スヘキ限リニアラス而シテ上告人ハ該協會ハ一ノ社團法人ナルカ故ニ民法ノ支配ヲ受クヘキモノナリトノ理由ヲ根據トシ種々論議スル處アルニ因リ姑ク該協會ヲ以テ社團法人ノ性質ヲ具有スルモノト假定スルモ法人ナルカ故ニ其所爲ノ何タルヲ問ハス總テ司法裁判所ニ於テ其理非曲直ヲ判斷スヘシトノ理由ヲ生セス司法裁判所ハ其争訟カ民法上ノ權利義務ニ關係スルトキニ限リ之ヲ判斷スヘキモノハニシテ其他ハ協合即チ民法上ノ權義ニ關係ナク單ニ宗教部内ノ紛議ニ基カトキハ之ニ對シテ判斷ヲ與フヘキモノニアラス今原判文ニ就テ本件ノ事實關係佛教各宗協會ナルモノノ性質ヲ既キ尋テ當時協會員タルモノハ本件佛教各宗綱要編纂ニ付議定シタル規定其他編纂方法等ニ關シ毫末モ私法上ノ權利義務ヲ發生セシムヘキ意思ナカリシコトハ疑チ容レサル所ニシテ云々ト説明シ尙ホ之ヲ要スルニ佛教各宗綱要編纂ニ關シテハ協會員ハ勿論編輯員ト雖モ何レモ一意佛教ノ興隆ヲ冀圖スルニ在リテ毫モ私法上ノ權利義務ヲ發生セシムヘキ意思ナキモノナレハ該編纂事業タル全ク佛教ノ宗務ヲ目的トスルモノナリ云々ト説明シアルニ因リ本訴ハ表面代理ノ形式ヲ存スルニ拘ハラズ其實然タル宗教上ノ意見ノ衝突ニ外ナラサルモノト認定シタルコト明瞭ナリト去レハ協會ノ性質果シテ上告人如論ノ如キモノナリトスルモ既ニ其實際ノ所爲即チ各宗綱要ノ編纂事業カ當事者間ニ於テ民法上ノ權利義務ヲ發生セシムヘキ性質ノモノニアラサル以上司法裁判所ハ其所爲ノ可否ヲ判斷スヘキ

モノニアラス隨テ原裁判所カ上告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ相當ニシテ原判決ハ不法ニアラサルコトヲ認知セラル可シ又上告人ハ協會ノ目的事業ニ就テハ原裁判所ハ假令上告人ヨリ申立ナシトスルモ證據書類ヲ調査シ之ヲ認知スヘキモノナリトノ主旨ニテ原判決ヲ非難スルモ其目的事業カ孰レニ存スルヤハ事業上ノ問題ニシテ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ限リニアラス故ニ原裁判所ハ上告人ノ申立ナキ以上之ニ判斷ヲ與フル責務ナシ之ヲ要スルニ本論旨後段ハ民事訴訟法ノ口頭辯論主義ヲ無視シタル論告ニシテ是亦採用スルコトヲ得ス旁此點ノ上告論旨ハ總テ其理由ナシ

同第二論旨ハ原判決ハ法則ヲ適用セス且理由不備ナル違法ノ裁判ナリ原院ニ於テ上告人ノ控訴ヲ棄却セラレタル裁判ノ理由トスル所ハ上告ノ請求ハ宗務ニ關シ起リタル争議ナルヲ以テ司法裁判所ノ管轄ス可キ事件ニ非ス故ニ其訴ハ之ヲ却下スヘキモノナリ而シテ第一審判決主文ト此裁判ト結局同一ニ論スルヲ以テ控訴ハ之ヲ棄却スヘキモノナリト云フニ在リ此裁判ハ違法ナリ夫レ事業ノ冀圖ト其冀圖ニ違スル方法トハ各其性質ヲ異ニスル場合アリ若シ冀圖ト方法ト必ス其性質ヲ同フスルモノナルニ於テハ原院カ本件争訟ヲ宗務ノモノト判斷セラレタルハ至當ナルヘシト雖モ只其宗務ニ關係アリト云フヲ以テ直チニ私法上ノ權利ヲ發生セシムヘキモノニ非スト判定スヘカラス原院カ判決ノ理由ニ引用セラレタル第二號證佛教各宗協會規約第五條ニ依ルモ本會ハ協同各宗派ニ通貫スル諸般ノ事件ニ付其利害ヲ審議決定ストアリテ即チ該協會自體ノ性質ニ於テモ私法上ノ權利義務ヲ發生セシムヘキ目的ヲ包含スルノミナ

ラス本件争訟ノ原因タル編纂事業ニ在テハ被上告人ハ該協會ノ委任ニ因リ佛教各宗綱要ナル
 書冊ヲ編纂スルノ事務ヲ受諾シタルモノナリ而シテ其事務ノ履行ニ關シ甲第二號證各宗綱要
 編纂方法及ヒ甲第三號證各宗綱要起草凡例ヲ作成シ之ニ因リテ受任者ハ見本ヲ原稿起草者ニ
 示シ其校閱訂正ヲ求ムヘキ事ヲ約束シタルモノナリ是レ原院口頭辯論調書控訴代理人事實關
 係陳述ノ部ニ一部ノ見本ヲ作成シテ原稿ヲ起セシ者ノ校閱訂正ヲ求ムヘキ答ノモノナリトア
 リ被控訴人默雷並ニ實金代理人ノ陳述ニ其他ノ事實ハ控訴人ノ申立ル通りナリトアリ被控訴
 人大谷光尊代理人ノ陳述ニ妨訴抗辯ニ關スル申立ノ外大體ノ事實關係ハ控訴人ノ申立通りナ
 リトアリテ當事者間ニ争ヒナキ事實ナリ即チ社團法人ノ委任ニ因リ一個人カ書籍ノ編纂出版
 ナ受諾シタル行爲ハ單純ナル委任契約ノ事實ニシテ假令其目的カ宗教ニ關スルモノナルモ之
 ナ民事ニ非スト云フヘカラス何トナレハ書籍編纂ノ受任者カ其受諾ニ反シ委任事務ノ處理ヲ
 爲サルトキハ委任者ハ契約ノ履行ヲ請求スルヲ得ヘク其他委任者及其受任者ノ各種ノ權利
 義務ハ委託及ヒ承諾ノ行ハレタル時ニ於テ其効力ヲ生スルモノニシテ其書籍カ宗教ニ關スル
 モノナルト否トハ此効力ヲ發生スルニ付キ更ニ異別ナケレハナリ若シ其書籍カ宗教ニ關スル
 モノナルニ於テハ右ノ委任ハ私法上ノ權利義務ヲ生スルモノニ非ストセン乎社團ニ關スル諸
 般ノ事件ハ結局宗教ニ關スルモノナルヲ以テ私法上ノ權利義務ヲ生セスト云ハサルヘカラサ
 ルニ社團ハ財産ヲ所有シ其總代ハ民事訴訟ヲ爲ス權利ヲ有ス故ニ假令ヒ其書籍カ宗教ニ關ス
 ルモノナルモ其編纂事務委任ノ行爲カ民事ノ契約ニ非スト云フヲ得サルナリ即チ本件係争ノ

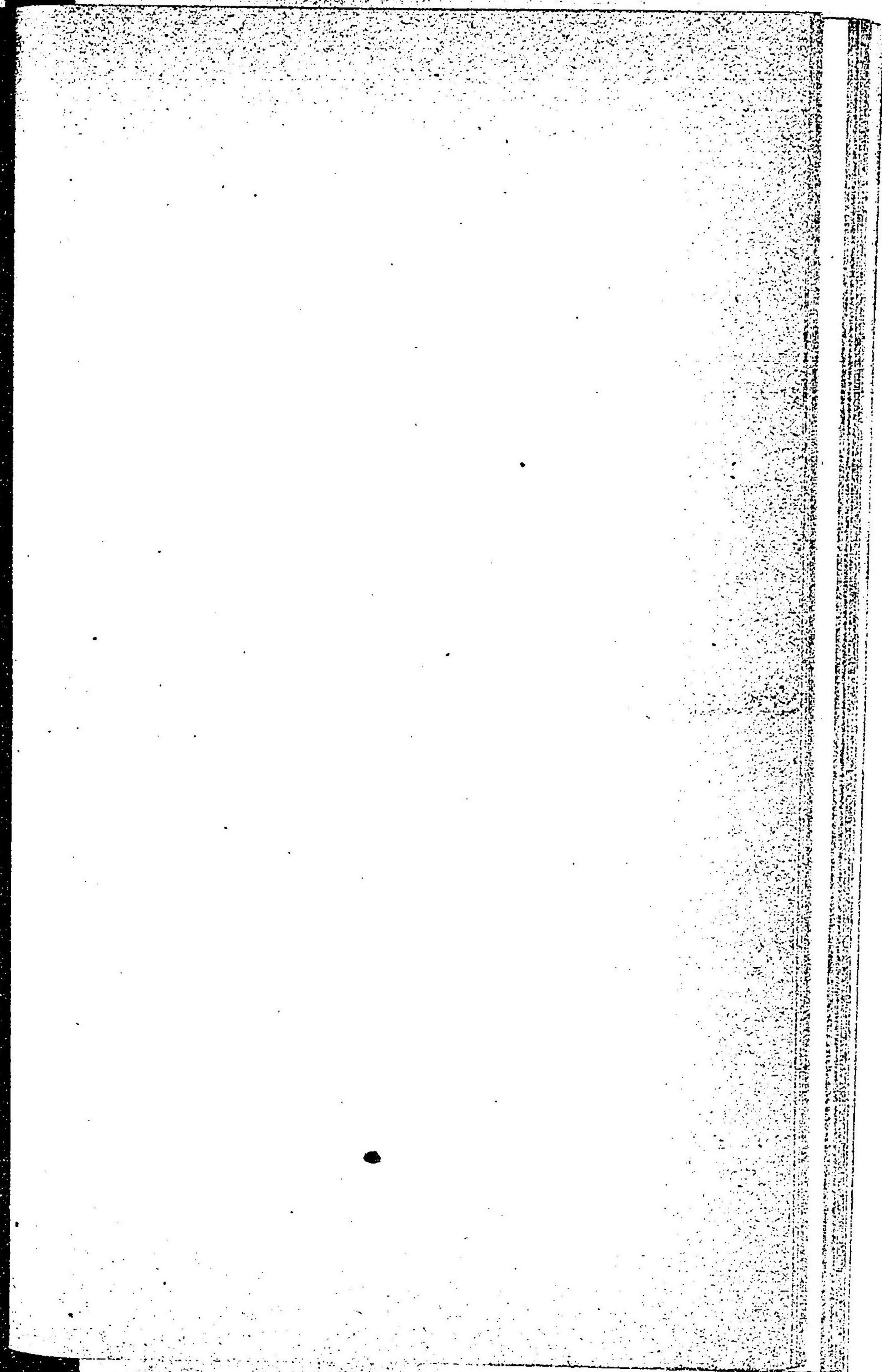
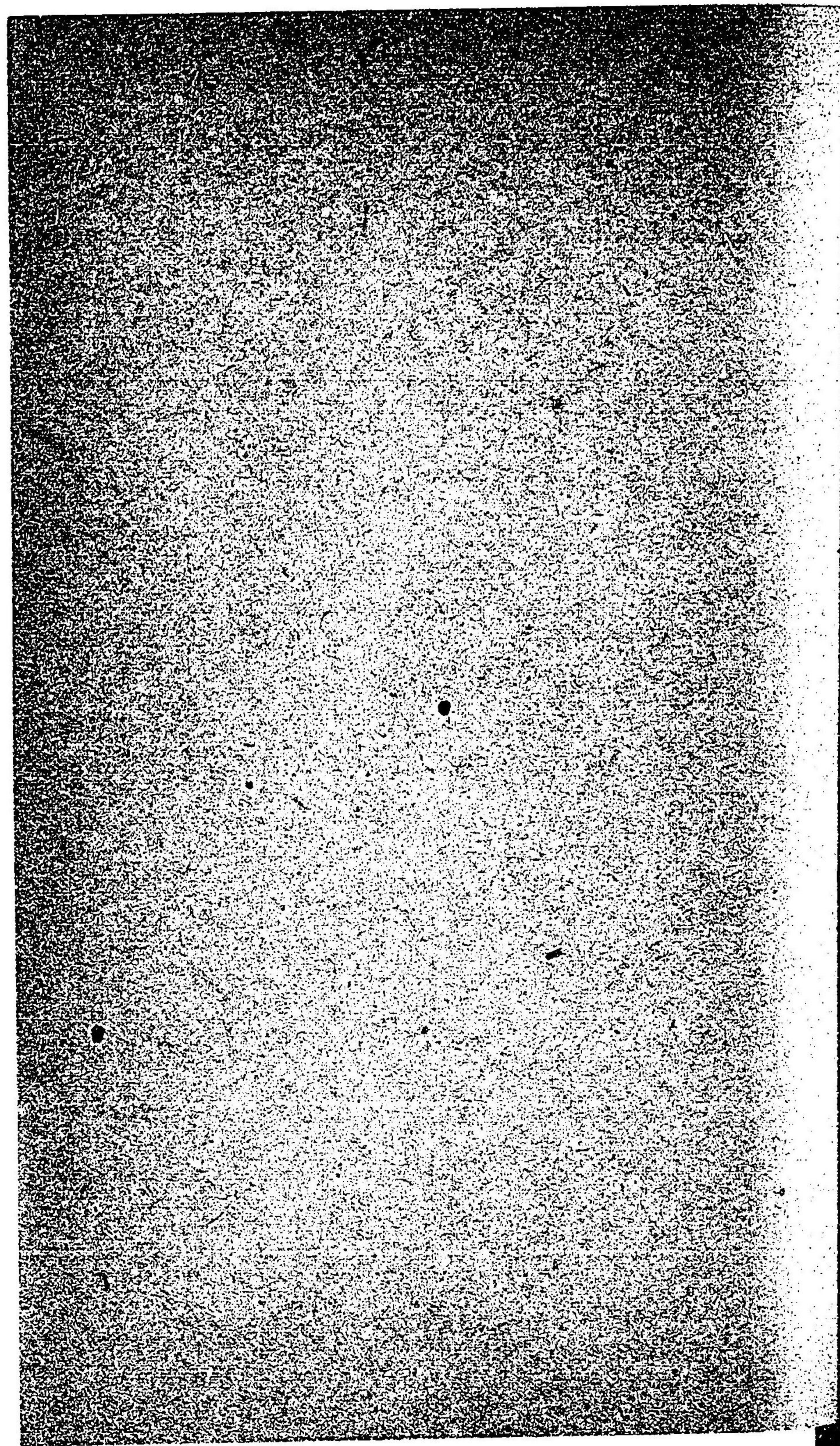
事實ニ於テ原院カ佛教ノ興隆ト稱セラレタルハ事實ノ範圍ニシテ而シテ各宗綱要編纂ハ範圍
 ニ達スル方法ノ一ナリ而シテ冀圖ト方法ト其性質ヲ異ニシテ一ハ私權ヲ生セサルモ他ハ之ヲ
 生スル場合アルコト上陳ノ如クナル以上ハ冀圖ノ性質ヲ以テ直チニ方法タル委任契約ノ行爲
 カ私權ヲ生セストセラレタルハ即チ争訟ノ事實ニ對シ委任契約ノ法則ヲ適用セサルモノナリ又
 原院判決ニ從テ被上告人島地默雷津實全カ編輯事務ノ任ニ就キタル事實ニ關スル裁判ヲ見
 ルニ拂教各宗綱要編纂ニ關シテハ協會員ハ勿論編輯員ト雖モ何レモ一憲佛教ノ興隆ヲ冀圖ス
 ルニ在リテ私法上ノ權利ヲ發生セシムヘキ意思ナキモノナレハ該編纂事業タル全ク佛教
 ノ宗務ヲ目的トスルモノトアリ且被控訴人島地默雷津實全モ該編纂事業ヲ贊成シトアリ此
 理由ハ協會ト編纂員トノ間ノ關係ヲ以テ單ニ幫助ノ行爲ト爲シ其事業ノ任ニ當リタルハ冀圖
 ナ全クソスルニ因ルモノト爲シ而シテ其責任ハ私法上ノ權利義務ヲ發生セシムヘキ意思ナカリ
 シモノト判定スルニ在ルヲ以テ之ヲ換言スレハ委任者及ヒ受任者ノ冀圖カ共ニ佛教ノ興隆ニ
 在ルモノナレハ受任者カ事務ノ任ニ當リタルモ其任務ヲ履行スルヲ要セス委任者ハ唯々相手
 方ノ隨意ニ從フヘキモノナリト云フニ在リ何トナレハ右ノ行爲ヲ以テ私法上ノ權利義務ヲ發
 生スルモノニ非ストスル以上ハ委任者ハ受任者ニ對シ委任事務ノ履行ヲ強要スルヲ得サレハ
 ナリ若シ相手方ノ隨意ニ從フモノナルニ於テハ甲第二號證甲第三號證ノ作成及ヒ前陳校閱訂
 正ノ事實等總テ不要ニ屬スル條理ナルニ其事實ノ之ニ反スルヲ以テ當事者ハ互ニ遵守スヘキ
 一ノ約束ヲ爲シ此約束ハ強要ノ効力ヲ生セシムル意思ヲ有シタルモノト云ハサルヘカラス然

ルニ原院ハ斯ノ如キ理由ヲ以テ裁判ノ根據トセラレタルヲ以テ此點ヨリスルトキハ該判決ハ理由ノ具備セサル違法アリト云フニ在レド○原判決文ヲ閱スルニ原裁判所ハ數多ノ證據書類ヲ參酌シ各宗協會設立ノ目的及ヒ綱要編纂ノ事業共ニ宗教ノ範圍外ニ出サルモノト判定シアルニ因リ上告所論ノ如ク黨圖ノ性質ヲ以テ直チニ方法ノ性質ト爲シ黨圖ト方法トチ一概ニ混同視シテ本件ノ事實關係ヲ誤認シタルモノニアラス其他原判決ニ對シ種々非難スル處アルモ總シ原裁判所ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ニ付キ意見ヲ異ニスルヨリ之ニ對シ苦情ヲ陳スルニ過キサルヲ以テ上告理由トシテ採用スルニ足ラス

同第三論旨ハ原裁判ハ私權ノ範圍ヲ誤解シタル不法ノ判決ナリ其一、佛教各宗協會規約ハ改正民法ニ於テ既定セラル、如ク社團法人タル條件ヲ具備スル而已ニ止マラス同規約中ニ經費徵收法アリ又佛教各宗綱要編輯案第八條ニ於テ編輯費ノ金額ヲ豫定シ加フルニ會費ノ分擔法マテモ定メアリ是ニ依テ之ヲ看ルモ私法上ノ關係アルヤ明カナリ若シ夫レ此場合ニモ私法上ノ關係ナシトセハ協會經費ノ如キ一ツモ徵收スル能ハサルコトノ不都合ヲ生スヘシ況ンヤ規約其者ノ名稱ヲ看ルモ豈ニ私法上ノ關係ナシト云フヲ得ンヤ其二假リニ以上ノ論旨ニ於テハ一步ヲ譲リ佛教各宗協會規約佛教各宗綱要編纂案ノ趣旨ハ原裁判ノ云フ如ク專ラ佛教ノ隆盛ヲ計ルカ爲メニアレハ當事者ノ意思私法上ノ關係ヲ生セサルニアリトスルモ這ハ多クノ場合ニハ或ハ其レ然ラン然レトモ佛教各宗協會規約ハ常ニ徹頭徹尾私法上ノ關係ヲ生セサルモノトハ推斷スル能ハサルヘシ本件訴訟ハ佛教各宗綱要編纂上ニ付テノ争ナリ各宗綱要編纂ノ如キ

入ニテモ編輯シ得ヘク必スシモ宗教人ノ手ヲ要スルモノニアラス偶々宗教家カ編纂スルカ爲者クハ私法上ノ關係ナキ協會カ編纂スルカ爲メニ私權ノ關係ナシト云フハ恰モ其人ニ依テ其物ノ性質ヲ定ムルモノニシテ不當モ甚シキモノナリ以上二個ノ理由ニヨリ原裁判所カ本件ヲ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニアラスト判決セラレタルハ私權ノ區域ヲ誤リタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ費用ノ分擔出資ノ要求等財産上ノ關係ニ就テモ亦司法裁判所ニ於テ裁判スヘキモノニアラスト判定シタルコト無シ又協會規約ハ常ニ私法上ノ關係ヲ生セスト判定シタルモノニアラス又宗教家カ編纂員タリシ爲メ私權ヲ生セスト判定シタルモノニモアラス係争ノ事實關係ニ付キ當事者雙方ニ於テ權利義務ヲ發生セシムルノ意思ナキニ因ルモノナリト判定シ其結果司法裁判所ニテ判斷ス可キモノニアラスト論決シタル次第ナルヲ以テ此上告論旨ハ第一第二共ニ原判決理由ノ誤解ニ屬シ是亦上告理由トシテ採用スルニ由シ無キモノトス

上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス



總目録

民法

丁數

出訴期限規則ヲ援用スル者ハ歲月經過ノ爲メ債務辨濟ノ事實ヲ證明シ能ハサル旨ヲ陳述スルヲ要ストノ事.....一

數人共謀シテ一ノ不法行爲ヲ爲シタルトキ其中一名ニ對シ訴ヲ提起シ更ニ他ノ數名ニ對シ訴フルモ訴訟ハ共ニ有効ナリトノ事.....六

遺言ニ依リ相續人選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ストノ事.....九

寺院ノ權利伸暢ヲ目的トセル訴訟ハ住職ニ於テ之ヲ代表スヘキモノナリトノ事.....一九

商法

米穀取引所仲買人ニ對シ命シタル營業停止處分取消ノ訴訟ニ付キ證據金納入ヲ通知シタル事實ノ立證責任ニ關スル事.....二二

米穀取引所ニ對スル爭訟ハ其原因ノ何タルヲ問ハス司法裁判所ノ管轄ニ屬ス
トノ事.....三

民事訴訟法

民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢眞ヲ經タル私署證書ハ他ノ事件ニ於テ確
定ノ檢眞裁判ヲ受ケタルモノヲ指稱ストノ事.....
本案ノ判決ト同時ニ檢眞ニ付キ判斷ヲ與フルトキハ特ニ檢眞ニ付テノ主文ヲ
掲クルヲ要セストノ事.....

民事訴訟法第七百五十九條ニ因リ爲シタル假處分取消ノ申請ニ付テハ決定ヲ
以テ裁判スヘキモノニアラストノ事.....

明治十四年内務省乙第三十三號達

明治十四年内務省乙第三十三號達ノ願届等ノ文詞中ニハ普通ノ訴訟行爲ヲ包
含セストノ事.....

事件目錄

事 件	關係事項	判決 月日	番號	訴訟關係人	丁數
貸金辨償請求ノ件	出訴期限規則ノ採用、檢眞 ヲ經タル私署證書、檢眞ノ 判斷	一七日	五四號	上告人 保住源 被上告人 武田常七	一
新工事取拂損害要償ノ件	不法行爲者ニ對スル訴訟	二七日	八二號	上告人 中村直次外百十七名 被上告人 海老沼七之丞外百二十三名	六
相續取消復籍請求ノ件	相續人選定ノ委任	三七月	二四三號	上告人 上原彌造 被上告人 清水イキ外七名	九
營業停止處分取消ノ件	立證ノ責任、米穀取引所ニ 對スル訴訟ノ管轄	五七月	一九七號	上告人 大坂米穀取引所理事 被上告人 乾七居通夫 七外一名	二
地所處有權回復請求ノ件	明治十四年内務省乙第三十三號達ノ願届、寺院ノ訴訟代 表者	七七月	二八九號	上告人 坂田暢 被上告人 水谷長兵衛 慶外四名	元
地所登記請求ノ件	假處分取消申請ニ付テノ裁 判	廿七日	二九號	抗告人 伊藤サカ	三

いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從テ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サレハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラス人ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之はウチハウニ入ルカ如シ

[5]

委任

(相續人選定ノ委任)參看

遺言

(相續人選定ノ委任)參看

[は]

判断

(檢査ノ判断)參看

米穀取引所

米穀取引所ハ商法ノ規定ニ依リ株式組織ヲ以テ設立セル商會社タリ故ニ之ニ對スル訴訟ハ原因ノ何タルヲ問ハス司法裁判所ノ管轄ニ屬ス

[と]

取消ノ裁判

(假處分取消ノ裁判)參看

立證ノ責任

米穀取引所ニ於テ仲買人ニ對シ即時證據金ノ納入ヲ命スルハ特別規定ニ基ク臨時ノ處分ナルニ依リ特ニ其通知ヲ爲スヲ必要トス

いろは索引

丁數

九

九

一

二

三

二

[か]

假處分取消ノ裁判

民事訴訟法第七百五十九條ニ因リ爲シタル假處分取消ノ申請ニ付テハ同法第七百四十七條ニ從ヒ終局判決ヲ以テ裁判スヘキモノニシテ決定ヲ以テ裁判スヘキモノニアラス

代表者

(寺院ノ訴訟代表者)參看

訴訟

(不法行為者ニ對スル訴訟)(寺院ノ訴訟代表者)參看

相續人選定ノ委任

遺言ニ依リ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ス

[そ]

二

九

九

いろは索引

訴訟ノ管轄

(米穀取引所ニ對スル訴訟ノ管轄)參看

願届ノ文詞

(明治十四年内務省乙第三十三號達ノ解參看)

管轄

(米穀取引所ニ對スル訴訟ノ管轄)參看

檢眞ヲ經タル私署證書

民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢眞ヲ經タル私署證書トハ他ノ事件ニ於テ檢眞ノ裁判ヲ受ケ既ニ確定シタル私署證書ヲ指稱ス檢眞ノ判斷

本案ノ判決ト同時ニ檢眞ニ付キ判斷ヲ與フルトキハ特ニ檢眞ニ付テノ主文ヲ掲ルヲ要セス本案ノ判決ノ理由中其判斷ノ因テ生スル理由ヲ説明スレハ足レリ

不法行為者ニ對スル訴訟

數人共謀シテ一ノ不法行為ヲ爲シタルトキハ之レヨリ生スル責任ハ連帶義務ナルニ依リ始ニ其中一名ニ對シ訴ヲ提起シ更ラニ他ノ數名ニ對シ訴フルモ其訴訟ハ共ニ有効ナリ

援用

二

〔て〕

(出訴期限規則ノ援用)參看

停止處分ノ取消

(立證ノ責任)參看

〔め〕

明治十四年内務省乙第三十三號達

明治十四年内務省乙第三十三號達ノ願届等ノ文詞中ニハ普通ノ訴訟行為ヲ包含セサルモノト解釋スルヲ相當ナリトス

出訴期限規則ノ援用

出訴期限規則ヲ援用スル者ハ既ニ債務ヲ辨濟シタルモ數多ノ歲月經過ノ爲メ其事實ヲ證明シ能サル旨ヲ陳述スルヲ必要トス

私署證書

(檢眞ヲ經タル私署證書)參看

證據金ノ納入

(立證ノ責任)參看

寺院ノ訴訟代表者

寺院ノ權利ヲ伸暢スルヲ以テ目的トセル訴訟ハ住職ニ於テ之ヲ代表スヘキモノニシテ檀家又ハ信徒ハ其訴訟ニ附從スルヲ要セ

選定ノ委任

二 元

〔す〕

(相續人選定ノ委任)參看

責任

(立證ノ責任)參看

數人ノ不法行為

(不法行為者ニ對スル訴訟)參看

二 元

いろは索引

三

法
文
表

民事訴訟法

丁
數

三五一條……………一

七四七條……………三

七五九條……………三

明治十四年內務省乙第三十二號達……………九

法
文
表

月 日 目 録

判決月日	番 號	判決結果	原控訴院	丁 數
七月一日	二 千九 年 五 四 六 號	棄 却	東 京	一
七月二日	八 二 號	破 毀	東 京	六
七月三日	二 千九 年 五 四 三 號	棄 却	東 京	九
七月五日	一 九 七 號	棄 却	大 阪	二
七月七日	二 千九 年 二 八 二 號	破 毀	東 京	元
七月二十二日	二 九 號	廢 棄	東 京	三

總計 六件
 棄 却 三件
 破 毀 二件
 廢 棄 一件

月 日 目 録

人名音字目錄

人名	番號	原控訴院	丁數
〔イ〕 乾 金 七外一名 <small>被上告人</small>			三
伊藤 サ 方抗告 <small>抗告二九號</small>		東京	三
〔ほ〕 保住 源 輔對武田 常 七.....	<small>二十九</small> 五 四六號	東京	二
〔と〕 土居 通 夫對乾 金 七外一名.....	一九七號	大阪	三
〔を〕 岡田 德次郎外百十七名對海老沼 七之函外百二十三名八二號		東京	六
〔九〕 武田 常 七 <small>被上告人</small>			二
〔な〕 中村 直 次外百十七名對海老沼 七之函外百二十三名八二號	<small>二十九</small> 年	東京	六
〔う〕 上原 彌 造對清水 イ キ外七名.....	<small>五</small> 四 三號	東京	〇
〔え〕 海老沼 七之函外百二十三名 <small>被上告人</small>			六
〔さ〕 坂田 暢 慶外四名對水谷長兵衛.....	<small>二十九</small> 年 二八八號	東京	九
〔み〕 水谷長兵衛 <small>被上告人</small>			九
〔志〕 清水 イ キ外七名 <small>被上告人</small>			〇

人名音字目錄